

OpenTP1 Version 7

OpenTP1 メッセージキューイング機能

TP1/Message Queue メッセージ

操作書

3000-3-D91-50

前書き

■ 対象製品

マニュアル「TP1/Message Queue 使用の手引」を参照してください。

■ 輸出時の注意

本製品を輸出される場合には、外国為替及び外国貿易法の規制並びに米国輸出管理規則など外国の輸出関連法規をご確認の上、必要な手続きをお取りください。

なお、不明な場合は、弊社担当営業にお問い合わせください。

■ 商標類

HITACHI, HiRDB, JP1, OpenTP1, OSAS, ServerConductor, TPBroker, uCosminexus, XDM, XMAP は、株式会社日立製作所の商標または登録商標です。

AMD は、Advanced Micro Devices, Inc.の商標です。

IBM, AIX, MQSeries, WebSphere は、世界の多くの国で登録された International Business Machines Corporation の商標です。

Intel は、Intel Corporation またはその子会社の商標です。

Linux は、Linus Torvalds 氏の米国およびその他の国における登録商標です。

Microsoft, Visual C++, Visual Studio, Windows, Windows Server は、マイクロソフト 企業グループの商標です。

Oracle(R), Java, MySQL 及び NetSuite は、Oracle, その子会社及び関連会社の米国及びその他の国における登録商標です。

Red Hat, Red Hat Enterprise Linux, the Shadowman logo, and JBoss are registered trademarks of Red Hat, Inc. in the United States and other countries. Linux(R) is the registered trademark of Linus Torvalds in the U.S. and other countries.

UNIX は、The Open Group の登録商標です。

その他記載の会社名、製品名などは、それぞれの会社の商標もしくは登録商標です。

■ 発行

2024年1月 3000-3-D91-50

■ 著作権

All Rights Reserved. Copyright (C) 2006, 2024, Hitachi, Ltd.

変更内容

変更内容 (3000-3-D91-50) TP1/Message Queue 07-60

追加・変更内容	変更箇所
マニュアル訂正の内容を反映した。	—

単なる誤字・脱字などはお断りなく訂正しました。

変更内容 (3000-3-D91-40) TP1/Message Queue 07-53

追加・変更内容
次のメッセージを追加した。 KFCA31544-I, KFCA31545-I, KFCA31546-W, KFCA31547-W

変更内容 (3000-3-D91-31) TP1/Message Queue 07-52

追加・変更内容
対象製品の記載を、マニュアル「TP1/Message Queue 使用の手引」を参照する内容に変更した。
次のメッセージの説明を変更した。 KFCA16333-E
次のメッセージの説明を変更した。 KFCA31053-I, KFCA31054-I, KFCA31055-I, KFCA31056-I, KFCA31107-I, KFCA31108-I

変更内容 (3000-3-D91-30) TP1/Message Queue 07-52

追加・変更内容
次のメッセージの説明を変更した。 KFCA04223-E
次のメッセージの説明を変更した。 KFCA26185-E, KFCA26186-E
次のメッセージの説明を変更した。 KFCA30867-E
次のメッセージを追加した。 KFCA30930-E
次のメッセージを追加した。 KFCA31210-E, KFCA31211-E, KFCA31212-E, KFCA31213-E

変更内容 (3000-3-D91-20) TP1/Message Queue 07-50

追加・変更内容
Message Queue - Operation に関する記事を削除した。
次のメッセージを削除した。 KFCA30100-I, KFCA30101-I, KFCA30102-I, KFCA30103-E, KFCA30104-W, KFCA30105-E, KFCA30106-E, KFCA30107-E, KFCA30108-E, KFCA30109-E, KFCA30110-I, KFCA30111-I, KFCA30112-E, KFCA30120-I, KFCA30121-I, KFCA30122-E, KFCA30123-E, KFCA30124-E, KFCA30125-W, KFCA30126-I, KFCA30127-E, KFCA30128-E, KFCA30129-E, KFCA30130-I, KFCA30131-W, KFCA30132-E, KFCA30133-E, KFCA30134-E, KFCA30135-E, KFCA30136-W, KFCA30137-E, KFCA30143-E, KFCA30144-E, KFCA30145-E, KFCA30147-I, KFCA30148-I, KFCA30150-I, KFCA30151-E, KFCA30152-E, KFCA30153-E, KFCA30154-E, KFCA30155-E, KFCA30156-I, KFCA30157-I, KFCA30158-I, KFCA30159-I, KFCA30160-I, KFCA30161-I, KFCA30162-I, KFCA30163-I, KFCA30166-E, KFCA30167-W, KFCA30168-E, KFCA30169-I, KFCA30173-I, KFCA30176-E, KFCA30183-E, KFCA30184-E, KFCA30185-E, KFCA30186-E, KFCA30187-E, KFCA30188-E, KFCA30189-E, KFCA30190-E, KFCA30191-E, KFCA30192-E, KFCA30193-E, KFCA30194-E, KFCA30195-E, KFCA30196-E, KFCA30197-E, KFCA30198-E, KFCA30199-E, KFCA30202-E, KFCA30203-E, KFCA30204-E, KFCA30206-E, KFCA30207-E, KFCA30208-E, KFCA30209-E, KFCA30210-E, KFCA30211-E, KFCA30212-E, KFCA30213-E, KFCA30214-E, KFCA30215-E, KFCA30216-E, KFCA30217-E, KFCA30218-E, KFCA30219-E, KFCA30220-E, KFCA30221-E, KFCA30222-I, KFCA30223-I, KFCA30224-I, KFCA30225-I, KFCA30226-I, KFCA30227-I, KFCA30228-I, KFCA30229-I, KFCA30230-I, KFCA30231-I, KFCA30232-I, KFCA30233-I, KFCA30234-I, KFCA30235-I, KFCA30236-I, KFCA30237-I, KFCA30238-E, KFCA30239-E, KFCA30240-E, KFCA30241-E, KFCA30242-E, KFCA30243-E, KFCA30244-E, KFCA30245-E, KFCA30246-E, KFCA30252-E, KFCA30253-E
次のメッセージを追加した。 KFCA31209-E
次のメッセージの説明を変更した。 KFCA31177-E
次のメッセージを削除した。 KFCA31950-I, KFCA31951-I, KFCA31952-I, KFCA31953-I, KFCA31954-E, KFCA31955-I, KFCA31960-I, KFCA31961-I, KFCA31962-I, KFCA31963-I, KFCA31964-I, KFCA31965-I, KFCA31966-W, KFCA31970-E, KFCA31980-I, KFCA31981-E, KFCA31982-E, KFCA31983-E, KFCA31986-E, KFCA31987-E, KFCA31988-E, KFCA31990-E, KFCA31991-E, KFCA31992-E, KFCA31997-E, KFCA31998-E, KFCA31999-E

変更内容 (3000-3-D91-10) TP1/Message Queue 07-01

追加・変更内容
適用 OS から Solaris を削除した。
次のメッセージの説明を変更した。 KFCA04209-E, KFCA04212-E, KFCA04240-E, KFCA16324-E, KFCA16331-E, KFCA16334-E, KFCA16341-E, KFCA16343-E, KFCA16374-E, KFCA31050-E, KFCA31935-I
次のメッセージを削除した。 KFCA18521-E, KFCA18522-E, KFCA18523-E, KFCA18524-E, KFCA18525-E
次のメッセージを変更した。

追加・変更内容

KFCA26187-E

はじめに

このマニュアルは、TP1/Message Queue および関連製品が出力するメッセージについて説明したものです。

■ 対象読者

TP1/Message Queue および関連製品を使用して、TP1/Message Queue を組み込んだシステムを構築したり、運用したりする方を対象としています。

■ その他の前提条件

このマニュアルをお読みになる際のその他の前提情報については、マニュアル「TP1/Message Queue 使用の手引」を参照してください。

目次

前書き	2
変更内容	3
はじめに	6

1	メッセージの概要	8
1.1	メッセージの出力形式 (TP1/Message Queue)	9
1.1.1	出力先がコンソール, 標準エラー出力, または標準出力の場合	9
1.1.2	logcat コマンド, およびリアルタイム出力機能で標準出力へ出力する場合	9
1.2	メッセージの記述形式	11
1.2.1	メッセージの記述形式の説明	11
1.2.2	メッセージ ID の記号の説明	12
2	KFCA00000 から KFCA09999 までのメッセージ	13
2.1	KFCA00000 から KFCA09999 までのメッセージ	14
3	KFCA10000 から KFCA19999 までのメッセージ	59
3.1	KFCA10000 から KFCA19999 までのメッセージ	60
4	KFCA20000 から KFCA29999 までのメッセージ	150
4.1	KFCA20000 から KFCA29999 までのメッセージ	151
5	KFCA30000 から KFCA30999 までのメッセージ	160
5.1	KFCA30000 から KFCA30999 までのメッセージ	161
6	KFCA31000 から KFCA31999 までのメッセージ	187
6.1	KFCA31000 から KFCA31999 までのメッセージ	188

1

メッセージの概要

この章では、TP1/Message Queue および関連製品のメッセージの出力形式、および記述形式について説明します。

1.1 メッセージの出力形式 (TP1/Message Queue)

次に示す製品で出力されるメッセージの出力形式について説明します。

- TP1/Message Queue
- TP1/Message Queue Access

1.1.1 出力先がコンソール、標準エラー出力、または標準出力の場合

出力されるメッセージの形式を次に示します。

```
KFCA00000-X YY……YY
```

KFCA00000-X：メッセージ ID (半角英数字 11 文字)

YY……YY：メッセージテキスト (最大 222 バイト)

1.1.2 logcat コマンド、およびリアルタイム出力機能で標準出力へ出力する場合

メッセージとして、メッセージ ID とメッセージテキストのほかに付加情報が出力されます。付加情報とは、logcat コマンドのオプションフラグ、およびログサービス定義のオペランドの指定で選択した情報のことです。オプションフラグの指定、およびログサービス定義のオペランドを省略すると、システム ID、年月日、時間、要求元ホスト名、要求元プログラム ID が付加情報として出力されます。

標準出力に出力される付加情報とメッセージの形式を次に示します。

```
AAAAAAA BB……BB CCCCCC DD yyyy/mm/dd hh:mm:ss EEEEEEE FFF  
KFCA00000-X YY……YY
```

付加情報

AAAAAAA：メッセージ通番 (半角数字 7 文字)

BB……BB：プロセス ID (ご使用の OS が AIX の場合は半角数字 10 文字、AIX 以外の場合は半角数字 5 文字)

CCCCCC：プロセス内メッセージ通番 (半角数字 7 文字)

DD：システム ID (半角英数字 2 文字)

yyyy/mm/dd：年月日 (半角数字 10 文字)

hh:mm:ss：時分秒 (半角数字 8 文字)

EEEEEEE：要求元ホスト名 (半角英数字 8 文字)

FFF：要求元プログラム ID (OpenTP1 のサービス名の略号) (半角英数字 3 文字)

メッセージ固定部

KFCA00000-X：メッセージ ID（半角英数字 11 文字）

YY……YY：メッセージテキスト（最大 222 バイト）

1.2 メッセージの記述形式

メッセージの記述形式およびメッセージ ID の記号の意味について説明します。

1.2.1 メッセージの記述形式の説明

メッセージの記述形式を次に示します。

KFCAnnnnn-X

メッセージテキスト※ (Y)

メッセージの意味を説明します。

(S)システムがメッセージを出力したあとにする主な処理を示します。

(O)メッセージ確認時、オペレータが行う必要のある処置を示します。

[対策] メッセージ確認時の OpenTP1 管理者の処置を示します。

注

メッセージ中の、オペレータの処置または対策で「保守員に連絡してください。」とは、購入時の契約に基づいて、システム管理者が弊社問い合わせ窓口へ連絡することを示します。

注※

- MQT サーバの場合、メッセージテキストの先頭 3 けたに MQT 識別子が付けられます。

MQT 識別子：mcc

m：*

cc：01～ff (MQT 通信プロセス識別子)

MQT 開始時の障害メッセージについては、mcc = スペースまたは***となる場合があります。

- MQT マネジャの場合、メッセージテキストの先頭 3 けたに*00 が付けられます。
- 出力先種別(Y)がメッセージログファイル「L」であっても、障害のためメッセージログファイルへ出力できないことがあります。この場合、メッセージはメッセージテキストの終端に障害を示すコードを付けて、標準エラー出力に出力されることがあります。このとき、同一メッセージで障害を示すコードの付いたものと付いていないものが、2 行出力される場合があります。障害を示すコードと意味を次の表に示します。

表 1-1 障害を示すコードと意味

コード	意味
(E1)	ログサービスが未起動のため、障害になりました。
(E2)	ログサービスとの通信が障害になりました。

1.2.2 メッセージ ID の記号の説明

メッセージ ID の記号の意味を次に示します。

KFCA：OpenTP1 のメッセージであることを示します。

nnnnn：メッセージの通し番号を示します。

X：メッセージの種類を示します。

記号の種類と意味を次の表に示します。

表 1-2 メッセージの種類

種類	意味
E	<ul style="list-style-type: none">各ライブラリ、コマンド、サーバの機能が働かない障害が起きたことを示しています。定義誤り、コマンドのオペランド指定誤りによって、動作できないことを示しています。
W	<ul style="list-style-type: none">各ライブラリ、コマンド、サーバからのメモリの使用状況についての警告を示しています。定義誤り、コマンドのオペランド指定誤りはありましたが、値を仮定して動作を実行することを示しています。
I	<ul style="list-style-type: none">上記の E、W に該当しないメッセージで、動作の報告を示しています。
R	<ul style="list-style-type: none">出力メッセージに対するユーザからの応答を待っていることを示しています。

(Y)：メッセージの出力先種別を示します。

一つのメッセージが、複数の出力先種別を持つ場合は、出力される可能性のある種別を「+」でつないであります。

「L」だけの場合は省略し、空白にしています。

出力先種別と出力先を次の表に示します。

表 1-3 出力先種別

種別	出力先
C	コンソール
E	標準エラー出力
S	標準出力
L	メッセージログファイル※
R	エラーログファイル
O	オンライン端末
X	syslog

注※

システム共通定義、ログサービス定義の指定によって、syslog、または JP1 にも出力されます。

2

KFCA00000 から KFCA09999 までのメッセージ

この章では、KFCA00000 から KFCA09999 までのメッセージについて説明します。

2.1 KFCA00000 から KFCA09999 までのメッセージ

KFCA04200-E

I/O エラーが発生しました。

キューファイル名：aa....aa (bb....bb, cc....cc, dd....dd, ee....ee)

キューファイルのアクセスで、入出力エラーが発生しました。

aa....aa：入出力エラーが発生したキューファイル名

bb....bb：エラー要因となった関数名

cc....cc：エラー要因となった関数のリターンコード

dd....dd：エラーを出力したモジュール ID

ee....ee：ライン番号

(S)キューファイルの状態を障害閉塞状態に変更します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 ディスク装置に異常がないか確認してください。

KFCA04201-E

プロセス固有領域のメモリが足りないため、定義ファイルの解析を行えません。

要求メモリ量 = aa....aa

aa....aa：エラーが発生した場合の要求メモリ量（単位：バイト）

(S)定義ファイル解析処理を中止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 OpenTP1 の許容する範囲内でプロセスサイズを変更し、OpenTP1 を再開始してください。

KFCA04202-E

通信障害が発生しました。(aa....aa, bb....bb, cc....cc, dd....dd)

通信障害が発生したため、コマンドが実行できません。

aa....aa：エラー要因となった関数名

bb....bb：エラー要因となった関数のリターンコード

cc....cc：エラーを出力したモジュール ID

dd....dd：ライン番号

(S)処理を打ち切ります。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 通信障害の原因を調査し、取り除いてください。

KFCA04203-E

キューファイルグループ名が誤っています。 (E)

指定したキューファイルグループ名は存在しないため、キューファイルの組み込みができません。

(S)処理を中断します。

(O)正しいキューファイルグループ名を指定して、再度実行してください。

KFCA04204-E

レポートメッセージの登録に失敗しました。
登録が失敗したキュー名：aa....aa 理由コード：bb....bb

aa....aa：キュー名

bb....bb：理由コード (MQI の理由コード)

(S)レポートメッセージの登録処理を中断します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 cmqc.h または CMQV.cbl の MQI ヘッダファイルから理由コードの意味を調べて原因を取り除き、再度実行してください。

KFCA04205-E

キューファイル名が誤っています。 (E)

指定したキューファイル名に誤りがあります。

(S)処理を打ち切ります。

(O)正しいキューファイル名を指定して、再度実行してください。

KFCA04206-E

MQA サービスのアドレス情報を検索できません。 (L + E)

ネームサービスが開始処理中、終了処理中、または停止中です。

アドレス情報は、ネームサービスがサービスグループおよびサービス进行处理するために管理される情報です。このメッセージは、次のどちらかの場合に出力されます。

- MQA サーバの提供するオンラインコマンド処理中
- キューファイル実更新処理中

(S)コマンド処理を中止します (オンラインコマンド処理中の場合)。または、MQA サービスを終了します (キューファイル実更新処理中の場合)。

(O)OpenTP1 が正常に開始していることを確認してください。

KFCA04207-E

```
MQA が異常を検知しました。  
モジュール ID = aa....aa 場所 = bb....bb  
保守コード = cc....cc (E)
```

MQA サービス、MQA ライブラリ、または MQA コマンドが異常を検知しました。

aa....aa : 異常を検知したモジュール ID

bb....bb : 異常を検知した場所

cc....cc : 異常と思われる理由 (OpenTP1 の各サービスが返すリターン値)

(S)異常を検知したプロセスが、KFCA00105-E のメッセージを出力して異常停止します。なお、KFCA00105-E のメッセージについては、マニュアル「OpenTP1 メッセージ」を参照してください。

(O)メッセージに出力されているモジュール ID、場所、および保守コードを保守員に連絡してください。

KFCA04208-E

```
MQA サーバの V/R が誤っています。 (E)
```

(S)処理を中止します。

(O)MQA サーバとライブラリのバージョンを合わせて、再度実行してください。

KFCA04209-E

```
メモリ不足で処理を続行できません。 (L + E)
```

MQA サービスの処理でメモリが不足しました。

(S)処理を中断します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 次のどれかの対策を実施してください。

- プロセスメモリ，または動的共用メモリの使用量を見直してください。
- OpenTP1 のロックサービス定義に指定された MQA サービスの最大同時排他要求数を確認してください。
- キューファイルグループの入出力バッファの値を見直してください。

KFCA04210-E

メッセージ破壊が発生しました。
キューファイル名：aa....aa

メッセージの読み込み時にメッセージ破壊を検出しました。

aa....aa：メッセージ破壊が発生したキューファイル名

(S)キューファイルを障害閉塞します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

KFCA04211-E

キューファイル名の文字数が 59 文字を超えています。 (L + E)

キューファイル名は，59 文字以内で指定します。

(S)処理を終了します。

(O)正しいファイル名を指定して，再度実行してください。

KFCA04212-E

キューファイル(aa....aa)のオープンに失敗しました。
要因：bb....bb

aa....aa：キューファイル名

bb....bb：理由コード

PATH：パスの指定に誤りがあります。

NOTEXIST：キューファイルがありません。

ACCESSSF：キューファイルに対するアクセス権がありません。

EXCL：排他エラーが発生しました。

FORMAT：スペシャルファイルまたは UNIX 通常ファイルが，OpenTP1 ファイルシステム用に初期化されていません。

OPENNUM : OpenTP1 ファイルシステムのオープンで上限値オーバが報告されました。

ACCESSS : スペシャルファイルまたは UNIX 通常ファイルに対するアクセス権がありません。

VERSION : OpenTP1 ファイルシステムのバージョンが一致していません。

(S)処理を続行します。ただし、再開始時の MQA サービス起動中に理由コード「ACCESSF」または「ACCESSS」が発生した場合は、処理を停止します。

(O)理由コードを基に原因を調査し、原因を取り除いてから、再度実行してください。

KFCA04213-E

指定したキューファイルで入出力エラーが発生しました。

ファイル名 : aa....aa (bb....bb, cc....cc, dd....dd, ee....ee)

aa....aa : キューファイル名

bb....bb : エラー要因となった関数名

cc....cc : エラー要因となった関数のリターンコード

dd....dd : エラーを出力したモジュール ID

ee....ee : ライン番号

(S)キューファイルの状態を未使用に変更します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 障害を取り除いて、再度実行してください。

KFCA04214-E

キューファイル (aa....aa) を障害閉塞しました。

キューファイルの状態を障害閉塞状態に変更しました。

aa....aa : 障害閉塞したキューファイル名

(O)障害を取り除いたあと、閉塞状態を解除してください。

KFCA04215-E

タイムアウトとなりました。(aa....aa, bb....bb, cc....cc, dd....dd) (L + E)

RPC の応答待ちがタイムアウトしました。

メッセージが大量に登録されている場合に mqadelmsg コマンドまたは mqalsmsg コマンドを実行する場合にも、このメッセージが出力されることがあります。

aa....aa : エラー要因となった関数名

bb....bb : エラー要因となった関数のリターンコード

cc....cc : エラーを出力したモジュール ID

dd....dd : ライン番号

(S)処理を終了します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 ネットワークに障害が発生していないか調査してください。または、ユーザサービス定義の RPC の応答に対する最大待ち時間 (watch_time オペランド) の値を見直してください。

KFCA04216-E

ファイル (aa....aa) に対するアクセス権がありません。 (E)

aa....aa : UNIX ファイル名

(S)処理を打ち切ります。

(O)UNIX ファイルのアクセス権を変更してください。または、ファイルにアクセスできるユーザ ID、および実行グループ ID でコマンドを実行してください。

KFCA04217-E

指定したキューファイルでファイルシステム作成時のシステムのバージョンが異なります。ファイル名 : aa....aa

aa....aa : キューファイル名

(S)キューファイルの状態を未使用に変更します。

(O)キューファイルをシステムのバージョンに変更してください。

KFCA04218-E

指定したキューファイルのバージョンが異なります。
ファイル名 : aa....aa

aa....aa : キューファイル名

(S)キューファイルの状態を未使用に変更します。

(O)キューファイルを再作成してください。

KFCA04219-E

定義ファイルでプロセス名が重複して指定されています。
プロセス名 = aa....aa 定義ファイル名 = bb....bb
cc....cc 行目

aa....aa : プロセス名

bb....bb : 定義ファイル名

cc....cc : エラーが発生した行

(S)処理を中断します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

[対策] 重複したメッセージのどちらかを変更, または削除してください。

KFCA04220-E

キュー数をオーバーしました。キュー数 = aa....aa

MQA サービス開始時に, オンライン中に使用するキューの最大数を超過しました。

aa....aa : キューの最大数

(S)処理を中断します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

[対策] MQA サービス定義のオンライン中に使用する, キューの最大数を確認してください。

KFCA04221-E

キューファイル (aa....aa) とキューファイル (bb....bb) で重複したキュー名が指定されています。
(L + E)

MQA サービス開始時, またはキューファイルの組み込み時に重複したキュー名がキューファイル (aa....aa) とキューファイル (bb....bb) に存在します。

aa....aa : キューファイル名

bb....bb : キューファイル名

(S)処理を中断します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

[対策] 重複したキュー名のどちらか一方を削除してください。

KFCA04222-E

キューファイル (aa....aa) とキューファイル (bb....bb) で重複したメッセージが指定されています。
(L + E)

aa....aa : キューファイル名

bb....bb : キューファイル名

(S)処理を中断します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 キューファイルを再作成してください。

KFCA04223-E

動的共用メモリが足りないため、入出力バッファが確保できません。
要求メモリ量=aa....aa

aa....aa : エラーが発生した場合の要求メモリ量 (単位: バイト)

(S)処理を中断します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 システム環境定義の dynamic_shmpool_size 定義の指定値を大きくしたあと、再度実行してください。または、mqainit コマンドで指定しているメッセージ長を小さくしたあと、再度実行してください。または、MQA サービス定義の mqaquegrp 定義コマンドに指定した入出力バッファ数を小さくしたあと、再度実行してください。

64 ビット版の TP1/Message Queue 07-51 以降では、KFCA31213-E メッセージが出力されます。

KFCA04224-E

サービスとクライアント間のバージョンが一致しません。 (L + E)

要因を次に示します。

- MQA コマンドと MQA サービスのバージョンが不一致
- MQA コマンドとネームサービスのバージョンが不一致

(S)処理を終了します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 同一バージョンでインストールしてください。

KFCA04225-E

登録可能なキューファイルの数をオーバーしました。

登録可能なキューファイル数 = aa....aa

MQA サービス開始時にオンライン中に使用するキューファイルの最大数を超過しました。

aa....aa : キューファイル数

(S)処理を中断します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 MQA サービス定義のオンライン中に使用するキューファイルの最大数を確認してください。

KFCA04226-E

登録可能なキューファイルグループの数をオーバーしました。

登録可能なキューファイルグループ数 = aa....aa

MQA サービス開始時にオンライン中に使用するキューファイルグループの最大数を超過しました。

aa....aa : キューファイルグループ数

(S)処理を中断します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 MQA サービス定義のオンライン中に使用するキューファイルの最大数を確認してください。

KFCA04227-E

イニシエーションキューがないためトリガメッセージを生成できません。

トリガメッセージ生成契機となったキュー名 : aa....aa

トリガメッセージ生成契機となったキューに、イニシエーションキューが定義されていません。または、定義されていますが、イニシエーションキューがありません。

aa....aa : キュー名

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 キューにイニシエーションキュー名を定義する、またはイニシエーションキューの定義を追加したあと、再開始してください。

KFCA04228-E

プロセス定義がないためトリガメッセージを生成できません。

トリガメッセージ生成契機となったキュー名：aa....aa

トリガメッセージ生成契機となったキューにプロセス名が定義されていません。または、定義されていますが、プロセス定義がありません。

aa....aa：キュー名

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 キューにプロセス名を定義する、またはプロセス定義を追加したあと、再開始してください。

KFCA04229-E

イニシエーションキューの使用種別が正常使用方法でないためトリガメッセージを生成できません。

イニシエーションキュー名：aa....aa

aa....aa：イニシエーションキュー名

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 イニシエーションキューの使用種別を正常使用方法に変更し、再開始してください。

KFCA04230-E

MQA サービスを終了できません。保守コード= aa....aa

MQA サービスの終了処理中にエラーが発生し、正常終了できません。

aa....aa：保守コード（OpenTP1 の各サービスが返すリターン値）

(S)エラーが発生した時点で終了処理を中止し、MQA サービスを終了します。

(O)このメッセージの前に出力されるメッセージを基に原因を調査してください。

KFCA04231-E

定義解析中にエラーが発生したため、MQA サービスを開始できません。（L + E）

サービス定義ファイルの内容が誤っています。

(S)システムを終了します。

(O)サービス定義の内容を見直してください。

【対策】 このメッセージの前に出力されるメッセージを基に原因を調査してください。

KFCA04232-I

MQA サービスを開始しました。

(S)MQA サービスを開始します。

KFCA04233-E

MQA サービスを開始できません。保守コード= aa....aa (L + E)

aa....aa : 保守コード (OpenTP1 の各サービスが返すリターン値)

(S)MQA 開始処理を中止します。

(O)このメッセージの前に出力されるメッセージを基に原因を調査してください。

KFCA04234-I

MQA サービスを準備中です。

(S)MQA サービスの開始を準備します。

KFCA04235-I

MQA サービスを回復中です。

(S)MQA サービスを回復します。

KFCA04236-I

MQA サービスを終了しました。

(S)MQA サービスを終了します。

KFCA04237-I

MQA サービスを終了中です。

(S)MQA サービスの終了を準備します。

KFCA04238-E

MQA サービスのジャーナル読み込みに失敗しました。

MQA サービスの再開始時にジャーナルファイルの入力で、入出力エラーが発生しました。

(S)MQA サービスを停止します。

(O)障害原因を調査し、再度実行してください。

KFCA04239-E

ジャーナルサービスが動作中ではありません。

ジャーナルサービスの関数呼び出し時、ジャーナルサービスが動作していませんでした。または停止中でした。

(S)システムを異常終了します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 OpenTP1 を再起動してください。

KFCA04240-E

ジャーナル領域長が小さいため、MQA の回復用ジャーナルが出力できません。(エラー情報：aa....aa, bb....bb)

aa....aa の値が bb....bb の値より小さい場合、MQA 回復用ジャーナルが出力できません。

aa....aa：システムジャーナルサービス定義の jnl_max_datasize 値 (5 文字以内の 10 進数)

bb....bb：MQA の回復用ジャーナルとして必要なバッファサイズ

(S)MQA サービスを終了します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 OpenTP1 のシステム定義 (システムジャーナルサービス定義) の jnl_max_datasize オペランドで指定したジャーナルバッファの大きさを見直し、OpenTP1 を再度起動してください。

jnl_max_datasize オペランドについては、マニュアル「OpenTP1 システム定義」を参照してください。

KFCA04241-E

トリガメッセージの登録に失敗しました。

イニシエーションキュー名：aa....aa 理由コード= bb....bb

aa....aa：イニシエーションキュー名

bb....bb：登録失敗となった理由 (MQI の理由コード)

(S)トリガメッセージの登録処理を中断します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 cmqc.h または CMQV.cbl の MQI ヘッダファイルから理由コードの意味を調べ、原因を取り除き、再度実行してください。

KFCA04242-E

定義ファイルで指定したキューファイルはスペシャルファイル名ではありません。

ファイル名：aa....aa 定義ファイル名：bb....bb cc....cc 行目

キューファイル名はパス名と同じです。パス名は、スペシャルファイル名およびファイル名で構成されています。

パス名：/dev/special/filename

スペシャルファイル名：/dev/special

ファイル名：/filename

aa....aa：指定された MQA ファイル名

bb....bb：エラーが発生した定義ファイル名

cc....cc：エラーが発生した行数

(S)キューファイルの状態を未使用に変更します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 キューファイル名として、パス名を指定してください。

KFCA04243-E

定義ファイルで指定されたキューファイルを割り当てるディスクパーティションは OpenTP1 ファイルシステムとして初期化されていません。

ファイル名：aa....aa 定義ファイル名：bb....bb cc....cc 行目

aa....aa：指定されたキューファイル名

bb....bb：エラーが発生した定義ファイル名

cc....cc：エラーが発生した行

(S)キューファイルの状態を未使用に変更します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 キューファイルを割り当てるディスクパーティションを、OpenTP1 ファイルシステムとして初期化してください。または、初期化済みのディスクパーティション上に割り当てられるように、回復対象定義ファイル内のキューファイル名を変更してください。

KFCA04244-E

定義ファイルで指定されたキューファイルは存在しません。

ファイル名：aa....aa 定義ファイル名：bb....bb cc....cc 行目

aa....aa：指定されたキューファイル名

bb....bb：エラーが発生した定義ファイル名

cc....cc：エラーが発生した行

(S)キューファイルの状態を未使用に変更します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 新しいキューファイル名を指定してください。

KFCA04245-E

定義ファイルで指定したキューファイルは他プロセスで使用中的であるため、使用できません。

ファイル名：aa....aa 定義ファイル名：bb....bb cc....cc 行目

aa....aa：指定されたキューファイル名

bb....bb：エラーが発生した定義ファイル名

cc....cc：エラーが発生した行

(S)キューファイルの状態を未使用に変更します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 異なるキューファイル名を指定してください。または、他プロセスで使用したあとに、再度実行してください。

KFCA04246-E

定義ファイルで指定したキューファイルのキャラクタ型スペシャルファイルのオープンでシステムより上限値オーバのエラーが報告されました。

ファイル名：aa....aa 定義ファイル名：bb....bb cc....cc 行目

aa....aa：指定されたキューファイル名

bb....bb：エラーが発生した定義ファイル名

cc....cc：エラーが発生した行

(S)キューファイルの状態を未使用に変更します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 OS の環境を再度設定したあと、再度実行してください。または、未使用のキャラクタ型スペシャルファイルをクローズしてから、再度実行してください。

KFCA04247-E

定義ファイルで指定したキューファイルのスペシャルファイルに対するアクセス権がありません。

ファイル名：aa....aa 定義ファイル：bb....bb cc....cc 行目

aa....aa：指定されたキューファイル名

bb....bb：エラーが発生した定義ファイル名

cc....cc：エラーが発生した行

(S)キューファイルの状態を未使用に変更します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 定義ファイルで指定したキューファイルのスペシャルファイルに対するアクセス権を変更し、再度実行してください。

KFCA04248-E

定義ファイルで指定したキューファイルに対するアクセス権がありません。

ファイル名：aa....aa 定義ファイル名：bb....bb cc....cc 行目

aa....aa：指定されたキューファイル名

bb....bb：エラーが発生した定義ファイル名

cc....cc：エラーが発生した行

(S)キューファイルの状態を未使用に変更します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 定義ファイルで指定したキューファイルに対するアクセス権を変更し、再度実行してください。

KFCA04249-E

定義ファイルで指定したキューファイルでファイルシステム作成時のシステムのバージョンが異なります。

ファイル名：aa....aa 定義ファイル名：bb....bb cc....cc 行目

aa....aa：指定されたキューファイル名

bb....bb：エラーが発生した定義ファイル名

cc....cc：エラーが発生した行

(S)キューファイルの状態を未使用に変更します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 指定したキューファイルを初期化し、システムバージョンを一致させてください。

KFCA04250-E

定義ファイルで指定したキューファイルで入出力エラーが発生しました。

ファイル名：aa....aa 定義ファイル名：bb....bb cc....cc 行目

aa....aa：指定されたキューファイル名

bb....bb：エラーが発生した定義ファイル名

cc....cc：エラーが発生した行

(S)キューファイルの状態を未使用に変更します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 障害を取り除いて、再度実行してください。

KFCA04251-E

定義ファイルで指定したキューファイルのバージョンが異なります。

ファイル名：aa....aa 定義ファイル名：bb....bb cc....cc 行目

aa....aa：指定されたキューファイル名

bb....bb：エラーが発生した定義ファイル名

cc....cc：エラーが発生した行

(S)キューファイルの状態を未使用に変更します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 指定したキューファイルを初期化し、システムバージョンを一致させてください。

KFCA04252-E

定義ファイルで指定したファイルはキューファイルではありません。

ファイル名：aa....aa 定義ファイル名：bb....bb cc....cc 行目

aa....aa：指定されたキューファイル名

bb....bb：エラーが発生した定義ファイル名

cc....cc：エラーが発生した行

(S)キューファイルの状態を未使用に変更します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】正しいキューファイル名を指定して、再度実行してください。

KFCA04253-E

定義ファイルとキューファイル (aa....aa) で重複したキュー名が指定されています。

キュー名：bb....bb (L + E)

aa....aa：キューファイル名

bb....bb：重複しているキュー名

(S)処理を中断します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】重複したキューのどちらかを変更、または削除してください。

KFCA04254-E

定義ファイルでキューファイルグループ名が重複して指定されています。

キューファイルグループ名：aa....aa 定義ファイル名：bb....bb cc....cc 行目

aa....aa：指定されたキューファイルグループ名

bb....bb：エラーが発生した定義ファイル名

cc....cc：エラーが発生した行

(S)エラーが発生した定義情報の解析を中止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】同じキューファイルグループ名が二つ以上指定されている場合は、重複しないように別の名称を指定し直してください。

KFCA04255-E

定義ファイルでキューファイル名が重複して指定されています。

ファイル名：aa....aa 定義ファイル名：bb....bb cc....cc 行目

aa....aa：指定されたキューファイル名

bb....bb：エラーが発生した定義ファイル名

cc....cc：エラーが発生した行

(S)エラーが発生した定義情報の解析を中止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 同じキューファイル名が二つ以上指定されている場合は、重複しないように別の名称を指定し直してください。

KFCA04256-E

定義ファイルで MQT サーバ名が重複して指定されています。

MQT サーバ名：aa....aa 定義ファイル名：bb....bb cc....cc 行目

aa....aa：指定された MQT サーバ名

bb....bb：エラーが発生した定義ファイル名

cc....cc：エラーが発生した行

(S)エラーが発生した定義情報の解析を中止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 同じ MQT サーバ名が二つ以上指定されている場合は、重複しないように別の名称を指定し直してください。

KFCA04257-I

デッドレターキューにメッセージを登録しました。

(S)デッドレターキューにメッセージを登録します。

KFCA04258-E

デッドレターキューがないためメッセージを登録できません。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 デッドレターキューを作成し、再度開始してください。

KFCA04259-E

デッドレターキューへのメッセージ登録に失敗しました。

理由コード = aa....aa

aa....aa : 登録失敗となった理由コード (MQI の理由コード)

(O) OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 cmqc.h または CMQV.cbl の MQI ヘッダファイルから理由コードの意味を調べて原因を取り除き、再度実行してください。

KFCA04260-E

イニシエーションキューのキュータイプが MQQT_LOCAL でないためトリガメッセージを生成できません。

イニシエーションキュー名 : aa....aa

aa....aa : イニシエーションキュー名

(O) イニシエーションキューのキュータイプを MQQT_LOCAL に変更してください。

KFCA04261-E

省略できない定義を省略しました。定義名 : aa....aa

aa....aa : 省略された定義名

(S) 定義ファイル解析処理を中止します。

(O) 省略された定義名を MQA サービス定義に追加し、再度実行してください。

KFCA04262-E

定義ファイルに指定できない文字を名称に指定しています。

定義ファイル名 : aa....aa bb....bb 行目

aa....aa : エラーが発生した定義ファイル名

bb....bb : エラーが発生した行

(S) 定義ファイル解析処理を中止します。

(O) 正しい文字を各名称に指定して、再度実行してください。

KFCA04263-E

定義ファイルで指定した MQT サーバ名の文字数に誤りがあります。

定義ファイル名 : aa....aa bb....bb 行目

aa....aa : エラーが発生した定義ファイル名

bb....bb : エラーが発生した行

(S)定義ファイル解析処理を中止します。

(O)正しい MQT サーバ名を指定して、再度実行してください。

KFCA04264-E

定義ファイルで指定したプロトコル名が正しくありません。

定義ファイル名 = aa....aa bb....bb 行目

aa....aa : 定義ファイル名

bb....bb : エラーが発生した行

(S)処理を中断します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】正しいプロトコル名を指定し、再度実行してください。

KFCA04267-E

指定したジャーナルファイル名称に該当するジャーナルファイルが存在しません。

(S)処理を中断します。

(O)正しいジャーナルファイル名称を指定して、再度実行してください。

KFCA04275-E

MQA サービスのステータスレコードの組み込みに失敗しました。

MQA サービスの再開始時にステータスレコードの入力で入出力エラーが発生しました。

(S)MQA サービスを停止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】障害原因を調査し、再度実行してください。

KFCA04276-E

MQA サービスのステータスレコードの書き込みに失敗しました。

MQA サービスの再開始時にステータスレコードの出力で入出力エラーが発生しました。

(S)MQA サービスを停止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 障害原因を調査し、再度実行してください。

KFCA04277-E

サービスのラン ID が一致しません。

システムマネージャから指定されたラン ID がステータスサービスに登録されているラン ID と一致しません。

(S)MQA サービスを停止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 オンライン開始時の環境と再開時の環境に違いがないか、確認してください。

KFCA04278-E

MQA サービスのチェックポイントダンプの読み込みに失敗しました。 (E)

MQA サービスの再開時にチェックポイントダンプの入力で、入出力エラーが発生しました。

(S)MQA サービスを停止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 障害原因を調査し、再度実行してください。

KFCA04279-E

MQA サービスのジャーナル不正を検知しました。 (E)

(S)MQA サービスを停止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 障害原因を調査し、再度実行してください。

KFCA04281-I

キューファイル (aa....aa) を切り離しました。

aa....aa : キューファイル名

(S)キューファイルを MQA から切り離します。

KFCA04282-E

コマンドで指定した引数の数が正しくありません。
定義ファイル名：aa....aa コマンド名：bb....bb cc....cc 行目

aa....aa：エラーが発生した定義ファイル名

bb....bb：エラーが発生したコマンド名

cc....cc：エラーが発生した行

(S)エラーが発生した定義情報の解析を中止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

[対策] 障害を取り除いてください。

KFCA04283-E

定義ファイルでキュー名が重複して指定されています。
キュー名：aa....aa 定義ファイル名：bb....bb cc....cc 行目

定義ファイルで指定したキュー名が重複しています。

aa....aa：重複しているキュー名

bb....bb：エラーが発生した定義ファイル名

cc....cc：エラーが発生した行

(S)処理を中断します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

[対策] 重複したキュー名のどちらか一方を、別のキュー名に変更してください。

KFCA04284-E

定義ファイルでベースキュー名と別名キュー名が重複して指定されています。
キュー名：aa....aa 定義ファイル名：bb....bb cc....cc 行目

定義ファイルで指定されたベースキュー名と別名キュー名が重複しています。

aa....aa：重複しているキュー名

bb....bb：エラーが発生した定義ファイル名

cc....cc：エラーが発生した行

(S)処理を中断します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 重複したベースキュー名と別名キュー名のどちらか一方の名称を変更して、再度実行してください。

KFCA04285-E

定義ファイルでキューマネージャ定義を複数指定しています。

定義ファイル名：aa....aa bb....bb 行目

定義ファイルで指定したキューマネージャ定義が複数指定されています。

aa....aa：エラーが発生した定義ファイル名

bb....bb：エラーが発生した行

(S)処理を中断します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 重複したキューマネージャ定義のどちらか一方を削除して、再度実行してください。

KFCA04286-E

定義ファイルで指定したアプリケーションタイプが誤っています。

定義ファイル名：aa....aa bb....bb 行目

定義ファイルで指定したアプリケーションタイプが誤っています。

aa....aa：エラーが発生した定義ファイル名

bb....bb：エラーが発生した行

(S)処理を中断します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 正しいアプリケーションタイプを指定して、再度実行してください。

KFCA04287-E

MQA サービス定義で指定したキュー (aa....aa) の省略時のメッセージ優先度がキューマネージャ定義で指定した優先度の最大値を超えています。

MQA サービス定義で指定した省略時のメッセージ優先度がキューマネージャ定義で指定した優先度の最大値を超えています。

aa....aa：指定されたキュー名

(S)処理を中断します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 MQA サービス定義で指定した省略時のメッセージ優先度に、キューマネージャ定義で指定した最大値より小さい値を指定したあと、再度実行してください。

KFCA04288-E

MQA サービス定義で指定したキュー (aa....aa) のトリガのためのメッセージ優先度の下限値がキューマネージャ定義で指定した優先度を超えています。

MQA サービス定義で指定した省略時のメッセージ優先度が、キューマネージャ定義で指定した優先度の最大値を超えています。

aa....aa：指定されたキュー名

(S)処理を中断します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 MQA サービス定義で指定したトリガのためのメッセージ優先度に、キューマネージャ定義で指定した最大値より小さい値を指定したあと、再度実行してください。

KFCA04289-E

モデルキューの定義名が他のキュー名と重複しています。

キュー名：aa....aa

モデルキューの定義名が他のキュー名と重複しています。

aa....aa：重複したキュー名

(S)処理を中断します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 モデルキューの定義名を変更して、再度実行してください。

KFCA04290-E

別名キュー名が他のキュー名と重複しています。

キュー名：aa....aa

aa....aa：重複したキュー名

(S)処理を中断します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 別名キュー名を変更して、再度実行してください。

KFCA04291-E

リモートキューのローカル定義名が他のキュー名と重複しています。

キュー名：aa....aa

aa....aa：重複したキュー名

(S)処理を中断します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 重複したリモートキューのローカル定義名を変更して、再度実行してください。

KFCA04292-E

ローカルキュー名が他のキュー名と重複しています。

キュー名：aa....aa

aa....aa：重複したキュー名

(S)処理を中断します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 重複したローカルキュー名を変更して、再度実行してください。

KFCA04293-E

キューマネージャ定義で指定したキューマネージャ名とリモートキューのローカル定義で指定したリモートキューマネージャ名の先頭 12 文字が重複しています。

(S)処理を中断します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 重複したリモートキューのローカル定義で指定した、リモートキューマネージャ名の先頭 12 文字を変更して、再度実行してください。

KFCA04294-E

転送キュー名はローカルキュー名ではありません。

転送キュー名：aa....aa

転送キュー名として指定されたキューのキュータイプが誤っています。

aa....aa：エラーが発生した転送キュー名

(S)処理を中断します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

[対策] キュータイプを確認し、再度実行してください。

KFCA04295-E

イニシエーションキュー名はローカルキュー名ではありません。

イニシエーションキュー名：aa....aa

イニシエーションキュー名として指定されたキューのキュータイプが誤っています。

aa....aa：エラーが発生したイニシエーションキュー名

(S)処理を中断します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

[対策] キュータイプを確認し、再度実行してください。

KFCA04296-E

転送キュー名として指定されたキューのキュー使用方法が誤っています。

転送キュー名：aa....aa

転送キュー名として指定されたキューの使用方法が誤っています。

aa....aa：エラーが発生した転送キュー名

(S)処理を中断します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

[対策] キュー使用方法を確認し、再度実行してください。

KFCA04297-E

イニシエーションキュー名として指定されたキューのキュー使用方法が誤っています。

イニシエーションキュー名：aa....aa

イニシエーションキュー名として指定されたキューのキュー使用方法が誤っています。

aa....aa：エラーが発生したイニシエーションキュー名

(S)処理を中断します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 キュー使用方法を確認し、再度実行してください。

KFCA04298-E

MQA サービス定義ファイルの省略不可のコマンドが省略されています。
コマンド名：aa....aa

aa....aa：省略されたコマンド名が出力されます。

次に示すどちらかが出力されます。

- mqaquegrp
- mqaquemgr

(S)処理を中断します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 省略されたコマンドを定義し、再度実行してください。

KFCA04299-E

ベースキュー名として指定されたキューのキュータイプが誤っています。
キュー名：aa....aa

ベースキュー名として指定されたキューのキュータイプが誤っています。

aa....aa：エラーが発生したキュー名

(S)処理を中断します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 キュータイプを確認し、再度実行してください。

KFCA04300-E

コマンドで指定した引数の数が正しくありません。 (E)

指定したコマンド引数、およびオプションの数が誤っています。

(S)処理を終了します。

(O)正しい値を設定して、再度実行してください。

KFCA04301-E

定義解析中にエラーが発生しました。 (E)

システム共通定義ファイルを作成してください。または、内容に誤りがあります。

(S)コマンド処理を中止します。

(O)システム共通定義を見直してください。

KFCA04302-E

MQA サービスが終了処理中です。 (E)

MQA サービスが終了処理中のため、サービス側に電文を送信できません。このメッセージは、MQA サーバが提供する、オンラインコマンド処理で、RPC が異常となった場合に出力します。

(S)コマンド処理を中止します。

(O)MQA サービス開始後、再度実行してください。

KFCA04303-E

RPC においてネットワーク障害が発生しました。(aa....aa, bb....bb, cc....cc, dd....dd) (L + E)

MQA サーバの RPC 時、LAN 障害などハードウェア障害による、通信障害が発生しました。このメッセージは、次の状態の場合に出力されます。

- MQA サーバが提供するオンラインコマンド処理での RPC
- キューファイル実更新処理中の RPC

aa....aa：エラー要因となった関数名

bb....bb：エラー要因となった関数のリターンコード

cc....cc：エラーを出力したモジュール ID

dd....dd：ライン番号

(S)コマンド処理を中止します (オンラインコマンド処理中の場合)。

または、MQA サービスを終了します (キューファイル実更新処理中の場合)。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

[対策] ネットワーク障害を取り除き、OpenTP1 を起動してください。

KFCA04304-E

MQA サービスが起動されていません。 (E)

(S)処理を終了させます。

【対策】 MQA サービスを起動してください。

KFCA04305-I

使用方法：mqachgque [-h usage] [-c クラスタ内共用クラスタ名称] [-e] ローカルキュー名 モデル
キューの定義名 キュー属性定義ファイル名 (S)

(S)mqachgque コマンドの使用方法を示します。

KFCA04306-W

プロセス実行中のため、キューファイルの切り離し処理を再試行します。 (E)

KFCA04307-E

指定したオプションの数が誤っています。 (E)

コマンドで指定されたオプションの数が誤っています。

(S)処理を終了します。

(O)正しいオプション数で、再度実行してください。

KFCA04309-E

I/O エラーが発生しました。(aa....aa, bb....bb, cc....cc, dd....dd) (E)

aa....aa：エラー要因となった関数名

bb....bb：エラー要因となった関数のリターンコード

cc....cc：エラーを出力したモジュール ID

dd....dd：ライン番号

(S)処理を中断します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 障害原因を調査し、再度実行してください。

KFCA04310-E

コマンドに指定されたパラメタの値が誤っています。 (E)

(S)処理を中断します。

(O)パラメタの値を確認したあと、再度実行してください。

KFCA04311-E

ファイルシステム作成時のシステムとコマンド実行時のシステムのバージョンが異なります。 (E)

(S)処理を中断します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

[対策] システムをインストールし、システムバージョンを一致させてください。

KFCA04313-E

キューファイル (aa....aa) に対するアクセス権がありません。 (L + E)

指定したキューファイルに対するアクセス権がありません。

このメッセージは、次のどちらかの場合に出力されます。

- MQA サービス開始処理中
- オフラインコマンド処理中

aa....aa : キューファイル名

(S)キューファイルの状態を未使用に変更します (MQA サービス開始処理中の場合)。

または、処理を終了します (オンラインコマンド・オフラインコマンド処理中の場合)。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

[対策] キューファイルのアクセス権を変更してください。

または、ファイルにアクセスできるユーザ ID、および実行グループ ID でコマンドを実行してください。

KFCA04314-E

指定したキューファイル (aa....aa) は他のプロセスで使用しています。 (L + E)

指定したキューファイルは他のプロセスで使用しているため、使用できません。

このメッセージは、次のどちらかの場合に出力されます。

- MQA サービス開始処理中

- オフラインコマンド処理中

aa....aa : キューファイル名

(S) キューファイルの状態を未使用に変更します (MQA サービス開始処理中の場合)。

または、処理を終了します (オンラインコマンド・オフラインコマンド処理中の場合)。

(O) 異なるキューファイル名を指定して、再度実行してください。

または、他の使用中のプロセスが終了したあとに、再度実行してください。

KFCA04315-E

キューファイル (aa....aa) の V/R が誤っています。 (E)

キューファイルのバージョンより、コマンドのバージョンが古いため処理を続行できません。

aa....aa : キューファイル名

(S) 処理を中断します。

(O) OpenTP1 管理者に連絡してください。

[対策] 指定したキューファイルを初期化し、システムバージョンを一致させてください。

KFCA04316-E

スペシャルファイルに対するアクセス権がありません。

キューファイル名 : aa....aa (L + E)

このコマンドを実行したユーザは、該当するスペシャルファイルに対するアクセス権がありません。

このメッセージは、次のどちらかの場合に出力されます。

- MQA サービス開始処理中
- オンラインコマンド・オフラインコマンド処理中

aa....aa : キューファイル名

(S) キューファイルの状態を未使用に変更します (MQA サービス開始処理中の場合)。

または、処理を終了します (オンラインコマンド・オフラインコマンド処理中の場合)。

(O) OpenTP1 管理者に連絡してください。

[対策] 必要に応じて、該当するユーザにアクセス権を与えてください。

KFCA04317-E

指定したキューファイルはスペシャルファイル名ではありません。

ファイル名：aa....aa (L + E)

キューファイル名は、パス名と同じです。パス名は、スペシャルファイル名およびファイル名で構成されています。

パス名：/dev/special/filename

スペシャルファイル名：/dev/special

ファイル名：/filename

このメッセージは、次のどちらかの場合に出力されます。

- MQA サービス開始処理中
- オンラインコマンド・オフラインコマンド処理中

aa....aa：キューファイル名

(S)キューファイルの状態を未使用に変更します (MQA サービス開始処理中の場合)。

または、処理を終了します (オンラインコマンド・オフラインコマンド処理中の場合)。

(O)キューファイル名として、パス名を指定してください。

KFCA04318-E

キューファイルを割り当てるディスクパーティションは OpenTP1 ファイルシステムとして初期化されていません。

ファイル名：aa....aa (L + E)

このメッセージは、次のどちらかの場合に出力されます。

- MQA サービス開始処理中
- オンラインコマンド・オフラインコマンド処理中

aa....aa：キューファイル名

(S)キューファイルの状態を未使用に変更します (MQA サービス開始処理中の場合)。

または、処理を終了します (オンラインコマンド・オフラインコマンド処理中の場合)。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 キューファイルを割り当てるディスクパーティションを OpenTP1 ファイルシステムとして初期化してください。または、OpenTP1 ファイルシステムとして初期化済みのディスクパーティション上に割り当てられるように、回復対象定義ファイル内のキューファイル名を変更してください。

KFCA04319-E

キャラクタ型スペシャルファイルのオープンでシステムから上限値オーバのエラーが報告されました。
(L + E)

このメッセージは、次のどちらかの場合に出力されます。

- MQA サービス開始処理中
- オンラインコマンド・オフラインコマンド処理中

(S)キューファイルの状態を未使用に変更します (MQA サービス開始処理中の場合)。

または、処理を終了します (オンラインコマンド・オフラインコマンド処理中の場合)。

(O)OS の環境を再度設定してから、再度実行してください。

または、未使用のキャラクタ型スペシャルファイルをクローズしてから、再度実行してください。

KFCA04321-E

入出力用バッファ数の指定が誤っています。 (E)

コマンドで指定したパラメタの入出力バッファの値が誤っています。

(S)処理を中断します。

(O)正しい値を指定し、再度実行してください。

KFCA04322-E

キューファイルグループ名の文字数が 31 文字を超えています。 (E)

キューファイルグループ名を 31 文字以下にする必要があります。

(S)処理を中断します。

(O)正しいキューファイルグループ名を指定して、再度実行してください。

KFCA04323-I

キュー名：aa....aa に登録されているメッセージを削除しました。
削除したメッセージのメッセージ識別子=bb....bb

aa....aa：キュー名

bb....bb：メッセージ識別子

(S)メッセージを削除します。

KFCA04324-I

キュー名：aa....aa を削除しました。

aa....aa：キュー名

(S)キューを削除します。

KFCA04325-E

指定したキューファイルは、二重化構成のため両系閉塞時以外は実行できません。 (E)

(O)キューファイルを確認したあと、再度実行してください。

KFCA04329-E

指定したキューファイルは閉塞されていません。 (E)

(O)キューファイルを確認したあと、再度実行してください。

KFCA04330-E

指定したキューは閉塞されていません。 (E)

(S)処理を中断します。

(O)キューを確認したあと、再度実行してください。

KFCA04331-E

キュー名の文字数が 48 文字を超えています。

キュー名：aa....aa (E)

キュー名は 48 文字以内で指定します。

aa....aa：キュー名

(S)処理を中断します。

(O)キュー名を 48 文字以内で指定して、再度実行してください。

KFCA04332-I

使用方法：mqarles [-h usage] [-s {l | t}] -f キューファイル名 (S)

(S)mqarles コマンドの使用方法を示します。

KFCA04333-E

指定したキューは閉塞処理中です。 (E)

(O)キューを確認したあと、再度実行してください。

KFCA04334-E

指定したキューファイルは閉塞処理中です。 (E)

(O)キューファイルを確認したあと、再度実行してください。

KFCA04335-I

キュー (aa....aa) の論理閉塞を完了しました。

aa....aa : キュー名

(S)キューを論理閉塞します。

KFCA04336-I

キューファイル (aa....aa) の論理閉塞を完了しました。

aa....aa : キューファイル名

(S)キューファイルを論理閉塞します。

KFCA04337-E

指定したキュー名は存在しません。 (E)

(S)処理を終了します。

(O)キューを確認したあと、再度実行してください。

KFCA04338-E

指定したキューファイルは障害閉塞状態です。 (E)

(S)処理を中止します。

(O)キューファイルを確認したあと、再度実行してください。

KFCA04339-E

指定されたキューファイル名は存在しません。 (E)

(S)処理を終了します。

(O)正しいキューファイル名を指定して、再度実行してください。

KFCA04343-I

キューファイル (aa....aa), 及びバックアップキューファイル (bb....bb) の閉塞解除を完了しました。 (E)

aa....aa : キューファイル名

bb....bb : バックアップキューファイル名

(S)キューファイルおよびバックアップキューファイルを閉塞解除します。

KFCA04344-I

キューファイル (aa....aa) の閉塞解除を完了しました。

aa....aa : キューファイル名

(S)キューファイルを閉塞解除します。

KFCA04345-E

指定したキューファイルは障害閉塞されていません。 (E)

(O)キューファイルを確認したあと、再度実行してください。

KFCA04346-E

指定したキューファイルは、バックアップキューファイルのため指定できません。 (E)

(S)処理を中断します。

(O)キューファイル名を指定してください。

KFCA04348-E

指定したキューファイルは切り離し状態です。 (E)

(S)処理を中断します。

(O)キューファイルを確認したあと、再度実行してください。

KFCA04349-E

指定したキューファイルは論理閉塞状態です。 (E)

(S)処理を中断します。

(O)キューファイルを確認したあと、再度実行してください。

KFCA04350-E

指定したキューファイルグループ (aa....aa) は最大数を越えたため組み込めません。 (E)

aa....aa : キューファイルグループ名

(S)処理を中断します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

[対策] MQA サービス定義のオンライン中に使用できるキューファイルグループの最大数の値を増やし、再度実行してください。

KFCA04351-E

指定したキューファイル (aa....aa) は最大数を越えたため組み込めません。 (E)

aa....aa : キューファイル名

(S)処理を中断します。

(O)MQA サービス定義のオンライン中に使用できるキューファイルの最大数の値を増やし、再度実行してください。

KFCA04352-I

使用方法 : mqaadd [-h usage] -g キューファイルグループ名
[-b バックアップキューファイル名 [,バックアップキューファイル名]...]
キューファイル名 [[キューファイル名]...] (S)

(S)mqaadd コマンドの使用方法を示します。

KFCA04354-I

使用方法 : mqarm [-h usage] [-r] -f キューファイル名 (S)

(S)mqarm コマンドの使用方法を示します。

KFCA04355-I

キューファイル (aa....aa), 及びバックアップキューファイル (bb....bb) の切り離しが完了しました。 (E)

aa....aa : キューファイル名

bb....bb : バックアップキューファイル名

(S)キューファイルおよびバックアップキューファイルを切り離します。

KFCA04356-I

使用方法：mqainq [-h usage] {-m|x} キューマネージャ名 | {-q|p} キューマネージャ名 オブジェクト名} (S)

(S)mqainq コマンドの使用方法を示します。

KFCA04357-I

使用方法：mqafills [-h usage] {-x | -f キューファイル名} (S)

(S)mqafills コマンドの使用方法を示します。

KFCA04358-I

キューファイル (aa....aa) の切り離しが完了しました。

aa....aa : キューファイル名

(S)キューファイルを切り離します。

KFCA04359-E

指定したキューファイルは切り離し状態です。 (E)

(S)処理を終了します。

(O)キューファイルを確認したあと、再度実行してください。

KFCA04360-E

キュー数をオーバしました。 (E)

キューファイルの組み込みでキューが MQA サービス定義の最大キュー数を超えました。

(S)処理を終了します。

(O)MQA サービス定義の最大キュー数の値を増やし、再度実行してください。

KFCA04364-I

キューファイル (aa....aa) の組み込みが完了しました。

aa....aa : キューファイル名

(S)キューファイルを組み込みます。

KFCA04367-E

指定したキューファイル (aa....aa) はキューファイルグループに組み込めません。 (L + E)

組み込もうとしたキューファイルに格納されているメッセージは、そのメッセージが登録されているキューが属するキューファイルグループにはありません。

aa....aa : キューファイル名

(S)処理を終了します。

(O)正しいキューファイルを指定して、再度実行してください。

KFCA04368-E

指定されたキューファイル (aa....aa) は存在しません。 (E)

aa....aa : キューファイル名

(S)処理を終了します。

(O)正しいキューファイル名を指定して、再度実行してください。

KFCA04369-E

キュー名に指定できない文字を指定しています。

キュー名 : aa....aa (E)

aa....aa : エラーの発生したキュー名

(S)処理を終了します。

(O)正しいキュー名を指定して、再度実行してください。

KFCA04370-I

使用方法 : mqabkup [-h usage] バックアップ元 バックアップ先 (S)

(S)mqabkup コマンドの使用方法を示します。

KFCA04371-E

キューファイルの容量が不足しています。

バックアップファイルレコード数=aa....aa

キューファイルに格納可能なレコード数=bb....bb (E)

バックアップファイルのレコード数がキューファイルのレコード数を超過しています。

aa....aa : バックアップファイルのレコード数

bb....bb : キューファイルに格納可能なレコード数

(S)処理を中断します。

(O)すでに存在するキューファイルを削除したあと、再度実行してください。

KFCA04372-E

キューファイルのレコード長とバックアップファイルのレコード長が一致していません。

キューファイルレコード長=aa....aa

バックアップファイルのレコード長=bb....bb (E)

バックアップファイルのレコード長とキューファイルのレコード長が一致していません。

aa....aa : キューファイルのレコード長

bb....bb : バックアップファイルレコード長

(S)処理を中断します。

(O)すでに存在するキューファイルを削除したあと、再度実行してください。

KFCA04373-I

使用方法 : mqadel [-h usage] キューファイル名 (S)

(S)mqadel コマンドの使用方法を示します。

KFCA04374-E

指定されたキュー名は既に存在します。 (E)

(S)処理を終了します。

(O)別の新しいキュー名を指定して、再度実行してください。または、すでに存在するキューを削除したあと、再度実行してください。

KFCA04375-E

指定されたキューファイル名 (aa....aa) は既に存在します。 (E)

aa....aa : キューファイル名

(S)処理を終了します。

(O)別の新しいキューファイル名を指定して、再度実行してください。または、-r オプションを指定して、再度実行してください。

KFCA04376-E

キューファイル (aa....aa) をクローズできません。
保守コード=bb....bb (E)

aa....aa : キューファイル名

bb....bb : 保守コード (OpenTP1 の各サービスが返すリターン値)

(S)処理を中断します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 メッセージに出力されているキューファイル名、保守コードを保守員に連絡してください。

KFCA04377-I

使用方法 : mqainit [-h usage] [-r] [-q キュー数]
[-m メッセージ数] [-s メッセージ長] キューファイル名 (S)

(S)mqainit コマンドの使用方法を示します。

KFCA04378-E

OpenTP1 ファイルシステム初期化時に指定したファイル数の上限値を超えたためキューファイルを作成できません。 (E)

(S)処理を中断します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 未使用のキューファイルを削除してください。

KFCA04379-E

指定したキューファイルに登録できるキュー数をオーバしました。 (E)

キューファイル作成時に指定したキュー数を超えたため、キューを登録できませんでした。

(S)処理を中断します。

(O)別のキューファイル名を指定し、再度実行してください。

KFCA04380-E

指定されたモデルキューの定義名は指定されたキュー属性定義ファイルには存在しません。 (E)

指定したキュー属性定義ファイル上に指定されたモデルキューの定義名は指定されていません。

(S)処理を中断します。

(O)キュー属性定義ファイル上に指定されたモデルキューの定義名を指定して、再度実行してください。

KFCA04382-E

ファイル (aa....aa) の書き込みに失敗しました。 (E)

aa....aa : ファイル名

(S)処理を中断します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 直前に出力された write システムコールのエラーコードを基に、エラーとなった原因を調査してください。

KFCA04383-E

ジャーナルファイルの確保に失敗したため、処理を続行できません。

要求ファイル容量 = aa....aa (L + E)

aa....aa : エラーが発生した場合の要求ファイル容量

(S)処理を中断します。

(O)要求ファイル容量分の空き領域をハードディスク内に確保したあと、再度実行してください。

KFCA04384-E

指定したキューファイルを割り当てるだけの空き容量がありません。 (E)

指定されたキューファイルを割り当てるだけの空き容量が指定したスペシャルファイルにはありません。

(S)処理を中断します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 割り当て量を小さくしてください。または割り当て先を別の OpenTP1 ファイルシステムにして、再度実行してください。

キューファイルを割り当てる場合は、OpenTP1 ファイルシステム領域の中で、連続した領域を確保する必要があります。連続した空き領域が確保できない場合は、OpenTP1 ファイルシステムのガーベジ

コレクション (OpenTP1 ファイルシステム中の使用中の領域を集中させ、空き領域を連続させること) が必要となります。

詳細については、マニュアル「OpenTP1 運用と操作」を参照してください。

KFCA04385-E

指定されたファイルは、キューファイルのバックアップファイルではありません。 (E)

(S)処理を中断します。

(O)正しいバックアップファイル名を指定して、再度実行してください。

KFCA04386-E

指定したファイル(aa....aa)は存在しません。 (L + E)

aa....aa : ファイル名

(S)処理を終了します。

(O)正しいファイル名を指定して、再度実行してください。

KFCA04387-E

指定したファイル (aa....aa) はキューファイルではありません。 (L + E)

aa....aa : ファイル名

(S)処理を中断します。

(O)正しいキューファイル名を指定して、再度実行してください。

KFCA04388-I

使用方法 : mqamkque [-h usage] [-c クラスタ内共用クラスタ名称] ローカルキュー名 モデルキューの定義名 キュー属性定義ファイル名 (S)

(S)mqamkque コマンドの使用方法を示します。

KFCA04390-E

ファイル (aa....aa) のクローズに失敗しました。 (E)

aa....aa : ファイル名

(S)処理を中断します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 直前に出力された close システムコールのエラーコードを基に、エラーとなった原因を調査してください。

KFCA04391-E

回復不能なエラーが発生しました。保守コード=aa....aa (E)

aa....aa : 保守コード (OpenTP1 の各サービスが返すリターン値)

(S)処理を中断します。

(O)メッセージに出力されている保守コードを保守員に連絡してください。

KFCA04392-I

使用方法 : mqarstr [-h usage] リストア元 リストア先 (S)

(S)mqarstr コマンドの使用方法を示します。

KFCA04393-E

キューファイルの領域確保に失敗しました。 (E)

キューファイルのファイルサイズ算出でオーバフローを起こしました。

(S)処理を中断します。

(O)パラメタの値を小さくして、再度実行してください。

KFCA04394-E

MQA バックアップファイルの V/R が誤っています。 (E)

MQA サービスのバージョンがバックアップファイルのバージョンよりも古いため処理を続行できません。

(S)処理を中断します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 MQA サービスとバックアップファイルのバージョンを一致させて、再度実行してください。

KFCA04395-E

指定したキュー (aa....aa) はメッセージが登録されているため削除できません。 (E)

aa....aa : キュー名

(S)処理を中断します。

(O)キューを確認したあと、再度実行してください。

KFCA04396-E

ファイル (aa....aa) の情報解析に失敗しました。 (E)

aa....aa : ファイル名

(S)処理を中断します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

[対策] 直前に出力された stat システムコールのエラーコードを基に、エラーとなった原因を調査してください。

KFCA04397-I

使用方法 : mqadelque [-h usage] [-m] ローカルキュー名 キューファイル名 [[キューファイル名]...]
(S)

(S)mqadelque コマンドの使用方法を示します。

KFCA04398-E

ファイル (aa....aa) の読み込みに失敗しました。 (E)

aa....aa : ファイル名

標準入力ファイルの場合は "standard input file" と出力します。

(S)処理を中断します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

[対策] 直前に出力された read システムコールのエラーコードを基に、エラーとなった原因を調査してください。

KFCA04399-E

ファイル (aa....aa) のオープンに失敗しました。 (E)

aa....aa : ファイル名

(S)処理を中止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

[対策] 直前に出力された open システムコールのエラーコードを基に、エラーとなった原因を調査してください。

3

KFCA10000 から KFCA19999 までのメッセージ

この章では、KFCA10000 から KFCA19999 までのメッセージについて説明します。

3.1 KFCA10000 から KFCA19999 までのメッセージ

KFCA16300-I

```
mmm MQT 通信プロセスを開始します。  
サーバ名=aa....aa
```

mmm : MQT 識別子

aa....aa : サーバ名

(S)処理を続行します。

KFCA16301-I

```
mmm MQT 通信プロセスを再開始します。  
サーバ名=aa....aa
```

mmm : MQT 識別子

aa....aa : サーバ名

(S)処理を続行します。

KFCA16302-I

```
mmm MQT サービスを開始しました。  
サーバ名=aa....aa
```

mmm : MQT 識別子

aa....aa : サーバ名

(S)処理を続行します。

KFCA16303-E

```
サーバ名 (aa....aa) が誤っています。
```

aa....aa : サーバ名

(S)MQT 通信プロセスを終了します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

[対策] 通信構成定義ファイルがあるかどうかを確認してください。または、MQT デーモン構成定義に指定する MQT サーバ名（通信構成定義ファイル名）が誤っていないか確認してください。

KFCA16304-W

mmm CCSID(aa....aa)を ASCII 文字コードとして仮定しました。

mmm : MQT 識別子

aa....aa : CCSID (文字セット識別子)

(S)MQT サーバが動作するプラットフォームで使用される文字を ASCII コードであると仮定し処理を続行します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 MQA サービス定義に指定したキューマネージャ文字セット識別子が ASCII コードに対応した値であることを確認してください。ASCII コードに対応した値でない場合は、チャンネルの開始を行わないでください。チャンネルの開始を行う場合は ASCII コードに対応した値に修正後、MQT 通信プロセスを再度起動してください。

KFCA16305-E

mmm イベント方式によるキュー監視処理中に不当なキュー名のイベントを検出しました。キュー名=aa....aa

mmm : MQT 識別子

aa....aa : キュー名

(S)処理を続行します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 次の点について見直して、MQT 通信プロセスを再開してください。

- MQT 通信構成定義の TCP 構成定義に指定したイニシエーションキュー名に別名が指定されていないか。
- MQT 通信構成定義のチャンネル定義に指定した転送キュー名に別名が指定されていないか。

KFCA16306-E

mmm 通信構成定義に誤りがあります。理由コード=aa....aa

mmm : MQT 識別子

aa....aa : 理由コード

(S)MQT 通信プロセスを終了します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 定義情報を理由コードに従って処置し、MQT 通信プロセスを再度起動してください。

理由コード	意味	対策
01010001	通信プロセス識別子が重複しています。	MQT 通信構成定義で指定した MQT 通信プロセス識別子を見直し、重複している MQT 通信プロセス識別子を変更して、再度起動してください。
01010002	MQT 通信構成定義のチャンネル情報が変更されているため再開始できません。	チャンネル情報を元に戻すか、正常開始をしてください。
01010003	mqamqtnam 定義コマンドで指定した MCA 数が、実際に使用するチャンネル数より小さい値に設定されています。	MQA の MQT デーモン構成定義で指定した MCA 数を見直して変更し、再度起動してください。
01010004	mqamqtnam 定義コマンドで指定した総バッチメッセージ数が、送信チャンネルで設定されたバッチサイズの総数より小さい値に設定されています。	MQA の MQT デーモン構成定義に指定した総バッチ数を見直して変更し、再度起動してください。
01010005	MQT 通信構成定義の TCP 定義コマンド名と MQA サービス定義の MQT デーモン構成定義に指定したプロトコル名が不一致です。	MQA の MQT デーモン構成定義に指定したプロトコル名を修正して再度起動してください。
01010006	MQA サービス定義のキューマネージャの文字セット識別子に不当な値が設定されました。	MQA サービス定義に指定したキューマネージャの文字セット識別子を ASCII コードに対応した値に変更して再度起動してください。
01010007	MQA サービス定義に MQA FRC の使用を指定した場合、チャンネル定義のバッファ方式にセグメント方式は指定できません。	すべてのチャンネル定義のバッファ方式にメッセージ方式を指定してください。
01010008	mqamqtnam 定義コマンドで指定した MQT サーバ名が不正です (MQT 通信構成定義ファイルではありません)。	MQA の MQT デーモン構成定義に MQT 通信構成定義ファイル名を指定してください。
01010009	mqamqtnam 定義コマンドで指定した MQT サーバ名が不正です (MQT 通信構成定義ファイルのバージョンが不一致です)。	MQT 定義オブジェクト生成ユーティリティおよび MQT 定義結合ユーティリティを使用して、MQT 定義オブジェクトを再作成してください。

KFCA16307-E

mmm トリガ起動処理中にキューファイルにおいて障害が発生したためトリガ起動機能を縮退します。

イニシエーションキュー名=aa....aa 命令名=bb....bb

理由コード=cc....cc

mmm : MQT 識別子

aa....aa : イニシエーションキュー名

bb....bb : 命令名

cc....cc : 理由コード (MQI の理由コード)

(S)トリガ起動機能を縮退し、処理を続行します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

[対策] トリガ起動機能を使用する場合は、cmqc.hまたはCMQV.cblのMQIヘッダファイルと、マニュアル「TP1/Message Queue プログラム作成リファレンス」から理由コード (MQRC*) を調査・処置し、MQT 通信プロセスを再度起動してください。

KFCA16308-E

mmm トリガメッセージに不正があるためトリガ起動機能を縮退します。
イニシエーションキュー名=aa....aa
理由コード=bb....bb

mmm : MQT 識別子

aa....aa : イニシエーションキュー名

bb....bb : 理由コード

(S)トリガ起動機能を縮退し、処理を続行します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

[対策] トリガ起動機能を使用する場合は、理由コードに従って処置し、MQT 通信プロセスを再度起動してください。

理由コード	意味	対策
01040001	トリガメッセージの形式が不正です。	MQT 通信構成定義で指定したイニシエーションキュー名を確認してください。

KFCA16309-E

mmm トリガ起動処理中に障害が発生したためトリガ起動機能を縮退します。
保守情報 1=aa....aa 保守情報 2=bb....bb
保守情報 3=cc....cc 保守情報 4=dd....dd,ee....ee

mmm : MQT 識別子

aa....aa : モジュール ID (保守情報)

bb....bb : 関数名称 (保守情報)

cc....cc : リターンコード (保守情報)

dd....dd : ステータス (保守情報)

ee....ee : イベント (保守情報)

(S)トリガ起動機能を縮退し, 処理を続行します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 直前に出力された KFCA163nn メッセージの障害要因を取り除き, MQT 通信プロセスを再起動してください。

KFCA16310-I

mmm MQT 通信プロセスの終了要求を受け付けました。

mmm : MQT 識別子

(S)仕掛かり中の送受信処理が完了したあと, MQT 通信プロセスを終了します。

KFCA16311-I

mmm MQT 通信プロセスを終了します。

mmm : MQT 識別子

(S)MQT 通信プロセスを終了します。

KFCA16312-E

mmm 終了処理完了待ち時間監視でタイムアウトが発生しました。

mmm : MQT 識別子

(S)メッセージ送受信を中断し, MQT 通信プロセスを終了します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 MQT 通信構成定義の終了処理完了待ちタイマ値を見直してください。

KFCA16313-W

mmm リポジトリ管理インタフェースに異常を検出しました。

回復するまで新たなチャンネルの開始を抑止します。

チャンネル名=aa....aa : bbb

保守情報 1=cc....cc 保守情報 2=dd....dd,ee....ee

保守情報 3=ff....ff

mmm : MQT 識別子

aa....aa : チャネル名

bbb : チャネルタイプ

csn : クラスタセンダ

csc : クラスタレシーバ

cc....cc : モジュール ID (保守情報)

dd....dd : 関数名称 (保守情報)

ee....ee : リターンコード (保守情報)

ff....ff : チャネル状態 (保守情報)

(S)該当するプロセスのチャネル開始を抑止します。動作中のチャネルは、処理を続行します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

[対策] リポジトリ管理の状態を確認し、障害要因を取り除いてください。

KFCA16314-I

mmm リポジトリ管理インタフェースの回復を検出しました。

mmm : MQT 識別子

(S)該当するプロセスのチャネル開始を再開します。

KFCA16315-E

mmm キューが他のシステムサーバで使用されています。キューが使用できません。

チャネル名=aa....aa : bbb キュー名=cc....cc

mmm : MQT 識別子

aa....aa : チャネル名 (チャネルのトリガ起動処理では、****を出力します)

bbb : チャネルタイプ

snd : センダ

srv : サーバ

csn : クラスタセンダ

*** : トリガ起動処理

cc....cc : キュー名

(S)メッセージの取り出し処理を中断します。送信チャネルでこのエラーを検出した場合は、該当チャネルを終了します。

(O)同じ OpenTP1 システムで動作するほかの通信サーバに指定されているキュー名称と重複していないかを確認してください。

KFCA16316-E

```
mmm コネクションの確立再試行を中断します。  
チャンネル名=aa....aa : bbb  
IP アドレス=cc....cc  
ポート番号=dd....dd
```

mmm : MQT 識別子

aa....aa : チャンネル名

bbb : チャンネルタイプ

snd : センダ

srv : サーバ

req : リクエスト

csn : クラスタセンダ

cc....cc : 相手システムの IP アドレス

dd....dd : 相手システムのポート番号

(S)チャンネル確立処理を中断し、チャンネルを停止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 直前に出力されたメッセージの障害要因を取り除き、mqtstacha コマンドを入力してチャンネルを開始してください。

KFCA16317-E

```
mmm 相手システムとの間でチャンネル状態の不一致が発生しました。  
チャンネル名=aa....aa : bbb  
IP アドレス=cc....cc  
ポート番号=dd....dd  
相手キューマネージャ名=ee....ee
```

mmm : MQT 識別子

aa....aa : チャンネル名

bbb : チャンネルタイプ

snd : センダ

srv：サーバ
req：リクエスト
rcv：レシーバ
csn：クラスタセンダ
crc：クラスタレシーバ

cc....cc：相手システムの IP アドレス

dd....dd：相手システムのポート番号

ee....ee：相手キューマネージャ名

相手キューマネージャ名が特定できない場合、****を出力します。また、33バイト以降は...を出力します。

(S)処理を続行します。

(O)「チャンネル使用不可」、または「チャンネル停止」以外の状態のチャンネルに対して、ネットワークリクエストを受け付けました。その相手と通信する場合は、該当チャンネルを mqtstpcha コマンドまたは -f オプションを指定した mqtstpcha コマンドで一度終了し、mqtstacha コマンドで「チャンネル停止」にしてください。

KFCA16318-I

```
mmm コネクションの確立再試行を開始します。  
チャンネル名=aa....aa：bbb IP アドレス=cc....cc  
ポート番号=dd....dd 種別=eeee
```

mmm：MQT 識別子

aa....aa：チャンネル名

bbb：チャンネルタイプ

snd：センダ
srv：サーバ
req：リクエスト
csn：クラスタセンダ

cc....cc：相手システムの IP アドレス

dd....dd：相手システムのポート番号

eeee：確立再試行の種別

short：短期確立再試行
long：長期確立再試行

(S)コネクションの確立再試行処理をします。

KFCA16319-I

mmm 相手チャンネル (aa....aa : bbb) に開始を要求しました。

mmm : MQT 識別子

aa....aa : チャンネル名

bbb : チャンネルタイプ

snd : センダ

(S)チャンネルを停止します。

KFCA16320-I

mmm チャンネル (aa....aa : bbb) を確立しました。
相手キューマネージャ名=cc....cc

mmm : MQT 識別子

aa....aa : チャンネル名

bbb : チャンネルタイプ

snd : センダ

srv : サーバ

rcv : レシーバ

req : リクエスト

csn : クラスタセンダ

crc : クラスタレシーバ

cc....cc : 相手キューマネージャ名

相手キューマネージャ名が特定できない場合, ****を出力します。また, 33 バイト以降は...を出力します。

(S)処理を続行します。

KFCA16321-I

mmm チャンネル (aa....aa : bbb) を解放しました。
相手キューマネージャ名=cc....cc

mmm : MQT 識別子

aa....aa : チャンネル名

bbb : チャンネルタイプ

snd : センダ

srv：サーバ
rcv：レシーバ
req：リクエスト
csn：クラスタセンダ
crc：クラスタレシーバ

CC....CC：相手キューマネージャ名

相手キューマネージャ名が特定できない場合、****を出力します。また、33バイト以降は...を出力します。

(S)処理を続行します。

KFCA16322-E

mmm チャンネル (aa....aa：bbb) の確立に失敗しました。
相手キューマネージャ名=cc....cc

mmm：MQT 識別子

aa....aa：チャンネル名

bbb：チャンネルタイプ

snd：センダ
srv：サーバ
rcv：レシーバ
req：リクエスト
csn：クラスタセンダ
crc：クラスタレシーバ

CC....CC：相手キューマネージャ名

相手キューマネージャ名が特定できない場合、****を出力します。また、33バイト以降は...を出力します。

(S)チャンネルの確立処理を終了し、チャンネルを停止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】直前に出力されたメッセージの障害原因を取り除き、mqtstacha コマンドを実行してください。

KFCA16323-E

mmm 不正データを受信しました。
チャンネル名=aa....aa：bbb IP アドレス=cc....cc
ポート番号=dd....dd 理由コード=ee....ee
相手キューマネージャ名=ff....ff

mmm : MQT 識別子

aa....aa : チャンネル名 (チャンネル名が特定できない場合, ****を出力します)

bbb : チャンネルタイプ

snd : センダ

srv : サーバ

rcv : レシーバ

req : リクエスト

csn : クラスタセンダ

crc : クラスタレシーバ

*** : チャンネルタイプ不明

cc....cc : 相手システムの IP アドレス

dd....dd : 相手システムのポート番号

ee....ee : 保守情報

ff....ff : 相手キューマネージャ名

相手キューマネージャ名が特定できない場合, ****を出力します。また, 33 バイト以降は...を出力します。

(S)処理を中断し, チャンネルを停止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】理由コードに従って処置してください。

理由コード	意味	対策
03031FXX	開始要求データが不正です。	相手システムが TP1/Message Queue でない場合は, 送信した開始要求データが正しいかどうか, 相手システムで確認してください。 相手システムが TP1/Message Queue の場合は, マニュアル「TP1/Message Queue 使用の手引」の障害時に取得する情報についての記述を参照して, 相手システムと自システムで出力されている資料をすべて採取後, 保守員に連絡してください。主に出力される資料を次に示します。 <ul style="list-style-type: none">• メッセージログファイル• コンソールメッセージ• コマンド実行時の標準出力・標準エラー出力• コアファイル (./core)• MQT トレースファイル• チャンネル管理情報格納ファイル
0402ff76	不当分割メッセージを受信しました。 次に示す二つの条件を同時に満たした場合に発生します。	TP1/Message Queue の受信側チャンネルのバッファ方式をセグメント方式 (mqtalcccha -g buftype=seg) に変更することで回避できます。

理由コード	意味	対策
0402ff76	<ul style="list-style-type: none"> 送信側相手システムが他社の MQ システム製品 TP1/Message Queue の受信側チャンネルのバッファ方式がセグメント方式 (mqtalcccha -g buftype=seg) 	<p>二つの発生条件のうち、二つとも満たしていない場合、またはどちらか一つだけ満たしている場合に、この理由コードが出力された場合は、マニュアル「TP1/Message Queue 使用の手引」の障害時に取得する情報についての記述を参照して、出力されている資料をすべて採取後、保守員に連絡してください。主に出力される資料を次に示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> メッセージログファイル コンソールメッセージ コマンド実行時の標準出力、標準エラー出力 コアファイル (./core) MQT トレースファイル チャンネル管理情報格納ファイル
上記以外	その他	<p>マニュアル「TP1/Message Queue 使用の手引」の障害時に取得する情報についての記述を参照して、出力されている資料をすべて採取後、保守員に連絡してください。主に出力される資料を次に示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> メッセージログファイル コンソールメッセージ コマンド実行時の標準出力・標準エラー出力 コアファイル (./core) MQT トレースファイル チャンネル管理情報格納ファイル

(凡例)

XX：任意の 16 進数字

KFCA16324-E

```
mmm プロトコルエラーが発生しました。
チャンネル名=aa....aa : bbb IP アドレス=cc....cc
ポート番号=dd....dd 保守情報=ee....ee
相手キューマネージャ名=ff....ff
```

mmm：MQT 識別子

aa....aa：チャンネル名（チャンネル名が特定できない場合、****を出力します）

bbb：チャンネルタイプ

snd：センダ

srv：サーバ

rcv：レシーバ

req：リクエスト

csn：クラスタセンダ

crc：クラスタレシーバ
***：チャンネルタイプ不明

cc....cc：相手システムの IP アドレス

dd....dd：相手システムのポート番号

ee....ee：保守情報

ff....ff：相手キューマネージャ名

相手キューマネージャ名が特定できない場合、****を出力します。また、33 バイト以降は...を出力します。

(S)処理を中断し、チャンネルを停止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 相手システムが TP1/Message Queue でない場合は、送信したデータが正しいかどうか、相手システムで確認してください。

また、保守情報が「0402ff15」の場合は、相手システムが IBM MQ で、送信側チャンネル属性 (BATCHEHB 属性) に 0 以外が設定されている可能性があります。BATCHEHB 属性には 0 を設定してください。

相手システムが TP1/Message Queue の場合は、マニュアル「TP1/Message Queue 使用の手引」の障害時に取得する情報についての記述を参照して、相手システムと自システムで出力されている資料をすべて採取後、保守員に連絡してください。主に出力される資料を次に示します。

- メッセージログファイル
- コンソールメッセージ
- コマンド実行時の標準出力・標準エラー出力
- コアファイル (./core)
- MQT トレースファイル
- チャンネル管理情報格納ファイル

KFCA16325-I

mmm チャンネル (aa....aa : bbb) は使用可能になりました。
相手キューマネージャ名=cc....cc

mmm：MQT 識別子

aa....aa：チャンネル名

bbb：チャンネルタイプ

snd：センダ

srv：サーバ

rcv：レシーバ
req：リクエスタ
csn：クラスタセンダ
crc：クラスタレシーバ

CC....CC：相手キューマネージャ名

相手キューマネージャ名が特定できない場合、****を出力します。また、33バイト以降は...を出力します。

(S)処理を続行します。

KFCA16326-I

mmm チャンネル (aa....aa：bbb) は使用不可能になりました。
相手キューマネージャ名=cc....cc

mmm：MQT 識別子

aa....aa：チャンネル名

bbb：チャンネルタイプ

snd：センダ
srv：サーバ
rcv：レシーバ
req：リクエスタ
csn：クラスタセンダ
crc：クラスタレシーバ

CC....CC：相手キューマネージャ名

相手キューマネージャ名が特定できない場合、****を出力します。また、33バイト以降は...を出力します。

(S)処理を続行します。

KFCA16327-E

mmm nn....nn にホスト情報 (aa....aa) が設定されていません。
チャンネル名=bb....bb：ccc

mmm：MQT 識別子

nn....nn：ホスト名ファイル

aa....aa：ホスト名またはドメイン名 (ドメイン名は最大 32 バイト出力されます)

bb....bb：チャンネル名

ccc：チャンネルタイプ

snd：センダ

srv：サーバ

rcv：レシーバ

req：リクエスト

csn：クラスタセンダ

crc：クラスタレシーバ

(S)チャンネルを停止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 ホスト名ファイルまたはネームサーバにホスト情報を登録したあと、チャンネルを起動してください。

KFCA16328-E

```
mmm nn....nn にサービス情報 (aa....aa) が設定されていません。  
チャンネル名=bb....bb：ccc
```

mmm：MQT 識別子

nn....nn：サービス名ファイル

aa....aa：サービス名

bb....bb：チャンネル名（チャンネルが未定の場合は****を出力します）

ccc：チャンネルタイプ

snd：センダ

srv：サーバ

rcv：レシーバ

req：リクエスト（チャンネルが未定の場合は***を出力します）

csn：クラスタセンダ

crc：クラスタレシーバ

(S)チャンネルを停止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 サービス名ファイルにサービス情報を登録してください。さらに、MQT 通信プロセスが終了している場合は再度開始し、チャンネルだけが停止している場合はチャンネルを起動してください。

KFCA16329-E

```
mmm メッセージ受信待ち時間監視でタイムアウトが発生しました。
```

チャンネル名=aa....aa : bbb 監視対象=cccc
相手キューマネージャ名=dd....dd

mmm : MQT 識別子

aa....aa : チャンネル名 (チャンネルが未定の場合は****を出力します)

bbb : チャンネルタイプ

snd : センダ

srv : サーバ

rcv : レシーバ

req : リクエスト (チャンネルが未定の場合は***を出力します)

csn : クラスタセンダ

crc : クラスタレシーバ

cccc : 監視対象メッセージ

init : チャンネル開始要求応答 (mqtalcccha -v tim1 による監視)

resp : 確認メッセージ (mqtalcccha -v tim2 による監視)

next : 継続メッセージ (mqtalcccha -v tim3, mtim による監視)

inrq : チャンネル開始要求 (mqtttcp -v rtim, または mqttcpcr -v rtim による監視)

htbt : ハートビートメッセージ (mqtalcccha -v htim による監視)

dd....dd : 相手キューマネージャ名

相手キューマネージャ名が特定できない場合, ****を出力します。また, 33 バイト以降は...を出力します。

(S)メッセージの送受信処理を中断し, チャンネルを停止します。

また, チャンネルがコーラ側として動作していた場合は, MQT 通信構成定義のタイムアウト時のチャンネル確立の再試行 (mqtalcccha -v vretry) の指定に従って, チャンネル確立を再試行します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 通信相手システムの状態と MQT 通信構成定義のタイマ値を確認し, タイマ値を修正して, 再度 MQT 通信プロセスを起動してください。

KFCA16330-E

mmm チャンネルに指定されたバッファグループ番号が不正です。
チャンネル名=aa....aa : bbb バッファグループ番号=cc
相手キューマネージャ名=dd....dd

mmm : MQT 識別子

aa....aa : チャンネル名 (チャンネルが未定の場合は****を出力します)

bbb : チャネルタイプ

snd : センダ

srv : サーバ

rcv : レシーバ

req : リクエスト (チャネルが未定の場合は***を出力します)

csn : クラスタセンダ

crc : クラスタレシーバ

cc : バッファグループ番号

dd...dd : 相手キューマネージャ名

相手キューマネージャ名が特定できない場合, ****を出力します。また, 33 バイト以降は...を出力します。

(S)チャネルを終了します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 チャネル定義 (mqtalcccha -g, -e) に指定したバッファグループ番号, またはユーザOWNコーディングでチャネル属性 (mqcd) に指定したバッファグループ番号のバッファグループのバッファを, 現在動作しているチャネルがすでに全面数分使用しています。バッファ面数を追加してください。

KFCA16331-E

mmm TCP/IP インタフェースでエラーが発生しました。

チャネル名=aa....aa : bbb ソケット関数名=cc....cc エラーコード=ddd

相手キューマネージャ名=ee....ee

mmm : MQT 識別子

aa....aa : チャネル名 (チャネルが未定の場合は****を出力します)

bbb : チャネルタイプ

snd : センダ

srv : サーバ

rcv : レシーバ

req : リクエスト (チャネルが未定の場合は***を出力します)

csn : クラスタセンダ

crc : クラスタレシーバ

cc....cc : ソケット関数名

ddd : TCP/IP の障害エラー番号 (障害エラー番号がない場合は***を出力します)

ee....ee : 相手キューマネージャ名

相手キューマネージャ名が特定できない場合、****を出力します。また、33バイト以降は...を出力します。

(S)チャンネルを停止します。

開始要求受信用ポートで異常を検出した場合（チャンネル名に***出力，チャンネルタイプに***出力）は，ネットワークリクエストによるチャンネルの起動機能を縮退します。このため，レスポンド側のチャンネルは開始できません。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 次に示す対策を行ってください。

- 障害エラー番号に***が出力された場合は，相手システムの状態を確認してください。
- 開始要求受信用ポートで異常を検出した場合は，MQT 通信プロセスを再起動してください。
- ソケット関数名に示す関数のエラーコードを使用している OS のマニュアルで調査してください。

KFCA16332-W

mmm TCP/IP インタフェースでエラーが発生しました。

ネットワークリクエスト受付処理を続行します。ソケット関数名=aa....aa エラーコード=bbb

IP アドレス=cc....cc ポート番号=dd....dd

mmm : MQT 識別子

aa....aa : ソケット関数名

bbb : TCP/IP の障害エラー番号（障害エラー番号がない場合は***を出力します）

cc....cc : 相手システムの IP アドレス（TCP/IP 接続完了前は 0.0.0.0 を出力します）

dd....dd : 相手システムのポート番号（TCP/IP 接続完了前は 0 を出力します）

(S)開始要求受信用ポートで異常を検出しました。ネットワークリクエストによるチャンネルの起動機能は処理を続行します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 次に示す対策を行ってください。

- 障害エラー番号に***が出力された場合は，相手システムの状態を確認してください。
- ソケット関数名に示す関数のエラーコードを使用している OS のマニュアルで調査してください。

KFCA16333-E

mmm メッセージ処理中にキューファイルにおいて障害が発生しました。

チャンネル名=aa....aa : bbb キュー名=cc....cc

命令名=dd....dd 理由コード ee....ee

mmm : MQT 識別子

aa....aa : チャネル名

bbb : チャネルタイプ

snd : センダ

srv : サーバ

rcv : レシーバ

req : リクエスト

csn : クラスタセンダ

crc : クラスタレシーバ

cc....cc : キュー名

ただし、リモートキューのローカル定義名（またはクラスタキュー名）の場合、実際に障害となったキューは転送キュー（またはクラスタ転送キュー）の可能性があります。

dd....dd : 命令名

ee....ee : 理由コード (MQI の理由コード)

ff....ff : 相手キューマネージャ名

相手キューマネージャ名が特定できない場合、****を出力します。また、33 バイト以降は...を出力します。

(S)チャネルを停止します。

ただし、宛先キューの障害でデッドレターキューにメッセージを登録できれば、処理を続行します。

(O)下記のとおり対策してください。理由コードの値と理由コード (MQRC*またはMQFB*) の対応については、cmqc.h または CMQV.cbl の MQI ヘッダファイルを参照してください。

理由コード	意味	対策
MQRC_HANDLE_NOT_AVAILABLE	MQT サーバで使用している MQA サービス定義のオブジェクトハンドルの数が、mqaquemgr -h オプションで指定する最大ハンドルの数を超えました。	mqaquemgr -h オプションで指定する最大ハンドルの数を大きくしてください。
その他	—	マニュアル「TP1/Message Queue プログラム作成リファレンス」から理由コード (MQRC*) を調査し、処置してください。

(凡例)

— : 該当しません。

KFCA16334-E

mmm 転送メッセージから異常を検出しました。
チャンネル名=aa....aa : bbb キュー名=cc....cc
理由コード=dd....dd

mmm : MQT 識別子

aa....aa : チャンネル名

bbb : チャンネルタイプ

snd : センダ

srv : サーバ

rcv : レシーバ

req : リクエスト

csn : クラスタセンダ

crc : クラスタレシーバ

cc....cc : キュー名

dd....dd : 理由コード (MQI の理由コード)

(S)チャンネルを停止します。

MQA サービス定義の mqaquemgr 定義コマンドの-d オプションにデッドレターキュー名が指定されていて、そのデッドレターキューにメッセージが登録できる場合は、チャンネルはメッセージの転送を続行します。

デッドレターキューにメッセージを登録できない場合、ファーストメッセージは削除されます。ファーストメッセージ以外の場合は転送キューに戻ります。

(O)下記のとおり対策してください。理由コードの値と理由コード (MQRC*または MQFB*) の対応については、cmqc.h または CMQV.cbl の MQI ヘッダファイルを参照してください。

理由コード	意味	対策
MQFB_XMIT_Q_MSG_ER ROR	メッセージのヘッダ形式が不正です。	ヘッダのアイキャッチャおよびバージョンを見直してください。 転送キューに登録されたメッセージの先頭に MQXQH 構造体があることを確認してください。
	メッセージのヘッダおよびアプリケーションメッセージのデータ変換失敗	ヘッダ内の文字列領域に不当な値が指定されていないか確認してください。
	配布リスト付きメッセージを検出したが、該当チャンネルでは送信できません。	相手システムで配布リスト機能をサポートされているか確認してください。 自システムの該当するチャンネルの定義のパッファ方式を msg にしてください。

理由コード	意味	対策
MQRC_CONVERTED_MS G_TOO_BIG	データ変換を行う前のメッセージサイズ、またはデータ変換を行ったあとのメッセージサイズが、チャンネルの最大メッセージ長または最大セグメント長をオーバーしました。	<ul style="list-style-type: none"> 自システムおよび相手システムのチャンネル定義に指定した、最大メッセージ長、最大セグメント長、および送信バッファグループのバッファサイズを見直してください。 チャンネル定義 (mqtalcccha -d cnvccsid) に指定した値を見直してください。チャンネル定義の詳細については、マニュアル「TP1/Message Queue 使用の手引」の「mqtalcccha (チャンネル定義)」の説明の注意事項を参照してください。
MQRC_FORMAT_ERROR	アプリケーションメッセージのフォーマットが不正です。	メッセージのフォーマットに、MQFMT_STRING または MQFMT_NONE が指定されているか確認してください。
MQRC_MSG_TOO_BIG_F OR_CHANNEL	チャンネルの最大メッセージ長がオーバーしています。	<p>自システムおよび相手システムのチャンネル定義に指定した最大メッセージ長および送信バッファグループのバッファサイズを見直してください。</p> <p>MQ システムによっては、メッセージ転送時のチャンネルによるセグメント分割機能を持っていないことがあります。そのような MQ システムと接続する送信チャンネルは、一つのセグメントでメッセージを送信する必要があります。</p> <p>その場合、最大セグメントサイズ-476 バイトを超えるメッセージの送信はできません。最大セグメントサイズおよび送信バッファグループのバッファサイズを見直してください。</p>
MQRC_NOT_CONVERTED	アプリケーションメッセージデータの変換時にエラーが発生しました。	アプリケーションメッセージの内容を確認してください。
MQRC_SOURCE_CCSDID_ ERROR	メッセージの CCSID を変換できません。	メッセージに指定されている CCSID を確認してください。
MQRC_TARGET_CCSDID_ ERROR	チャンネル定義の変換後 CCSID に変換できません。	チャンネル定義の変換後 CCSID を確認してください。

KFCA16335-W

mmm 送信したメッセージが相手システムでデッドレターキューに登録されました。
チャンネル名=aa....aa : bbb

mmm : MQT 識別子

aa....aa : チャンネル名

bbb : チャンネルタイプ

snd : センダ

srv : サーバ

rcv : レシーバ

req : リクエスト

csn : クラスタセンダ

crc：クラスタレシーバ

(S)処理を続行します。

(O)相手システムに出力された障害メッセージに従って処置してください。

KFCA16336-I

```
mmm リセットデータを受信しました。  
チャンネル名=aa....aa：bbb  
シーケンス番号=cc....cc  
相手キューマネージャ名=dd....dd
```

mmm：MQT 識別子

aa....aa：チャンネル名

bbb：チャンネルタイプ

snd：センダ

srv：サーバ

rcv：レシーバ

req：リクエスト

csn：クラスタセンダ

crc：クラスタレシーバ

cc....cc：新メッセージシーケンス番号

dd....dd：相手キューマネージャ名

相手キューマネージャ名が特定できない場合、****を出力します。また、33バイト以降は...を出力します。

(S)リセットデータに指定されている値でメッセージシーケンス番号をリセットし、処理を続行します。

KFCA16337-I

```
mmm Ping データを受信しました。  
チャンネル名=aa....aa：bbb  
相手キューマネージャ名=cc....cc
```

mmm：MQT 識別子

aa....aa：チャンネル名

bbb：チャンネルタイプ

snd：センダ

srv：サーバ
rcv：レシーバ
req：リクエスト
csn：クラスタセンダ
crc：クラスタレシーバ

CC....CC：相手キューマネージャ名

相手キューマネージャ名が特定できない場合、****を出力します。また、33バイト以降は...を出力します。

(S)送信側に Ping データの応答を送信し、チャンネルを停止します。

KFCA16338-W

mmm 転送メッセージをデッドレターキューに登録しました。
チャンネル名=aa....aa：bbb デッドレターキュー名=cc....cc
相手キューマネージャ名=dd....dd

mmm：MQT 識別子

aa....aa：チャンネル名

bbb：チャンネルタイプ

snd：センダ
srv：サーバ
rcv：レシーバ
req：リクエスト
csn：クラスタセンダ
crc：クラスタレシーバ

CC....CC：デッドレターキュー名

dd....dd：相手キューマネージャ名

相手キューマネージャ名が特定できない場合、****を出力します。また、33バイト以降は...を出力します。

(S)処理を続行します。

(O)デッドレターキューからメッセージを取り出し、直前に出力されている KFCA163nn のメッセージに従って処置してください。

KFCA16339-I

mmm チャンネル開始要求に指定されたチャンネル名は通信構成定義に定義されていません。
チャンネル名=aa....aa IP アドレス=bb....bb
ポート番号=cc....cc

mmm : MQT 識別子

aa....aa : チャンネル名

bb....bb : 相手システムの IP アドレス

cc....cc : 相手システムのポート番号

(S) ネットワークリクエストによるチャンネルの確立を拒否し、処理を続行します。

(O) OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 通信相手システムの状態、または MQT 通信構成定義に該当チャンネルが定義されているかを確認してください。

KFCA16340-I

```
mmm コネクション確立の再試行回数を超えました。  
チャンネル名=aa....aa : bbb IP アドレス=cc....cc  
ポート番号=dd....dd 種別=eeee
```

mmm : MQT 識別子

aa....aa : チャンネル名

bbb : チャンネルタイプ

snd : センダ

srv : サーバ

req : リクエスト

csn : クラスタセンダ

cc....cc : 相手システムの IP アドレス

dd....dd : 相手システムのポート番号

eeee : 確立再試行の種別

short : 短期確立再試行

long : 長期確立再試行

(S) チャンネル確立処理を終了し、チャンネルを停止します。

(O) OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 通信相手システムの状態、通信構成定義のチャンネル定義に指定したコネクション確立再試行回数を見直してください。

KFCA16341-E

mmm チャンネル開始要求の応答を受け入れられません。
チャンネル名=aa....aa : bbb 理由コード=cc
相手キューマネージャ名=dd....dd

mmm : MQT 識別子

aa....aa : チャンネル名

bbb : チャンネルタイプ

snd : センダ

srv : サーバ

rcv : レシーバ

req : リクエスト

csn : クラスタセンダ

crc : クラスタレシーバ

cc : 理由コード

dd....dd : 相手キューマネージャ名

相手キューマネージャ名が特定できない場合、****を出力します。また、33バイト以降は...を出力します。

(S)チャンネル確立処理を中断し、チャンネルを停止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】理由コードに従って処置してください。

理由コード	意味	対策
00	チャンネル開始要求の応答を受け入れられません。	KFCA16342-E で示す内容を確認してください。
01	チャンネル定義が見つかりません。	<ul style="list-style-type: none">相手システムのチャンネル定義を確認してください。チャンネル定義のチャンネルタイプ (mqtalcccha -y type) に csn を指定し、かつ相手システムが TP1/Message Queue の場合は、相手システムの MQT デーモン構成定義 (mqamqtnam) に指定した MCA 数を大きくしてください。
02	チャンネルタイプが誤っています。	相手システムのチャンネル定義のチャンネルタイプを確認してください。
03	リモートキューマネージャが動作していません。	相手システムのキューマネージャの状態を確認してください。
05	リモートキューマネージャが終了中です。	相手システムのキューマネージャの状態を確認してください。

理由コード	意味	対策
06	リモートキューマネージャがメッセージを格納できません。	相手システムのキューマネージャの状態を確認してください。
07	ユーザがチャンネルを終了させました。	相手システムのチャンネルを開始してください。
11	バッチサイズが不正です。	相手システムのチャンネル定義のバッチサイズを確認してください。
12	メッセージ長が不正です。	相手システムのチャンネル定義のメッセージ長を確認してください。
14	セキュリティが不正です。	相手システムのセキュリティ出口処理を確認してください。
15	メッセージシーケンス番号最大値が不正です。	相手システムのチャンネル定義のメッセージシーケンス番号最大値を確認してください。
16	チャンネルが使用できません。	相手システムのチャンネルの状態を確認してください。
17	出口からチャンネルの終了を要求されました。	相手システムの出口処理を確認してください。
**	相手システムで異常を検出しました。	相手システムの状態を確認してください。
上記以外	その他	<p>マニュアル「TP1/Message Queue 使用の手引」の障害時に取得する情報についての記述を参照して、出力されている資料をすべて採取後、保守員に連絡してください。主に出力される資料を次に示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • メッセージログファイル • コンソールメッセージ • コマンド実行時の標準出力・標準エラー出力 • コアファイル (./core) • MQT トレースファイル • チャンネル管理情報格納ファイル

KFCA16342-E

mmm 要求拒否理由= (aa....aa : bb....bb)

mmm : MQT 識別子

aa....aa : チャンネル属性名

MaxTransmissionSize : 最大セグメントサイズ受け入れ不可

FapLevel : メッセージチャンネルプロトコルレベル不一致

MaxMsgSize : 最大メッセージ長受け入れ不可

MaxBatchSize : バッチの最大メッセージ数受け入れ不可

SeqWrapValue : メッセージシーケンス番号の最大値不一致

SeqNum : メッセージシーケンス番号使用不可

SplitMsg : 分割転送ができないため、1 セグメントで最大メッセージの転送不可

FastMsg：ファーストメッセージ機能を未使用不可
DistributionList：配布リスト機能を未使用不可
HeartBeatInterval：ハートビートインターバル受け入れ不可
Encoding：エンディアン（ビッグエンディアン，リトルエンディアン以外）受け入れ不可
CCSID：CCSID 受け入れ不可

bb...bb：相手 MCA 応答値

SeqNum または SplitMsg 時には'NoUse'を出力します。

(S)チャンネル確立処理を中断し，チャンネルを停止します。

(O)要求拒否理由に従って，MQA サービス定義，MQT 通信構成定義，および相手システムのチャンネル属性を見直してください。

自システムの値を次に示します。

MaxTransmissionSize：mqtalccha -m maxseg

FapLevel：4 または 1

MaxMsgSize：mqtalccha -m maxmsg

MaxBatchSize：mqtalccha -j

SeqWrapValue：mqtalccha -w

SeqNum：Use

SplitMsg：Use

FastMsg：

mqtalccha -s npmspeed=normal の場合 NoUse

mqtalccha -s npmspeed=fast の場合 Use

DistributionList：

mqtalccha -g buftype=seg の場合 NoUse

mqtalccha -g buftype=msg の場合 Use

HeartBeatInterval：mqtalccha -v htim

Encoding：UNIX の場合 1 (Big-endian)，Windows の場合 2 (little-endian)

CCSID：TP1/Message Queue 05-10 より前の場合は 897 (CodedCharacterSet JapanPC#1)，

TP1/Message Queue 05-10 以降の場合は MQA サービス定義 mqa_local_ccsid オペランド

KFCA16343-E

mmm 相手システムとの間でシーケンス番号の不一致が発生しました。

チャンネル名=aa....aa：bbb

自システムのシーケンス番号=cc....cc

相手システムのシーケンス番号=dd....dd

相手キューマネージャ名=ee....ee

mmm : MQT 識別子

aa....aa : チャンネル名

bbb : チャンネルタイプ

snd : センダ

srv : サーバ

rcv : レシーバ

req : リクエスト

cc....cc : 自システムのメッセージシーケンス番号 (仕掛かりシーケンス番号)

dd....dd : 相手システムのメッセージシーケンス番号

ee....ee : 相手キューマネージャ名

相手キューマネージャ名が特定できない場合, ****を出力します。また, 33 バイト以降は...を出力します。

(S)メッセージの転送を中断し, チャンネルを停止します。

(O)mqtrstcha コマンドを入力して相手システムとメッセージシーケンス番号を一致させてください。メッセージシーケンス番号については, マニュアル「TP1/Message Queue 使用の手引」の「メッセージシーケンス番号でのメッセージの管理」の記述を参照してください。

KFCA16344-I

mmm Ping データの送信を完了しました。

チャンネル名=aa....aa : bbb データ長=cc....cc

mmm : MQT 識別子

aa....aa : チャンネル名

bbb : チャンネルタイプ

snd : センダ

srv : サーバ

csn : クラスタセンダ

cc....cc : データ長

(S)Ping 処理を続行します。

KFCA16345-E

mmm エラーデータを受信しました。

チャンネル名=aa....aa : bbb IP アドレス=cc....cc

ポート番号=dd....dd 理由コード=ee

mmm : MQTT 識別子

aa....aa : チャネル名

bbb : チャネルタイプ

snd : センダ

srv : サーバ

rcv : レシーバ

req : リクエスト

csn : クラスタセンダ

crc : クラスタレシーバ

cc....cc : 相手システムの IP アドレス

dd....dd : 相手システムのポート番号

ee : 理由コード

(S)処理を中断し、チャネルを停止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】理由コードに従って処置してください。

理由コード	意味	対策
03	リモートキューマネージャが動作していません。	相手システムのキューマネージャの状態を確認してください。
05	リモートキューマネージャが終了中です。	相手システムのキューマネージャの状態を確認してください。
06	リモートキューマネージャがメッセージを格納できません。	相手システムのキューマネージャの状態を確認してください。
14	セキュリティが不正です。	相手システムのセキュリティ出口処理を確認してください。
16	チャネルが使用できません。	相手システムのチャネルの状態を確認してください。
17	出口からチャネルの終了を要求されました。	相手システムの出口処理を確認してください。
**	相手システムで異常を検出しました。	相手システムの状態を確認してください。
上記以外	その他	マニュアル「TP1/Message Queue 使用の手引」の障害時に取得する情報についての記述を参照して、出力されている資料をすべて採取後、保守員に連絡してください。主に出力される資料を次に示します。 <ul style="list-style-type: none">• メッセージログファイル

理由コード	意味	対策
上記以外	その他	<ul style="list-style-type: none"> • コンソールメッセージ • コマンド実行時の標準出力・標準エラー出力 • コアファイル (./core) • MQT トレースファイル • チャンネル管理情報格納ファイル

KFCA16346-E

mmm UOC インタフェースにおいてエラーが発生しました。
 チャンネル名=aa....aa : bbb UOC 種別=ccc : dddd 出口応答=ee....ee
 相手キューマネージャ名=ff....ff

mmm : MQT 識別子

aa....aa : チャンネル名

bbb : チャンネルタイプ

snd : センダ

srv : サーバ

rcv : レシーバ

req : リクエスト

csn : クラスタセンダ

crc : クラスタレシーバ

ccc : UOC 種別

MED : メッセージ編集出口

dddd : UOC 呼び出し理由

ALT : 属性変更

INIT : 初期化

TERM : 終了

MSG : メッセージ処理

ee....ee : UOC インタフェースの出口応答 (ExitResponse)

ff....ff : 相手キューマネージャ名

相手キューマネージャ名が特定できない場合、****を出力します。また、33バイト以降は...を出力します。

(S)処理を中断し、出口の応答に従ってチャンネル処理を実行します。

ただし、デッドレターキューにメッセージを登録した場合は処理を続行します。

(O)出口応答 (DCMTCQ_MQXCC_*) を調査し、確認してください。

DCMTCQ_MQXCC の値については、ヘッダファイル dcmtquo.h を参照してください。

KFCA16347-E

mmm UOC から不当なパラメタが応答されました。
チャンネル名=aa....aa : bbb UOC 種別=ccc : dddd 理由コード=ee....ee
相手キューマネージャ名=ff....ff

mmm : MQT 識別子

aa....aa : チャンネル名

bbb : チャンネルタイプ

snd : センダ

srv : サーバ

rcv : レシーバ

req : リクエスト

csn : クラスタセンダ

crc : クラスタレシーバ

ccc : UOC 種別

MED : メッセージ編集出口

dddd : UOC 呼び出し理由

ALT : 属性変更

INIT : 初期化

TERM : 終了

MSG : メッセージ処理

ee....ee : 理由コード

ff....ff : 相手キューマネージャ名

相手キューマネージャ名が特定できない場合, ****を出力します。また, 33 バイト以降は...を出力します。

(S)チャンネルを停止します。

(O)理由コードに従って UOC の処理を見直してください。

理由コード	意味	対策
0d010001	UOC から不当な応答 (ExitResponse) がリターンされました。	UOC で設定した ExitResponse の値を見直してください。
0d010002	UOC から不当な二次応答 (ExitResponse2) がリターンされました。	UOC で設定した ExitResponse2 の値を見直してください。
0d010003	UOC から不当なフィードバックコード (Feedback) がリターンされました。	UOC で設定した Feedback の値を見直してください。

理由コード	意味	対策
0d010011	UOC から不当なバッファエントリ番号 (Data_buff_num) がリターンされました。	UOC で設定した Data_buff_num の値を見直してください。
0d010012	UOC から不当な使用バッファ長 (Used_buff_length) がリターンされました。	UOC で設定した Used_buff_length の値を見直してください。

KFCA16348-W

mmm 同じシーケンス番号のメッセージを連続受信したため破棄します。

チャンネル名=aa....aa : bbb シーケンス番号=cc....cc

mmm : MQT 識別子

aa....aa : チャンネル名

bbb : チャンネルタイプ

rcv : レシーバ

req : リクエスト

crc : クラスタレシーバ

cc....cc : メッセージシーケンス番号

(S)受信したメッセージを破棄し、処理を続行します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 このメッセージは次の条件を同時に満たす場合に出力されます。

- 受信側チャンネルで覚えている前回受信したメッセージのシーケンス番号と受信メッセージのシーケンス番号が一致する。
- バッチサイズが 1 である。
- メッセージシーケンス番号がリセットされていない。
- FAP レベル 1 で動作している。

メッセージが不当に破棄されていないか確認してください。

KFCA16349-W

mmm プロセス内で設定可能な MCA 数を超過しました。

MCA 数=aa....aa

mmm : MQT 識別子

aa....aa : MCA 数

(S)要求されたチャンネルの開始を無視して、処理を続行します。

このメッセージは該当するプロセスで動作できる MCA 数を最初に超過した場合に 1 回だけ出力します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】MQT デーモン構成定義 (mqamqtnam) に指定した MCA 数を見直してください。現在、登録されている MCA はチャンネル状態表示コマンド (mqtlscha) で確認できます。必要のない MCA を削除する場合は、チャンネル管理情報格納ファイルを削除または指定しない状態で OpenTP1 を正常開始してください。

KFCA16350-I

mmm メッセージ送信経路の再設定処理を開始します。

チャンネル名=aa....aa : bbb 種別=cc....cc

mmm : MQT 識別子

aa....aa : チャンネル名

bbb : チャンネルタイプ

csn : クラスタセンダ

cc....cc : 種別

再設定処理の開始理由を示します。

DISABLE : チャンネルが使用不可状態になりました。

DELETE : チャンネル定義が削除されました。

(S)メッセージの送信経路を再設定します。この処理中は該当するチャンネルを開始できません。

【対策】種別が DISABLE の場合、直前に出力されたメッセージの障害原因を取り除き、mqstacha コマンドを実行してください。種別が DELETE の場合、クラスタセンダチャンネルが削除された理由を調査してください。クラスタセンダチャンネルが削除される条件については、マニュアル「TP1/Message Queue 使用の手引」を参照してください。

KFCA16351-I

mmm メッセージ送信経路の再設定処理を終了しました。

チャンネル名=aa....aa : bbb

mmm : MQT 識別子

aa....aa : チャンネル名

bbb : チャンネルタイプ

csn : クラスタセンダ

(S)メッセージの送信経路の再設定が完了しました。

チャンネル処理を続行します。

KFCA16352-W

mmm メッセージ送信経路の再設定処理に失敗しました。

チャンネル名=aa....aa : bbb 理由コード= cc....cc 保守情報 1 = dd....dd

mmm : MQT 識別子

aa....aa : チャンネル名

bbb : チャンネルタイプ

csn : クラスタセンダ

cc....cc : 理由コード (MQI の理由コード)

dd....dd : 関数名 (保守情報)

(S)メッセージの送信経路の再設定処理に失敗しました。

チャンネル処理を続行します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 理由コードに"****"以外が出力された場合は、SYSTEM.CLUSTER.COMMAND.QUEUE とのキューインタフェースでエラーが発生しました。

cmqc.h または CMQV.cbl の MQI ヘッダファイルと、マニュアル「TP1/Message Queue プログラム作成リファレンス」から理由コード (MQRC*) を調査し、処置してください。

理由コードに"****"が出力された場合は、KFCA16350-I 以降に出力されたメッセージに従って原因を取り除いてください。

KFCAnnnnn-E : 該当メッセージに従って対策してください。

KFCAnnnnn-E が無い場合 : mqrsup が停止している場合は mqrsup を開始してください。ただし、OpenTP1 終了時には対策の必要はありません。

mqstspcha -f コマンドによってメッセージ送信経路の再設定処理を強制終了させた場合もこのメッセージが出力されます。

KFCA16353-E

mmm MQR インタフェースでエラーが発生しました。

チャンネル名=aa....aa : bbb 理由コード= cc....cc 保守情報 1 = dd....dd

mmm : MQT 識別子

aa....aa : チャンネル名

bbb：チャンネルタイプ

csn：クラスタセンダ

crc：クラスタレシーバ

cc....cc：理由コード（MQI の理由コード）

dd....dd：関数名（保守情報）

(S)MQR へのインタフェース処理でエラーが発生しました。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 SYSTEM.CLUSTER.COMMAND.QUEUE とのキューインタフェースでエラーが発生しました。

cmqc.h または CMQV.cbl の MQI ヘッダファイルと、マニュアル「TP1/Message Queue プログラム作成リファレンス」から理由コード（MQRC*）を調査し、処置してください。

KFCA16354-W

mmm チャンネル状態の不一致が発生しました。強制的に開始要求を受け入れます。

チャンネル名=aa....aa：bbb

IP アドレス=cc....cc

ポート番号=dd....dd

相手キューマネージャ名=ee....ee

mmm：MQT 識別子

aa....aa：チャンネル名

bbb：チャンネルタイプ

snd：センダ

srv：サーバ

req：リクエスタ

rcv：レシーバ

crc：クラスタレシーバ

cc....cc：相手システムの IP アドレス

dd....dd：相手システムのポート番号

ee....ee：相手キューマネージャ名

開始要求を受け入れる相手キューマネージャ名を出力します。相手キューマネージャ名を特定できない場合、****を出力します。また、33 バイト以降は...を出力します。

(S)該当チャンネルを強制終了して、受信した開始要求によって相手システムとチャンネル確立処理を開始します。

KFCA16355-I

```
mmm 運用コマンド (aa....aa) を正常に受け付けました。  
チャンネル名=bb....bb : ccc  
相手キューマネージャ名=dd....dd (L + S)
```

mmm : MQT 識別子

aa....aa : コマンド名

bb....bb : チャンネル名

ccc : チャンネルタイプ

snd : センダ

srv : サーバ

rcv : レシーバ

req : リクエスト

csn : クラスタセンダ

crc : クラスタレシーバ

dd....dd : 相手キューマネージャ名

相手キューマネージャ名が特定できない場合, ****を出力します。また, 33 バイト以降は...を出力します。

(S)コマンド処理を終了します。

KFCA16356-I

```
入力形式 : mqtstacha [-s MQT 通信プロセス識別子] {-n チャンネル名 | -q 相手キューマネージャ名 |  
-n チャンネル名 -q 相手キューマネージャ名} [-a] (S)
```

(S)mqtstacha コマンドの使用方法を示します。

KFCA16357-I

```
入力形式 : mqtstpcha [-s MQT 通信プロセス識別子] {-n チャンネル名 | -q 相手キューマネージャ名 |  
-n チャンネル名 -q 相手キューマネージャ名} [-f] (S)
```

(S)mqtstpcha コマンドの使用方法を示します。

KFCA16358-I

```
入力形式 : mqtlscha [-s MQT 通信プロセス識別子] {-n チャンネル名 | -q 相手キューマネージャ名 |  
-n チャンネル名 -q 相手キューマネージャ名 | -D} (S)
```

(S)mqtlscha コマンドの使用方法を示します。

KFCA16359-I

入力形式：mqtrstcha [-s MQT 通信プロセス識別子] {-n チャンネル名 | -q 相手キューマネージャ名 | -n チャンネル名 -q 相手キューマネージャ名} [-m メッセージシーケンス番号] (S)

(S)mqtrstcha コマンドの使用方法を示します。

KFCA16360-I

入力形式：mqtpngcha [-s MQT 通信プロセス識別子] -n チャンネル名 [-d データ長] (S)

(S)mqtpngcha コマンドの使用方法を示します。

KFCA16361-I

aaa の状態表示を開始します。 (S)

aaa : CHA……チャンネル, PROCESS……プロセス

(S)処理を続行します。

KFCA16362-I

aaa の状態表示を終了します。 (S)

aaa : CHA……チャンネル, PROCESS……プロセス

(S)処理を終了します。

KFCA16363-W

運用コマンド (aa....aa) の入力形式に誤りがあります。 (E)

aa....aa : コマンド名

(S)コマンド処理を終了します。

(O)正しい形式で再度コマンドを入力してください。

KFCA16364-W

運用コマンド (aa....aa) の引数の指定に誤りがあります。 (E)

aa....aa : コマンド名

(S)コマンド処理を終了します。

(O)コマンドで指定した引数について、次に示す点について確認し、再度コマンドを入力してください。

- 使用できない文字を使っていないか。
- 指定できる範囲を超えていないか。

KFCA16365-E

```
mmm 運用コマンド (aa....aa) を無視しました。  
チャンネル名=bb....bb : ccc チャンネル状態=dd....dd  
理由コード=ee....ee  
相手キューマネージャ名=ff....ff (L + E)
```

mmm : MQT 識別子

aa....aa : コマンド名

bb....bb : チャンネル名 (理由コードが 0603000c の場合は、常に****を表示します)

ccc : チャンネルタイプ (理由コードが 0603000c の場合は、常に***を表示します)

snd : センダ

srv : サーバ

rcv : レシーバ

req : リクエスト

csn : クラスタセンダ

crc : クラスタレシーバ

dd....dd : チャンネル状態 (理由コードが 0603000c の場合は、常に****を表示します)

STOPPED : チャンネル停止

STARTING : MCA 起動

BINDING : チャンネル確立中

RUNNING : チャンネル動作中

STOPPING : チャンネル終了中

RETRYING : チャンネル確立リトライ中

REQUESTING : チャンネル確立リクエスト中

DISABLED : チャンネル使用不可

ee....ee : 理由コード

ff....ff : 相手キューマネージャ名

相手キューマネージャ名が特定できない場合、****を出力します。また、33バイト以降は...を出力します。理由コードが 0603000b または 0603000c のときは、常に****を出力します。

(S)コマンド処理を終了します。

理由コード	意味
06030001	指定されたチャンネルは、現在このコマンドを入力できない状態です。
06030002	指定されたチャンネルのチャンネルタイプにはこのコマンドは入力できません。
06030003	指定されたチャンネルの最終仕掛かりメッセージは送達確認済みのためコミットできません。
06030004	指定されたチャンネルの最終仕掛かりメッセージは送達確認済みのためロールバックできません。
06030005	指定されたチャンネルは送信相手が通信構成定義に定義されていないため起動できません。
06030007	指定されたチャンネルにはホスト名、または IP アドレスが定義されていないため、チャンネル属性を変更できません。 【対策】 mqtaltcha コマンドの-o オプションの ohostname, または oipaddr を同時に指定して再入力してください。
06030008	指定されたチャンネルにはサービス名、またはポート番号が定義されていないため、チャンネル属性を変更できません。 【対策】 mqtaltcha コマンドの-o オプションの oservname, または oportno を同時に指定して再入力してください。
06030009	指定されたチャンネルに割り当てられたメッセージを、現状の最適なチャンネルに変更しています。このコマンドは入力できません。
0603000a	MQT 通信プロセスでメモリ不足が発生したため、コマンド処理が失敗しました。 【対策】 MQT 通信プロセスが動作できるようにメモリ量を大きくしてください。
0603000b	指定されたチャンネルのチャンネルタイプには、-q オプション（全指定以外）を指定できません。
0603000c	MQT トレースファイル出力機能の変更（開始または終了）ができません。 【対策】 mqtdmped コマンドでディスク出力状態を確認してください。

(O)チャンネルを確認したあと、再度実行してください。

KFCA16366-E

該当するチャンネル (aa....aa) が存在しないため運用コマンド (bb....bb) を無視しました。

MQT 識別子=mmm

相手キューマネージャ名=cc....cc (E)

mmm : MQT 識別子 (-s オプションと-q オプションを同時に省略した場合、または-s オプションを省略して-q オプションに*を指定した場合は***を出力)

aa....aa : チャンネル名

bb....bb : コマンド名

cc....cc : 相手キューマネージャ名

33 バイト以降は...を出力します。チャンネル名が一致しない場合は、常に****を出力します。

(S)コマンド処理を終了します。

(O)チャンネルを確認したあと、再度実行してください。

KFCA16367-E

MQT 通信プロセスが開始処理中のため運用コマンド (aa....aa) を受け付けられませんでした。
MQT 識別子=mmm (E)

mmm : MQT 識別子

aa....aa : コマンド名

(S)コマンド処理を終了します。

(O)MQT 通信プロセスを確認したあと、再度実行してください。

該当 MQT サーバがクラスタプロセスの場合は、リポジトリ管理サーバを開始してください。

KFCA16368-E

MQT 通信プロセスが終了処理中のため運用コマンド (aa....aa) を受け付けられませんでした。
MQT 識別子=mmm (E)

mmm : MQT 識別子

aa....aa : コマンド名

(S)コマンド処理を終了します。

(O)MQT 通信プロセスを確認したあと、再度実行してください。

KFCA16369-E

MQT 通信プロセスでコマンド処理中に障害が発生しました。
MQT 識別子=mmm (E)

mmm : MQT 識別子

(S)コマンド処理を終了します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

[対策] 運用コマンドが動作できるようにメモリ量を大きくし、再度コマンドを入力してください。

KFCA16370-I

運用コマンドが終了しました。 (S)

(S)コマンド処理を終了します。

KFCA16371-E

運用コマンドで指定された MQT 通信プロセスは起動されていません。

MQT 識別子=mmm (E)

mmm : MQT 識別子 (-s オプション省略時は***を出力)

(S)MQT 識別子に示す, MQT 通信プロセスに対するコマンド処理を中断します。

(O)MQT 識別子に示す, MQT 通信プロセスが起動されているか確認し, 再度コマンドを入力してください。

KFCA16372-E

運用コマンドで指定された MQT 通信プロセスからのコマンド応答連絡の受信に失敗しました。

MQT 識別子=mmm (E)

mmm : MQT 識別子 (-s オプション省略時は***を出力)

(S)MQT 識別子に示す, MQT 通信プロセスに対するコマンド処理を中断します。

(O)コマンドの実行結果については, このメッセージ以前にログに出力されたメッセージを参照するか, または状態表示コマンドで確認してください。

KFCA16373-E

mmm 運用コマンドプロセスへのコマンド応答連絡に失敗しました。

mmm : MQT 識別子

(S)コマンド処理を終了します。

(O)コマンドの実行結果については, このメッセージ以前にログ出力されたメッセージを参照するか, または状態表示コマンドで確認してください。

KFCA16374-E

運用コマンドの対象となるプロセスの検索に失敗しました。 (E)

(S)コマンド処理を終了します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 コマンド実行環境の DCCONFPATH 環境変数を確認してください。

環境変数の値が正しい場合は、OpenTP1 システムの状態を確認し、再度コマンドを入力してください。環境変数の値が正しくない場合は、修正後に再度コマンドを入力してください。

KFCA16375-E

運用コマンド処理中に RPC 障害が発生しました。

MQT 識別子=mmm

保守情報 1=aa....aa

保守情報 2=bb....bb (E)

mmm : MQT 識別子

aa....aa : モジュール ID (保守情報)

bb....bb : リターンコード (保守情報)

(S)MQT 識別子に示す、通信プロセスに対するコマンド処理を中断します。

また、コマンド処理の続行ができない場合は、コマンド処理を終了します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 OpenTP1 システムの状態を確認し、再度コマンドを入力してください。

KFCA16376-E

mmm 運用コマンド処理中に RPC 障害が発生しました。

コマンド名=aa....aa

保守情報 1=bb....bb

保守情報 2=cc....cc

保守情報 3=dd....dd

mmm : MQT 識別子

aa....aa : コマンド名 (コマンド名を識別できない場合、**....**を出力)

bb....bb : モジュール ID (保守情報)

cc....cc : 内部関数名 (保守情報)

dd....dd : リターンコード (保守情報)

(S)MQT 識別子に示す、通信プロセスに対するコマンド処理を中断します。また、コマンド処理の続行ができない場合は、コマンド処理を終了します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 OpenTP1 システムの状態を確認し、再度コマンドを入力してください。

KFCA16377-E

mmm 運用コマンド処理中にネットワーク障害が発生しました。
コマンド名=aa....aa

mmm : MQT 識別子

aa....aa : コマンド名

(S)コマンド処理を終了します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 OS の提供するコマンドでノードの接続状態を調べてください。

KFCA16378-E

運用コマンド処理中にネットワーク障害が発生しました。
MQT 識別子=mmm (E)

mmm : MQT 識別子

(S)コマンド処理を終了します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 OS の提供するコマンドでノードの接続状態を調べてください。

KFCA16379-I

mmm aa....aa : bbb チャンネル状態=cc....cc
転送キュー名=dd....dd (S)

mmm : MQT 識別子

aa....aa : チャンネル名

bbb : チャンネルタイプ

snd : センダ

srv : サーバ

rcv : レシーバ

req : リクエスト

csn : クラスタセンダ

crc : クラスタレシーバ

cc....cc：チャンネル状態

STOPPED：チャンネル停止

STARTING：MCA 起動中

BINDING：チャンネル確立中

RUNNING：チャンネル動作中

STOPPING：チャンネル終了中

RETRYING：チャンネル確立リトライ中

REQUESTING：チャンネル確立リクエスト中

DISABLED：チャンネル使用不可

dd....dd：転送キュー名

(S)処理を続行します。

KFCA16380-I

シーケンス番号最大値=aa....aa

最大メッセージ長=bb....bb バッチサイズ=cc....cc (S)

aa....aa：メッセージシーケンス番号最大値

bb....bb：最大メッセージ長

cc....cc：バッチサイズ

(S)処理を続行します。

KFCA16381-I

開始時刻 YYYY/MM/DD-hh:mm:ss 転送メッセージ数=aa....aa (S)

YYYY/MM/DD：MCA 開始時刻（年／月／日）

hh:mm:ss：MCA 開始時刻（時：分：秒）

aa....aa：転送が完了したメッセージの数

(S)処理を続行します。

KFCA16382-E

mmm 指定されたシーケンス番号は不当なため運用コマンド（aa....aa）を無視しました。

チャンネル名 bb....bb：ccc シーケンス番号=dd....dd シーケンス番号最大値=ee....ee

相手キューマネージャ名=ff....ff (L + E)

mmm : MQT 識別子

aa....aa : コマンド名

bb....bb : チャンネル名

ccc : チャンネルタイプ

snd : センダ

srv : サーバ

rcv : レシーバ

req : リクエスト

csn : クラスタセンダ

crc : クラスタレシーバ

dd....dd : 運用コマンドで指定されたメッセージシーケンス番号

ee....ee : メッセージシーケンス番号最大値

ff....ff : 相手キューマネージャ名

相手キューマネージャ名が特定できない場合, ****を出力します。また, 33 バイト以降は...を出力します。

(S)コマンド処理を終了します。

(O)シーケンス番号を確認したあと, 再度実行してください。

KFCA16383-I

仕掛かりシーケンス番号=aa....aa

完了シーケンス番号=bb....bb

LUWID=cc....cc

メッセージ送達未確認=ddd (S)

aa....aa : 仕掛かりメッセージシーケンス番号

bb....bb : 完了メッセージシーケンス番号

cc....cc : LUWID

ddd : メッセージ送達未確認

YES : メッセージ送達未確認

NO : メッセージ送達確認

(S)処理を続行します。

KFCA16384-I

```
入力形式：mqtrlvcha [-s MQT 通信プロセス識別子] -n チャンネル名 -a commit | backout (S)
```

(S)mqtrlvcha コマンドの使用方法を示します。

KFCA16385-E

```
mmm 転送メッセージのコミットに失敗しました。  
チャンネル名=aa....aa : bbb 命令名=cc....cc  
理由コード=dd....dd (L + E)
```

mmm : MQT 識別子

aa....aa : チャンネル名

bbb : チャンネルタイプ

snd : センダ

srv : サーバ

rcv : レシーバ

req : リクエスト

csn : クラスタセンダ

crc : クラスタレシーバ

cc....cc : 命令名

dd....dd : 理由コード (MQI の理由コード)

(S)メッセージに出力されているチャンネルに対するコマンド処理を中断し、処理を続行します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 cmqc.h または CMQV.cbl の MQI ヘッダファイルと、マニュアル「TP1/Message Queue プログラム作成リファレンス」から理由コード (MQRC*) を調査し、処置してください。

KFCA16386-I

```
入力形式：mqaltcha [-s MQT 通信プロセス識別子] -n チャンネル名 [-l perm | temp]  
-o" [ohostname=相手システムのホスト名 | oipaddr=相手システムの IP アドレス]  
[oservname=相手システムのサービス名 | oportno=相手システムのポート番号]" (S)
```

(S)mqaltcha コマンドの使用方法を示します。

KFCA16387-I

mmm チャンネル属性を変更しました。チャンネル名=aa....aa : bbb (S)

mmm : MQT 識別子

aa....aa : チャンネル名

bbb : チャンネルタイプ

snd : センダ

srv : サーバ

rcv : レシーバ

req : リクエスト

csn : クラスタセンダ

crc : クラスタレシーバ

(S)処理を続行します。

KFCA16388-I

mmm 相手システム= (aa....aa, bb....bb) (L + S)

mmm : MQT 識別子 (運用コマンドから出力する場合は, スペースを表示)

aa....aa : 相手システムのホスト名, または IP アドレス

(ドメイン名は最大 32 バイトを出力)

(該当する値がない場合は"****"を出力)

bb...bb : 相手システムのサービス名, またはポート番号

(該当する値がない場合は"****"を出力)

(S)処理を続行します。

KFCA16389-I

プロトコルレベル=a メッセージ編集出口=bbb

配布リスト=ccc 非永続メッセージ転送速度=dd..dd

ハートビート=eee(ff..ff) (S)

a : プロトコルレベル

bbb : メッセージ編集出口呼び出しの有無

ON : 出口呼び出しあり

OFF : 出口呼び出しなし

ccc：配布リスト付きメッセージ転送機能の有無

ON：配布リスト転送あり

OFF：配布リスト転送なし

dd..dd：非永続メッセージ転送速度

NORMAL：標準速度

FAST：高速度

eee：ハートビートメッセージ転送機能の有無

ON：ハートビート転送あり

OFF：ハートビート転送なし

ff..ff：ハートビート間隔

(S)処理を続行します。

KFCA16390-E

mmm ローカルメモリ不足が発生しました。(L + E)

mmm：MQT 識別子（運用コマンドから出力する場合は、スペースを表示）

(S)処理を終了します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

[対策] MQT 通信プロセス，またはコマンドプロセスが動作できるようにメモリ量を大きくしてください。

KFCA16391-E

mmm メモリ不足が発生しました。(L + E)

mmm：MQT 識別子（運用コマンドから出力する場合は、スペースを表示）

(S)処理を終了します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

[対策] MQT 通信プロセス，またはコマンドプロセスが動作できるようにメモリ量を大きくしてください。

KFCA16392-E

mmm 論理矛盾が発生しました。

保守情報 1=aa....aa

保守情報 2=bb....bb

保守情報 3=cc....cc

保守情報 4=dd....dd,ee....ee (L + E)

mmm : MQT 識別子 (運用コマンドから出力する場合は, スペースを表示)

aa....aa : モジュール ID (保守情報)

bb....bb : 関数名称 (保守情報)

cc....cc : リターンコード (保守情報)

dd....dd : ステータス (保守情報)

ee....ee : イベント (保守情報)

(S)MQT 通信プロセス, またはコマンドプロセスを終了します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 マニュアル「TP1/Message Queue 使用の手引」の障害時に取得する情報についての記述を参照して, 出力されている資料をすべて採取後, 保守員に連絡してください。主に出力される資料を次に示します。

- メッセージログファイル
- コンソールメッセージ
- コマンド実行時の標準出力・標準エラー出力
- コアファイル (./core)
- MQT トレースファイル
- チャンネル管理情報格納ファイル

KFCA16393-E

mmm 障害が発生しました。

保守情報 1=aa....aa

保守情報 2=bb....bb

保守情報 3=cc....cc

保守情報 4=dd....dd,ee....ee (L + E)

mmm : MQT 識別子 (運用コマンドから出力する場合は, スペースを表示)

aa....aa : モジュール ID (保守情報)

bb....bb : 関数名称 (保守情報)

cc....cc : リターンコード (保守情報)

dd....dd : ステータス (保守情報)

ee....ee : イベント (保守情報)

(S)MQT 通信プロセス, またはコマンドプロセスを終了します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 マニュアル「TP1/Message Queue 使用の手引」の障害時に取得する情報についての記述を参照して、出力されている資料をすべて採取後、保守員に連絡してください。主に出力される資料を次に示します。

- メッセージログファイル
- コンソールメッセージ
- コマンド実行時の標準出力・標準エラー出力
- コアファイル (./core)
- MQT トレースファイル
- チャンネル管理情報格納ファイル

KFCA16394-E

mmm 障害が発生しました。処理を続行します。

保守情報 1=aa....aa

保守情報 2=bb....bb

保守情報 3=cc....cc

保守情報 4=dd....dd,ee....ee (L + E)

mmm : MQT 識別子

aa....aa : モジュール ID (保守情報)

bb....bb : 関数名称 (保守情報)

cc....cc : リターンコード (保守情報)

dd....dd : ステータス (保守情報)

ee....ee : イベント (保守情報)

(S)MQT 通信プロセスは、処理を続行します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 「KFCA16390-E ローカルメモリ不足が発生しました」と同時に、次に示す保守情報が表示されている場合は、相手システムの情報に誤りがあります。

保守情報 1=013c3340

保守情報 2=cha_exc_call+20

保守情報 3=0

保守情報 4=00000000,00000000

次に示す相手システム情報を確認して修正してください。

- mqtaltcha -o オプションの oipaddr, ohostname, oportno, および oservername オペランドの指定値
- mqtaltcha コマンドで相手情報を変更した場合は, その変更した情報

上記以外の保守情報が出力され, かつこのメッセージ以前に出力されたメッセージがある場合は, そのメッセージに従って処置してください。このメッセージ以前に出力されたメッセージがない場合は, 保守員に連絡してください。

KFCA16395-E

mmm 共用メモリ不足が発生しました。(L + E)

mmm : MQT 識別子 (運用コマンドから出力する場合は, スペースを表示)

(S)処理を終了します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

[対策] 共用メモリ量を大きくして再度起動してください。

KFCA16396-E

mmm スレッド制御処理でエラーが発生しました。
制御関数名=aa....aa 詳細情報= (bb....bb,cc....cc)

mmm : MQT 識別子

aa....aa : スレッドインタフェース関数名

bb....bb : システムコール番号

cc....cc : システムコールのエラーナンバ

(S)MQT 通信プロセスは処理を続行します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

[対策] 詳細情報に出力されたシステムコール番号に該当するシステムコールのエラーを調査して対策してください。

システムコール名称	システムコール番号	システムコール名称	システムコール番号
accept	0x1001	setsockopt	0x1012
access	0x1002	shmat	0x1013

システムコール名称	システムコール番号	システムコール名称	システムコール番号
bind	0x1003	shmctl	0x1014
close	0x1004	shmdt	0x1015
connect	0x1005	shmget	0x1016
fcntl	0x1006	socket	0x1017
gethostbyname	0x1007	write	0x1018
gethostname	0x1008	writew	0x1019
getpeername	0x1009	unlink	0x101a
getsockname	0x100a	setrlimit	0x101b
kill	0x100b	getsockopt	0x101c
listen	0x100c	CreateThread	0x101d
readv	0x100d	ResumeThread	0x101e
select	0x100e	WaitForMultipleObjects	0x101f
semctl	0x100f	WaitForSingleObject	0x1020
semget	0x1010	CloseHandle	0x1021
semop	0x1011	GetExitCodeThread	0x1022

KFCA18000-E

定義コマンド (cc....cc) の指定順序に誤りがあります。
行番号 = ll....ll (E)

cc....cc : 誤りがあった定義コマンド名

デフォルト定義の場合は、定義コマンド名 (def) の形式で出力します。

ll....ll : 誤りがあった定義コマンドの行番号

(S) この定義コマンドを無視して処理を続行します。

(O) OpenTP1 管理者に連絡してください。

[対策] この定義コマンドを修正して、処理を再度実行してください。

KFCA18001-E

mmm 定義コマンド (cc....cc) は省略できません。 (E)

mmm : MQT 識別子または空白

cc....cc：誤りがあった定義コマンド名

デフォルト定義の場合は、定義コマンド名 (def) の形式で出力します。

(S)この定義コマンドを無視して処理を続行します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 この定義コマンドを指定して、処理を再度実行してください。

KFCA18002-E

mmm 定義コマンド (cc....cc) の数が上限値を超えています。

行番号 = ll....ll (E)

mmm：MQT 識別子または空白

cc....cc：誤りがあった定義コマンド名

デフォルト定義の場合は、定義コマンド名 (def) の形式で出力します。

ll....ll：誤りがあった定義コマンドの行番号

(S)この定義コマンドを無視して処理を続行します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 この定義コマンドの数を調整して、処理を再度実行してください。

KFCA18003-E

mmm 不当な文字列 (nn....nn) があります。

行番号 = ll....ll 定義ソースファイル名 = ss....ss (E)

mmm：MQT 識別子または空白

nn....nn：不当な文字列

文字列が 32 バイトを超える場合は、不当な文字列 (32 バイト) +...の形式で表示します。

ll....ll：不当な文字列のある行番号

ss....ss：不当な文字列のある定義ソースファイル名

定義ソースファイル名が 32 バイトを超える場合は、パス名...定義ソースファイル名 (全体で 32 バイト) の形式で表示します。

(S)不当な文字列を無視して処理を続行します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 不当な文字列を修正または削除して、処理を再度実行してください。

KFCA18004-E

二重引用符で囲まれた文字数が、1024 けたを超えています。
行番号 = ll...ll (E)

ll...ll : 誤りがあった行番号

(S) 処理を終了します。

(O) OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 誤りがあった定義コマンドを修正して、処理を再度実行してください。

KFCA18005-E

mmm 定義コマンド (cc....cc) の (oo....oo) オプションは省略できません。
行番号 = ll...ll (E)

mmm : MQT 識別子または空白

cc....cc : 誤りがあった定義コマンド名

デフォルト定義の場合は、定義コマンド名 (def) の形式で出力します。

定義コマンド名が 32 バイトを超える場合は、パス名...定義コマンド名 (全体で 32 バイト) の形式で表示します。

oo....oo : 誤りがあったオプション名

ll...ll : 誤りがあった定義コマンドの行番号

(S) このオプションを無視して処理を続行します。

(O) OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 このオプションを指定して、処理を再度実行してください。

KFCA18006-E

mmm 定義コマンド (cc....cc) の (oo....oo) オプションの指定に誤りがあります。
行番号 = ll...ll (E)

mmm : MQT 識別子または空白

cc....cc : 誤りがあった定義コマンド名

デフォルト定義の場合は、定義コマンド名 (def) の形式で出力します。

定義コマンド名が 32 バイトを超える場合は、パス名...定義コマンド名 (全体で 32 バイト) の形式で表示します。

oo....oo : 誤りがあったオプション名

ll....ll : 誤りがあった定義コマンドの行番号

(S) このオプションを無視して処理を続行します。

(O) OpenTP1 管理者に連絡してください。

[対策] このオプションを修正して、処理を再度実行してください。

KFCA18007-E

mmm 定義コマンド (cc....cc) に不当な文字列 (nn....nn) があります。
行番号 = ll....ll (E)

mmm : MQT 識別子または空白

cc....cc : 誤りがあった定義コマンド名

デフォルト定義の場合は、定義コマンド名 (def) の形式で出力します。

定義コマンド名が 32 バイトを超える場合は、パス名...定義コマンド名 (全体で 32 バイト) の形式で表示します。

nn....nn : 不当な文字列

文字列が 32 バイトを超える場合は、不当な文字列 (32 バイト) +... の形式で表示します。

ll....ll : 誤りがあった定義コマンドの行番号

(S) 不当な文字列を無視して処理を続行します。

(O) OpenTP1 管理者に連絡してください。

[対策] 不当な文字列を修正または削除して、処理を再度実行してください。

KFCA18009-E

mmm 定義コマンド (cc....cc1) の (oo....oo1) オプションの指定値が (vv....vv) の場合、定義コマンド (cc....cc2) の (oo....oo2) オプションに (pp....pp) オペランドは指定できません。
行番号 = ll....ll (E)

mmm : MQT 識別子または空白

cc....cc1 : 誤りに関係がある定義コマンド名

デフォルト定義の場合は、定義コマンド名 (def) の形式で出力します。

oo...oo1 : 誤りに関係があるオプション名

vv...vv : 誤りの原因となった値

cc...cc2 : 誤りがあった定義コマンド名

デフォルト定義の場合は、定義コマンド名 (def) の形式で出力します。

oo...oo2 : 誤りがあったオプション名

pp...pp : 誤りがあったオペランド名

ll...ll : 誤りがあった定義コマンドの行番号

(S) 不当な文字列を無視して処理を続行します。

(O) OpenTP1 管理者に連絡してください。

[対策] このオペランドを削除して、処理を再度実行してください。

KFCA18010-E

定義コマンド (cc...cc1) の (oo...oo1) オプションの指定値 (vv...vv) が、他の定義コマンド (cc...cc2) の (oo...oo2) オプションの指定値と重複しています。

行番号 = ll...ll (E)

cc...cc1 : 誤りに関係がある定義コマンド名

デフォルト定義の場合は、定義コマンド名 (def) の形式で出力します。

oo...oo1 : 誤りに関係があるオプション名

vv...vv : 重複して指定された値

cc...cc2 : 誤りがあった定義コマンド名

デフォルト定義の場合は、定義コマンド名 (def) の形式で出力します。

oo...oo2 : 誤りがあったオプション名

ll...ll : 誤りがあった定義コマンドの行番号

(S) このオプションを無視して処理を続行します。

(O) OpenTP1 管理者に連絡してください。

[対策] このオプションを修正して、処理を再度実行してください。

KFCA18015-E

mmm 定義コマンド (cc...cc) の (oo...oo) オプションの (pp...pp) オペランドは省略できません。

行番号 = ll...ll (E)

mmm : MQT 識別子または空白

cc...cc : 誤りがあった定義コマンド名

デフォルト定義の場合は、定義コマンド名 (def) の形式で出力します。

oo...oo : 誤りがあったオプション名

pp...pp : 誤りがあったオペランド名

ll...ll : 誤りがあった定義コマンドの行番号

(S)このオペランドを無視して処理を続行します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

[対策] このオペランドを修正して、処理を再度実行してください。

KFCA18016-E

mmm 定義コマンド (cc...cc) の (oo...oo) オプションの (pp...pp) オペランドの指定に誤りがあ
ります。

行番号 = ll...ll (E)

mmm : MQT 識別子または空白

cc...cc : 誤りがあった定義コマンド名

デフォルト定義の場合は、定義コマンド名 (def) の形式で出力します。

oo...oo : 誤りがあったオプション名

pp...pp : 誤りがあったオペランド名

ll...ll : 誤りがあった定義コマンドの行番号

(S)このオペランドを無視して処理を続行します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

[対策] このオペランドを修正して、処理を再度実行してください。

KFCA18017-E

mmm 定義コマンド (cc...cc) の (oo...oo) オプションに不当な文字列 (nn...nn) があります。

行番号 = ll...ll (E)

mmm : MQT 識別子または空白

cc....cc：誤りがあった定義コマンド名

デフォルト定義の場合は、定義コマンド名 (def) の形式で出力します。

oo....oo：誤りがあったオプション名

nn....nn：不当な文字列

文字列が 32 バイトを超える場合は、不当な文字列 (32 バイト) +...の形式で表示します。

ll....ll：誤りがあった定義コマンドの行番号

(S)不当な文字列を無視して処理を続行します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 不当な文字列を修正または削除して、処理を再度実行してください。

KFCA18018-E

mmm 定義コマンド (cc....cc1) の (oo....oo1) オプションの (pp....pp1) オペランドの値が (vv....vv) の場合、定義コマンド (cc....cc2) の (oo....oo2) オプションの (pp....pp2) オペランドは省略できません。

行番号 = ll....ll (E)

mmm：MQT 識別子または空白

cc....cc1：誤りに関係がある定義コマンド名

デフォルト定義の場合は、定義コマンド名 (def) の形式で出力します。

oo....oo1：誤りに関係があるオプション名

pp....pp1：誤りに関係があるオペランド名

vv....vv：誤りの原因となった値

cc....cc2：誤りがあった定義コマンド

デフォルト定義の場合は、定義コマンド名 (def) の形式で出力します。

oo....oo2：誤りがあったオプション名

pp....pp2：誤りがあったオペランド名

ll....ll：誤りがあった定義コマンドの行番号

(S)このオペランドを無視して、処理を続行します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 このオペランドを修正して、処理を再度実行してください。

KFCA18020-E

定義コマンド (cc....cc1) の (oo....oo1) オプションの (pp....pp1) オペランドの値 (vv....vv) が、他の定義コマンド (cc....cc2) の (oo....oo2) オプションの (pp....pp2) オペランドの指定値と重複しています。

行番号 = ll....ll (E)

cc....cc1 : 誤りに関係がある定義コマンド名

デフォルト定義の場合は、定義コマンド名 (def) の形式で出力します。

oo....oo1 : 誤りに関係があるオプション名

pp....pp1 : 誤りに関係があるオペランド名

vv....vv : 誤りの原因となった値

cc....cc2 : 誤りがあった定義コマンド名

デフォルト定義の場合は、定義コマンド名 (def) の形式で出力します。

oo....oo2 : 誤りがあったオプション名

pp....pp2 : 誤りがあったオペランド名

ll....ll : 誤りがあった定義コマンドの行番号

(S)このオペランドを無視して、処理を続行します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

[対策] このオペランドを修正して、処理を再度実行してください。

KFCA18021-E

定義コマンド (cc....cc1) の (oo....oo1) オプションの (pp....pp1) オペランドの値 (vv....vv) が、定義コマンド (cc....cc2) の (oo....oo2) オプションの (pp....pp2) オペランドに定義されていません。

行番号 = ll....ll

cc....cc1 : 誤りに関係がある定義コマンド名

デフォルト定義の場合は、定義コマンド名 (def) の形式で出力します。

oo....oo1 : 誤りに関係があるオプション名

pp....pp1 : 誤りに関係があるオペランド名

vv....vv : 誤りの原因となった値

cc....cc2：誤りがあった定義コマンド名

デフォルト定義の場合は、定義コマンド名 (def) の形式で出力します。

oo....oo2：誤りがあったオプション名

pp....pp2：誤りがあったオペランド名

ll....ll：誤りがあった定義コマンドの行番号

(S)このオペランドを無視して、処理を続行します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

[対策] このオペランドを修正して、処理を再度実行してください。

なお、このメッセージは、次に示す形式で出力されることがあります。

```
cc....cc1 : mqtalcccha(def)
oo....oo1 : -g
pp....pp1 : sndbuf
vv....vv : 1
cc....cc2 : mqttbuf
oo....oo2 : -g
pp....pp2 : groupno
ll....ll : 0000
```

クラスタセンダプロセスで、mqttbuf 定義コマンドの-g groupno オペランドに 1 を指定した定義が存在しない、かつ MQT 定義オブジェクト生成ユーティリティの mqttcps コマンドの-d オプションにデフォルトチャンネル定義を指定しない場合、上記の形式で出力されます。

KFCA18029-E

定義コマンド (cc....cc1) に対応する定義コマンド (cc....cc2) が指定されていません。

行番号 = ll....ll

cc....cc1：誤りに関係がある定義コマンド名

デフォルト定義の場合は、定義コマンド名 (def) の形式で出力します。

cc....cc2：誤りがあった定義コマンド名

ll....ll：誤りがあった定義コマンドの行番号

(S)この定義コマンドを無視して、処理を続行します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

[対策] この定義コマンドを指定して、処理を再度実行してください。

KFCA18030-E

指定ファイル (ff...ff) のオープン処理に失敗しました。
理由コード = ee...ee (E)

ff...ff: ファイル名

ファイル名が 32 バイトを超える場合は、パス名...ファイル名 (全体で 32 バイト) の形式で表示します。

ee...ee: 保守情報 (OS のエラー番号)

(S)処理を終了します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

[対策] 先に出力されたメッセージによって障害となった原因を取り除いて、処理を再度実行してください。

KFCA18031-E

メモリの確保に失敗しました。理由コード = ee...ee (E)

ee...ee: 保守情報 (OS のエラー番号)

(S)処理を終了します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

[対策] 先に出力されたメッセージによって障害となった原因を取り除いて、処理を再度実行してください。

KFCA18032-E

指定された定義オブジェクトファイル名は既に存在しています。
定義オブジェクトファイル名 = kk...kk (E)

kk...kk: 定義オブジェクトファイル名

定義オブジェクトファイル名が 32 バイトを超える場合は、パス名... 定義オブジェクトファイル名 (全体で 32 バイト) の形式で表示します。

(S)処理を終了します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

[対策] 定義オブジェクトファイル名を変更するか、またはすでに存在している定義オブジェクトファイル名を削除して、処理を再度実行してください。

KFCA18033-E

指定ファイル (ff...ff) の入出力処理に失敗しました。

理由コード = aa....aa (E)

ff....ff : ファイル名

ファイル名が 32 バイトを超える場合は、パス名...ファイル名 (全体で 32 バイト) の形式で表示します。

aa....aa : 理由コード (OS のエラー番号)

(S) 処理を終了します。

(O) OpenTP1 管理者に連絡してください。

[対策] ディスク装置の状態を確認して再度定義コマンドを実行してください。

KFCA18034-E

定義コマンド (cc....cc1) の (oo....oo) オプションの (pp....pp) オペランドの指定値が、対応する定義コマンド (cc....cc2) のバッファ数の合計値を超えています。

行番号 = ll....ll (E)

cc....cc1 : 誤りがあった定義コマンド名

デフォルト定義の場合は、定義コマンド名 (def) の形式で出力します。

oo....oo : 誤りがあったオプション名

pp....pp : 誤りがあったオペランド名

cc....cc2 : 誤りに関係がある定義コマンド名

デフォルト定義の場合は、定義コマンド名 (def) の形式で出力します。

ll....ll : 誤りがあった定義コマンドの行番号

(S) このオペランドを無視して、処理を続行します。

(O) OpenTP1 管理者に連絡してください。

[対策] このオペランドを修正して、処理を再度実行してください。

KFCA18046-I

定義オブジェクト生成ユーティリティ処理が異常終了しました。 (S)

(S) 定義オブジェクト生成ユーティリティ処理を異常終了します。

KFCA18047-I

定義オブジェクト生成ユーティリティ処理で定義エラーを検知して終了しました。 (S)

(S)定義オブジェクト生成ユーティリティ処理を終了します。

KFCA18048-I

定義オブジェクト生成ユーティリティ処理を開始しました。 (S)

(S)定義オブジェクト生成ユーティリティ処理を開始します。

KFCA18049-I

定義オブジェクト生成ユーティリティ処理が正常終了しました。

定義種別 = nn...nn

定義ソースファイル名 (def) = dd...dd

定義ソースファイル名 = ss...ss

定義オブジェクトファイル名 = oo...oo (S)

nn...nn : 定義種別

dd...dd : デフォルトチャンネル定義ソースファイル名

MQT 定義ソースの場合、または TCP 定義ソースのデフォルトチャンネル定義を指定しない場合は、**** を出力します。

デフォルトチャンネル定義ソースファイル名が 32 バイトを超える場合は、パス名...デフォルトチャンネル定義ソースファイル名 (全体で 32 バイト) の形式で表示します。

ss...ss : 定義ソースファイル名

定義ソースファイル名が 32 バイトを超える場合は、パス名...定義ソースファイル名 (全体で 32 バイト) の形式で表示します。

oo...oo : 定義オブジェクトファイル名

定義オブジェクトファイル名が 32 バイトを超える場合は、パス名...定義オブジェクトファイル名 (全体で 32 バイト) の形式で表示します。

(S)定義オブジェクト生成ユーティリティ処理を終了します。

KFCA18100-E

定義コマンド (cc...cc) の (oo...oo) オプションで指定されたファイル (ff...ff) は結合できません。
理由コード = r (E)

cc...cc : 誤りがあった定義コマンド名

デフォルト定義の場合は、定義コマンド名 (def) の形式で出力します。

定義コマンド名が 32 バイトを超える場合は、パス名...定義コマンド名 (全体で 32 バイト) の形式で表示します。

oo...oo : 誤りがあったオプション名

ff...ff：ファイル名称

ファイル名称が 32 バイトを超える場合は、パス名...ファイル名称（全体で 32 バイト）の形式で表示します。

r：理由コード（保守情報）

(S)ファイルの内容に不正を検出したため処理を終了します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

[対策] 理由コードに従って処置してください。

理由コード	意味	対策
10	MQT 共通定義オブジェクトファイルのバージョンが不正です。	MQT 共通定義オブジェクトファイルを再作成してください。
20	TCP 定義オブジェクトファイルのバージョンが不正です。	TCP 定義オブジェクトファイルを再作成してください。
上記以外	指定されたファイル名に誤りがあります。	正しいファイル名に修正して、処理を再度実行してください。 正しいファイル名である場合に、このメッセージが出力されるときは、次に示す資料をすべて採取後、保守員に連絡してください。 <ul style="list-style-type: none">• コマンド実行時の標準出力• 標準エラー出力• 結合エラーが発生したファイル

KFCA18101-I

定義オブジェクト結合ユーティリティ処理を開始しました。(S)

(S)定義オブジェクト結合ユーティリティ処理を開始します。

KFCA18102-I

定義オブジェクト結合ユーティリティ処理で定義エラーを検知して終了しました。(S)

(S)定義オブジェクト結合ユーティリティ処理を終了します。

KFCA18103-I

定義オブジェクト結合ユーティリティ処理が異常終了しました。(S)

(S)定義オブジェクト結合ユーティリティ処理を異常終了します。

KFCA18104-I

定義オブジェクト結合ユーティリティ処理が正常終了しました。

入力オブジェクトファイル名

共通定義=ii...ii1

dd...dd 定義=ii...ii2

定義オブジェクトファイル名= oo...oo (S)

ii...ii1 : 入力オブジェクトファイル名

入力オブジェクトファイル名が 32 バイトを超える場合は、パス名...入力オブジェクトファイル名 (全体で 32 バイト) の形式で表示します。

ii...ii2 : 入力オブジェクトファイル名

入力オブジェクトファイル名が 32 バイトを超える場合は、パス名...入力オブジェクトファイル名 (全体で 32 バイト) の形式で表示します。

dd...dd : 定義種別

oo...oo : 定義オブジェクトファイル名

定義オブジェクトファイル名が 32 バイトを超える場合は、パス名...定義オブジェクトファイル名 (全体で 32 バイト) の形式で表示します。

(S)定義オブジェクト結合ユティリティ処理を終了します。

KFCA18107-E

定義コマンド (cc...cc1) の (oo...oo1) オプションの (pp...pp) オペランドの指定値が (vv...vv) の場合、定義コマンド (cc...cc2) の (oo...oo2) オプションは指定できません。

行番号= ll...ll (E)

cc...cc1 : 誤りに関係がある定義コマンド名

デフォルト定義の場合は、定義コマンド名 (def) の形式で出力します。

oo...oo1 : 誤りに関係があるオプション名

pp...pp : 誤りに関係があるオペランド名

vv...vv : 誤りに関係がある値

cc...cc2 : 誤りがあつた定義コマンド名

デフォルト定義の場合は、定義コマンド名 (def) の形式で出力します。

oo...oo2 : 誤りがあつたオプション名

ll...ll : 誤りがあつた定義コマンドの行番号

(S)このオプションを無視して、処理を続行します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

[対策] このオプションを削除して、処理を再度実行してください。

KFCA18108-E

定義コマンド (cc....cc1) の (oo....oo1) オプションの (pp....pp1) オペランドの指定値が (vv....vv) の場合、定義コマンド (cc....cc2) の (oo....oo2) オプションに (pp....pp2) オペランドは指定できません。

行番号 = ll....ll (E)

cc....cc1 : 誤りに関係がある定義コマンド名

デフォルト定義の場合は、定義コマンド名 (def) の形式で出力します。

oo....oo1 : 誤りに関係があるオプション名

pp....pp1 : 誤りに関係があるオペランド名

vv....vv : 誤りに関係がある値

cc....cc2 : 誤りがあつた定義コマンド名

デフォルト定義の場合は、定義コマンド名 (def) の形式で出力します。

oo....oo2 : 誤りがあつたオプション名

pp....pp2 : 誤りがあつたオペランド名

ll....ll : 誤りがあつた定義コマンドの行番号

(S)このオペランドを無視して、処理を続行します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

[対策] このオペランドを削除して、処理を再度実行してください。

KFCA18113-E

定義コマンド (cc....cc1) の (oo....oo1) オプションの (pp....pp1) オペランドの指定値が (vv....vv1) の場合、定義コマンド (cc....cc2) の (oo....oo2) オプションの (pp....pp2) オペランドに (vv....vv2) は指定できません。

行番号 = ll....ll (E)

cc....cc1 : 誤りに関係がある定義コマンド名

デフォルト定義の場合は、定義コマンド名 (def) の形式で出力します。

oo....oo1 : 誤りに関係があるオプション名

pp....pp1 : 誤りに関係があるオペランド名

vv...vv1 : 誤りに関係がある値

cc...cc2 : 誤りがあった定義コマンド名

デフォルト定義の場合は、定義コマンド名 (def) の形式で出力します。

oo...oo2 : 誤りがあったオプション名

pp...pp2 : 誤りがあったオペランド名

vv...vv2 : 指定できない値

ll...ll : 誤りがあった定義コマンドの行番号

(S)このオペランドを無視して、処理を続行します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

[対策] このオペランドを修正して、処理を再度実行してください。

KFCA18114-E

mmm 定義コマンド (cc...cc1) の (oo...oo1) オプションの (pp...pp1) オペランドの指定値が (vv...vv) の場合、定義コマンド (cc...cc2) の (oo...oo2) オプションは省略できません。
行番号 = ll...ll (E)

mmm : MQT 識別子または空白

cc...cc1 : 誤りに関係がある定義コマンド名

デフォルト定義の場合は、定義コマンド名 (def) の形式で出力します。

oo...oo1 : 誤りに関係があるオプション名

pp...pp1 : 誤りに関係があるオペランド名

vv...vv : 誤りに関係がある値

cc...cc2 : 誤りがあった定義コマンド名

デフォルト定義の場合は、定義コマンド名 (def) の形式で出力します。

oo...oo2 : 誤りがあったオプション名

ll...ll : 誤りがあった定義コマンドの行番号

(S)このオペランドを無視して、処理を続行します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

[対策] このオペランドを修正して、処理を再度実行してください。

KFCA18119-E

mmm 定義コマンド (cc....cc1) の (oo....oo1) オプションの (pp....pp1) オペランドを指定した場合、定義コマンド (cc....cc2) の (oo....oo2) オプションの (pp....pp2) オペランドは省略できません。

行番号 = ll....ll (E)

mmm : MQT 識別子または空白

cc....cc1 : 誤りに関係のある定義コマンド名

デフォルト定義の場合は、定義コマンド名 (def) の形式で出力します。

oo....oo1 : 誤りに関係のあるオプション名

pp....pp1 : 誤りに関係のあるオペランド名

cc....cc2 : 誤りがあった定義コマンド名

デフォルト定義の場合は、定義コマンド名 (def) の形式で出力します。

oo....oo2 : 誤りがあったオプション名

pp....pp2 : 誤りがあったオペランド名

ll....ll : 誤りがあった定義コマンドの行番号

(S)このオペランドを無視して処理を続行します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

[対策] このオペランドを修正して、処理を再度実行してください。

KFCA18121-E

定義コマンド (cc....cc1) の (oo....oo1) オプションの (pp....pp1) オペランドを省略した場合、定義コマンド (cc....cc2) の (oo....oo2) オプションの (pp....pp2) オペランドは省略できません。

行番号 = ll....ll (E)

cc....cc1 : 誤りに関係がある定義コマンド名

デフォルト定義の場合は、定義コマンド名 (def) の形式で出力します。

oo....oo1 : 誤りに関係があるオプション名

pp....pp1 : 誤りに関係があるオペランド名

cc....cc2 : 誤りがあった定義コマンド名

デフォルト定義の場合は、定義コマンド名 (def) の形式で出力します。

oo...oo2 : 誤りがあったオプション名

pp...pp2 : 誤りがあったオペランド名

ll...ll : 誤りがあった定義コマンドの行番号

(S)このオペランドを無視して、処理を続行します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 このオペランドを修正して、処理を再度実行してください。

KFCA18122-E

mmm 定義コマンド (cc...cc) の (oo...oo) オプションのオペランド数が、システム上指定できる上限値 (vv...vv) を超えています。

行番号 = ll...ll (E)

mmm : MQT 識別子または空白

cc...cc : 誤りに関係がある定義コマンド名

デフォルト定義の場合は、定義コマンド名 (def) の形式で出力します。

oo...oo : 誤りに関係があるオプション名

vv...vv : 誤りに関係がある値

ll...ll : 誤りがあった定義コマンドの行番号

(S)このオプションを無視して処理を続行します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 このオプションを修正して、処理を再度実行してください。

KFCA18142-W

The following language(s) are not available:LANG=nn...nn
continuing processing using the language "C" (E)

nn...nn : LANG 環境変数の指定値

(S)処理を続行します。

(O)英語メッセージ以外の言語を使用する場合は、OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 環境変数 LANG に言語種別を設定して再度実行してください。

日本語 : ja_JP.SJIS

英語：C

KFCA18143-E

定義コマンド (cc....cc1) の (oo....oo1) オプションの (pp....pp1) オペランドの指定値が (vv....vv) の場合、定義コマンド (cc....cc2) の (oo....oo2) オプションの (pp....pp2) オペランドと (pp....pp3) オペランドは同時に省略できません。

行番号 = ll....ll (E)

cc....cc1：誤りがあった定義コマンド名

デフォルト定義の場合は、定義コマンド名 (def) の形式で出力します。

oo....oo1：誤りがあったオプション名

pp....pp1：誤りがあったオペランド名

vv....vv：誤りがあった指定値

cc....cc2：誤りに関係のある定義コマンド名

デフォルト定義の場合は、定義コマンド名 (def) の形式で出力します。

oo....oo2：誤りがあったオプション名

pp....pp2：誤りがあったオペランド名

pp....pp3：誤りがあったオペランド名

ll....ll：誤りがあった定義コマンドの行番号

(S)処理を続行します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

[対策] エラーの発生したコマンド内の oo....oo2 オプションの pp....pp2 オペランド、または pp....pp3 オペランドを指定し、再度処理を実行してください。または、pp....pp1 オペランドに指定した値 vv....vv を変更し、処理を再度実行してください。

KFCA18159-E

定義コマンド (cc....cc1) の (oo....oo1) オプションの (pp....pp1) オペランドの指定値が、対応する定義コマンド (cc....cc2) の (oo....oo2) オプションの (pp....pp2) オペランドの指定値を超えています。

行番号 = ll....ll (E)

cc....cc1：誤りがあった定義コマンド名

デフォルト定義の場合は、定義コマンド名 (def) の形式で出力します。

oo....oo1 : 誤りがあったオプション名

pp....pp1 : 誤りがあったオペランド名

cc....cc2 : 誤りに関係がある定義コマンド名

デフォルト定義の場合は、定義コマンド名 (def) の形式で出力します。

oo....oo2 : 誤りに関係があるオプション名

pp....pp2 : 誤りに関係があるオペランド名

ll....ll : 誤りがあった定義コマンドの行番号

(S)処理を終了します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 このオペランドを訂正して、処理を再度実行してください。

KFCA18288-E

```
mmm ダンプファイル aa....aa のオープンに失敗しました。  
理由コード = bb....bb  
ダンプ要因コード = cc....cc
```

mmm : MQT 識別子

aa....aa : ダンプファイル名

bb....bb : 理由コード (errno)

cc....cc : MQT ダンプまたは NWT ダンプの出力要因コード

(S)ファイルへのダンプ処理を中止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 マニュアル「TP1/Message Queue 使用の手引」の障害時に取得する情報についての記述を参照して、出力されている資料をすべて採取後、保守員に連絡してください。主に出力される資料を次に示します。

- メッセージログファイル
- コンソールメッセージ
- コマンド実行時の標準出力・標準エラー出力
- コアファイル (./core)
- MQT トレースファイル

- チャンネル管理情報格納ファイル
- エラーが発生したダンプファイル

KFCA18289-E

mmm 障害情報を取得しました。理由コード = aa....aa
関数名 = bb....bb ダンプファイル名 = cc....cc

mmm : MQT 識別子

aa....aa : 自己矛盾コード

bb....bb : 障害が発生した関数名

cc....cc : 障害情報格納ファイル名

(S)処理を続行できない場合、処理を終了します。

(O)出力されたダンプファイルを保存し、OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 マニュアル「TP1/Message Queue 使用の手引」の障害時に取得する情報についての記述を参照して、出力されている資料をすべて採取後、保守員に連絡してください。主に出力される資料を次に示します。

- メッセージログファイル
- コンソールメッセージ
- コマンド実行時の標準出力・標準エラー出力
- コアファイル (./core)
- MQT トレースファイル
- チャンネル管理情報格納ファイル
- エラーが発生したダンプファイル

KFCA18290-E

mmm 内部処理関数がエラーリターンしました。
エラーリターンした関数名 = aa....aa
理由コード = bb....bb
詳細コード = cc....cc
処理関数名 = dd....dd (L + E)

mmm : MQT 識別子

aa....aa : エラーリターンした関数名

bb....bb : エラーリターンした関数のリターンコード

cc....cc : 保守情報

dd....dd : エラーリターンした関数を発行した関数名

(S)処理を続行できない場合、処理を終了します。

(O)マニュアル「TP1/Message Queue 使用の手引」の障害時に取得する情報についての記述を参照して、出力されている資料をすべて採取後、保守員に連絡してください。主に出力される資料を次に示します。

- メッセージログファイル
- コンソールメッセージ
- コマンド実行時の標準出力・標準エラー出力
- コアファイル (./core)
- MQT トレースファイル
- チャネル管理情報格納ファイル

KFCA18296-E

mmm 定義にないバッファグループ番号が指定されました。
バッファグループ番号 = aa....aa

mmm : MQT 識別子

aa....aa : バッファグループ番号

(S)処理を続行します。

【対策】 自動クラスタチャネルは、バッファグループ番号=1 のバッファを使用します。バッファグループ番号=1 のバッファを定義するか、デフォルトチャネル定義でバッファグループ番号を指定してください。

KFCA18297-I

mmm 送受信バッファ使用数が指定値を超えました。
バッファグループ番号 = aa....aa

mmm : MQT 識別子

aa....aa : バッファグループ番号

(S)拡張バッファ処理を続行します。

KFCA18298-E

mmm メモリ不足のため拡張バッファが取得できません。

バッファグループ番号 = aa....aa 理由コード = bb....bb

mmm : MQT 識別子

aa....aa : バッファグループ番号

bb....bb : エラーリターンした関数のリターンコード

(S)処理を続行します。

[対策] 必要なメモリを確認してください。

KFCA18299-E

mmm バッファプール管理初期化処理で異常が発生しました。

理由コード = aa....aa 詳細コード = bb....bb

mmm : MQT 識別子

aa....aa : エラーリターンした関数のリターンコード

bb....bb : 保守情報

(S)処理を続行します。

[対策] 必要なメモリを確認してください。

KFCA18310-E

mmm メッセージ処理中に内部で障害を検知しました。

システム関数 = aa....aa 理由コード = bb....bb

処理名 = cc....cc

mmm : MQT 識別子

aa....aa : 保守情報 (発行したシステムコール, または C 言語ライブラリ)

bb....bb : 保守情報 (OS のエラー番号, または C 言語ライブラリからのリターン値)

cc....cc : 保守情報 (発行元関数名)

(S)処理を終了します。

(O)マニュアル「TP1/Message Queue 使用の手引」の障害時に取得する情報についての記述を参照して、出力されている資料をすべて採取後、保守員に連絡してください。主に出力される資料を次に示します。

- メッセージログファイル
- コンソールメッセージ

- コマンド実行時の標準出力・標準エラー出力
- コアファイル (./core)
- MQT トレースファイル
- チャンネル管理情報格納ファイル

KFCA18311-E

```
mmm 保守情報 1 = aa....aa
```

mmm : MQT 識別子

aa....aa : 保守情報 (処理詳細コード)

(S)処理を終了します。

(O)マニュアル「TP1/Message Queue 使用の手引」の障害時に取得する情報についての記述を参照して、出力されている資料をすべて採取後、保守員に連絡してください。主に出力される資料を次に示します。

- メッセージログファイル
- コンソールメッセージ
- コマンド実行時の標準出力・標準エラー出力
- コアファイル (./core)
- MQT トレースファイル
- チャンネル管理情報格納ファイル

KFCA18312-E

```
mmm 保守情報 1 = aa....aa 保守情報 2 = bb....bb
```

mmm : MQT 識別子

aa....aa : 保守情報 (処理詳細コード)

bb....bb : 保守情報 (ほかにエラーを調査するのに必要な情報)

(S)処理を終了します。

(O)マニュアル「TP1/Message Queue 使用の手引」の障害時に取得する情報についての記述を参照して、出力されている資料をすべて採取後、保守員に連絡してください。主に出力される資料を次に示します。

- メッセージログファイル
- コンソールメッセージ
- コマンド実行時の標準出力・標準エラー出力
- コアファイル (./core)

- MQT トレースファイル
- チャンネル管理情報格納ファイル

KFCA18313-E

```
mmm 保守情報 1 = aa....aa 保守情報 2 = bb....bb cc....cc
```

mmm : MQT 識別子

aa....aa : 保守情報 (処理詳細コード)

bb....bb : 保守情報 (ほかにエラーを調査するのに必要な情報)

cc....cc : 保守情報 (ほかにエラーを調査するのに必要な情報)

(S)処理を終了します。

(O)マニュアル「TP1/Message Queue 使用の手引」の障害時に取得する情報についての記述を参照して、出力されている資料をすべて採取後、保守員に連絡してください。主に出力される資料を次に示します。

- メッセージログファイル
- コンソールメッセージ
- コマンド実行時の標準出力・標準エラー出力
- コアファイル (./core)
- MQT トレースファイル
- チャンネル管理情報格納ファイル

KFCA18314-E

```
mmm 保守情報 1 = aa....aa  
保守情報 2 = bb....bb cc....cc dd....dd
```

mmm : MQT 識別子

aa....aa : 保守情報 (処理詳細コード)

bb....bb : 保守情報 (ほかにエラーを調査するのに必要な情報)

cc....cc : 保守情報 (ほかにエラーを調査するのに必要な情報)

dd....dd : 保守情報 (ほかにエラーを調査するのに必要な情報)

(S)処理を終了します。

(O)マニュアル「TP1/Message Queue 使用の手引」の障害時に取得する情報についての記述を参照して、出力されている資料をすべて採取後、保守員に連絡してください。主に出力される資料を次に示します。

- メッセージログファイル
- コンソールメッセージ
- コマンド実行時の標準出力・標準エラー出力
- コアファイル (./core)
- MQT トレースファイル
- チャンネル管理情報格納ファイル

KFCA18315-E

```
mmm 保守情報 1 = aa....aa
保守情報 2 = bb....bb cc....cc dd....dd ee....ee
```

mmm : MQT 識別子

aa....aa : 保守情報 (処理詳細コード)

bb....bb : 保守情報 (ほかにエラーを調査するのに必要な情報)

cc....cc : 保守情報 (ほかにエラーを調査するのに必要な情報)

dd....dd : 保守情報 (ほかにエラーを調査するのに必要な情報)

ee....ee : 保守情報 (ほかにエラーを調査するのに必要な情報)

(S)処理を終了します。

(O)マニュアル「TP1/Message Queue 使用の手引」の障害時に取得する情報についての記述を参照して、出力されている資料をすべて採取後、保守員に連絡してください。主に出力される資料を次に示します。

- メッセージログファイル
- コンソールメッセージ
- コマンド実行時の標準出力・標準エラー出力
- コアファイル (./core)
- MQT トレースファイル
- チャンネル管理情報格納ファイル

KFCA18320-E

```
mmm メッセージ処理中に内部で障害を検知しました。 関数名 = aa....aa
理由コード = bb....bb 処理名 = cc....cc
```

mmm : MQT 識別子

aa....aa : 保守情報 (提供関数名)

bb....bb : 保守情報 (提供関数からのリターンコード)

cc....cc : 保守情報 (発行元関数名)

(S)処理を終了します。

(O)マニュアル「TP1/Message Queue 使用の手引」の障害時に取得する情報についての記述を参照して、出力されている資料をすべて採取後、保守員に連絡してください。主に出力される資料を次に示します。

- メッセージログファイル
- コンソールメッセージ
- コマンド実行時の標準出力・標準エラー出力
- コアファイル (./core)
- MQT トレースファイル
- チャンネル管理情報格納ファイル

KFCA18321-E

mmm 保守情報 1 = aa....aa

mmm : MQT 識別子

aa....aa : 保守情報 (処理詳細コード)

(S)処理を終了します。

(O)マニュアル「TP1/Message Queue 使用の手引」の障害時に取得する情報についての記述を参照して、出力されている資料をすべて採取後、保守員に連絡してください。主に出力される資料を次に示します。

- メッセージログファイル
- コンソールメッセージ
- コマンド実行時の標準出力・標準エラー出力
- コアファイル (./core)
- MQT トレースファイル
- チャンネル管理情報格納ファイル

KFCA18322-E

mmm 保守情報 1 = aa....aa 保守情報 2 = bb....bb

mmm : MQT 識別子

aa...aa : 保守情報 (処理詳細コード)

bb...bb : 保守情報 (ほかにエラーを調査するのに必要な情報)

(S)処理を終了します。

(O)マニュアル「TP1/Message Queue 使用の手引」の障害時に取得する情報についての記述を参照して、出力されている資料をすべて採取後、保守員に連絡してください。主に出力される資料を次に示します。

- メッセージログファイル
- コンソールメッセージ
- コマンド実行時の標準出力・標準エラー出力
- コアファイル (./core)
- MQT トレースファイル
- チャンネル管理情報格納ファイル

KFCA18323-E

```
mmm 保守情報 1 = aa...aa
保守情報 2 = bb...bb cc...cc
```

mmm : MQT 識別子

aa...aa : 保守情報 (処理詳細コード)

bb...bb : 保守情報 (ほかにエラーを調査するのに必要な情報)

cc...cc : 保守情報 (ほかにエラーを調査するのに必要な情報)

(S)処理を終了します。

(O)マニュアル「TP1/Message Queue 使用の手引」の障害時に取得する情報についての記述を参照して、出力されている資料をすべて採取後、保守員に連絡してください。主に出力される資料を次に示します。

- メッセージログファイル
- コンソールメッセージ
- コマンド実行時の標準出力・標準エラー出力
- コアファイル (./core)
- MQT トレースファイル
- チャンネル管理情報格納ファイル

KFCA18324-E

```
mmm 保守情報 1 = aa....aa  
保守情報 2 = bb....bb cc....cc dd....dd
```

mmm : MQT 識別子

aa....aa : 保守情報 (処理詳細コード)

bb....bb : 保守情報 (ほかにエラーを調査するのに必要な情報)

cc....cc : 保守情報 (ほかにエラーを調査するのに必要な情報)

dd....dd : 保守情報 (ほかにエラーを調査するのに必要な情報)

(S)処理を終了します。

(O)マニュアル「TP1/Message Queue 使用の手引」の障害時に取得する情報についての記述を参照して、出力されている資料をすべて採取後、保守員に連絡してください。主に出力される資料を次に示します。

- メッセージログファイル
- コンソールメッセージ
- コマンド実行時の標準出力・標準エラー出力
- コアファイル (./core)
- MQT トレースファイル
- チャンネル管理情報格納ファイル

KFCA18325-E

```
mmm 保守情報 1 = aa....aa  
保守情報 2 = bb....bb cc....cc dd....dd ee....ee
```

mmm : MQT 識別子

aa....aa : 保守情報 (処理詳細コード)

bb....bb : 保守情報 (ほかにエラーを調査するのに必要な情報)

cc....cc : 保守情報 (ほかにエラーを調査するのに必要な情報)

dd....dd : 保守情報 (ほかにエラーを調査するのに必要な情報)

ee....ee : 保守情報 (ほかにエラーを調査するのに必要な情報)

(S)処理を終了します。

(O)マニュアル「TP1/Message Queue 使用の手引」の障害時に取得する情報についての記述を参照して、出力されている資料をすべて採取後、保守員に連絡してください。主に出力される資料を次に示します。

- メッセージログファイル
- コンソールメッセージ
- コマンド実行時の標準出力・標準エラー出力
- コアファイル (./core)
- MQT トレースファイル
- チャンネル管理情報格納ファイル

KFCA18330-E

```
mmm メッセージ処理中に内部で障害を検知しました。  
処理名 1 = aa....aa 理由コード = bb....bb  
処理名 2 = cc....cc
```

mmm : MQT 識別子

aa....aa : 保守情報 (発行した関数名)

bb....bb : 保守情報 (発行した関数のリターンコード)

cc....cc : 保守情報 (発行元関数名)

(S)処理を終了します。

(O)マニュアル「TP1/Message Queue 使用の手引」の障害時に取得する情報についての記述を参照して、出力されている資料をすべて採取後、保守員に連絡してください。主に出力される資料を次に示します。

- メッセージログファイル
- コンソールメッセージ
- コマンド実行時の標準出力・標準エラー出力
- コアファイル (./core)
- MQT トレースファイル
- チャンネル管理情報格納ファイル

KFCA18331-E

```
mmm 保守情報 1 = aa....aa
```

mmm : MQT 識別子

aa....aa : 保守情報 (処理詳細コード)

(S)処理を終了します。

(O)マニュアル「TP1/Message Queue 使用の手引」の障害時に取得する情報についての記述を参照して、出力されている資料をすべて採取後、保守員に連絡してください。主に出力される資料を次に示します。

- メッセージログファイル
- コンソールメッセージ
- コマンド実行時の標準出力・標準エラー出力
- コアファイル (./core)
- MQT トレースファイル
- チャンネル管理情報格納ファイル

KFCA18332-E

```
mmm 保守情報 1 = aa....aa 保守情報 2 = bb....bb
```

mmm : MQT 識別子

aa....aa : 保守情報 (処理詳細コード)

bb....bb : 保守情報 (ほかにエラーを調査するのに必要な情報)

(S)処理を終了します。

(O)マニュアル「TP1/Message Queue 使用の手引」の障害時に取得する情報についての記述を参照して、出力されている資料をすべて採取後、保守員に連絡してください。主に出力される資料を次に示します。

- メッセージログファイル
- コンソールメッセージ
- コマンド実行時の標準出力・標準エラー出力
- コアファイル (./core)
- MQT トレースファイル
- チャンネル管理情報格納ファイル

KFCA18333-E

```
mmm 保守情報 1 = aa....aa  
保守情報 2 = bb....bb cc....cc
```

mmm : MQT 識別子

aa....aa : 保守情報 (処理詳細コード)

bb....bb : 保守情報 (ほかにエラーを調査するのに必要な情報)

cc....cc：保守情報（ほかにエラーを調査するのに必要な情報）

(S)処理を終了します。

(O)マニュアル「TP1/Message Queue 使用の手引」の障害時に取得する情報についての記述を参照して、出力されている資料をすべて採取後、保守員に連絡してください。主に出力される資料を次に示します。

- メッセージログファイル
- コンソールメッセージ
- コマンド実行時の標準出力・標準エラー出力
- コアファイル (./core)
- MQT トレースファイル
- チャンネル管理情報格納ファイル

KFCA18334-E

```
mmm 保守情報 1 = aa....aa  
保守情報 2 = bb....bb cc....cc dd....dd
```

mmm：MQT 識別子

aa....aa：保守情報（処理詳細コード）

bb....bb：保守情報（ほかにエラーを調査するのに必要な情報）

cc....cc：保守情報（ほかにエラーを調査するのに必要な情報）

dd....dd：保守情報（ほかにエラーを調査するのに必要な情報）

(S)処理を終了します。

(O)マニュアル「TP1/Message Queue 使用の手引」の障害時に取得する情報についての記述を参照して、出力されている資料をすべて採取後、保守員に連絡してください。主に出力される資料を次に示します。

- メッセージログファイル
- コンソールメッセージ
- コマンド実行時の標準出力・標準エラー出力
- コアファイル (./core)
- MQT トレースファイル
- チャンネル管理情報格納ファイル

KFCA18335-E

```
mmm 保守情報 1 = aa....aa
```

保守情報 2 = bb....bb cc....cc dd....dd ee....ee

mmm : MQT 識別子

aa....aa : 保守情報 (処理詳細コード)

bb....bb : 保守情報 (ほかにエラーを調査するのに必要な情報)

cc....cc : 保守情報 (ほかにエラーを調査するのに必要な情報)

dd....dd : 保守情報 (ほかにエラーを調査するのに必要な情報)

ee....ee : 保守情報 (ほかにエラーを調査するのに必要な情報)

(S)処理を終了します。

(O)マニュアル「TP1/Message Queue 使用の手引」の障害時に取得する情報についての記述を参照して、出力されている資料をすべて採取後、保守員に連絡してください。主に出力される資料を次に示します。

- メッセージログファイル
- コンソールメッセージ
- コマンド実行時の標準出力・標準エラー出力
- コアファイル (./core)
- MQT トレースファイル
- チャンネル管理情報格納ファイル

KFCA18341-E

mmm プロセス内のメモリが不足しています。

mmm : MQT 識別子

(S)処理を終了します。

(O)マニュアル「TP1/Message Queue 使用の手引」の障害時に取得する情報についての記述を参照して、出力されている資料をすべて採取後、保守員に連絡してください。主に出力される資料を次に示します。

- メッセージログファイル
- コンソールメッセージ
- コマンド実行時の標準出力・標準エラー出力
- コアファイル (./core)
- MQT トレースファイル
- チャンネル管理情報格納ファイル

KFCA18368-W

mmm MQT トレース情報出力要求出口関数が省略されたため、MQT トレースファイル出力要求を行いません。MQT トレースファイルへの出力要求を行わないで処理します。

mmm : MQT 識別子

(S)処理を続行します。

【対策】 保守員に連絡してください。

KFCA18370-I

mmm MQT トレースファイルへの出力を開始しました。

mmm : MQT 識別子

(S)処理を続行します。

KFCA18371-I

mmm MQT トレースファイルへの出力を終了しました。

mmm : MQT 識別子

(S)処理を続行します。

KFCA18372-E

mmm MQT トレースの入出力に必要なローカルメモリが確保できません。
要求メモリ量 = aa....aa

mmm : MQT 識別子

aa....aa : エラーが発生したときのメモリ量 (単位: バイト)

(S)MQT 通信プロセスを終了します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 MQT 通信プロセスが動作できるようにメモリ量を大きくしてください。

KFCA18376-E

mmm MQT トレースの出力に失敗しました。

発行関数名 = aa....aa

理由コード = bb....bb

処理関数名 = cc....cc

mmm : MQT 識別子

aa....aa : 発行したシステムコール名

bb....bb : システムコールのリターンコード (errno)

cc....cc : エラーが発生した関数名 (31 文字以内)

(S)MQT トレースファイル出力処理を中止して、処理を続行します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 理由コードに従って処置してください。

理由コード	意味	対策
errno 値	MQT トレースファイルの出力に失敗しました。	理由コードを参照して原因を調査してください。
-1	障害が発生しました。	障害時に取得する情報について、マニュアル「TP1/Message Queue 使用の手引」を参照してください。 次に示す資料をすべて採取後、保守員に連絡してください。 <ul style="list-style-type: none">• メッセージログファイル• MQT トレースファイル

KFCA18377-I

mmm MQT トレースのトレースオプションを変更しました。

変更前 = aa....aa

変更後 = bb....bb (S + L)

MQT トレースオプションの定義設定値を変更しました。このメッセージ以降、変更後のトレースオプションでトレースデータを取得します。

mmm : MQT 識別子

aa....aa : 変更前のトレースオプション

bb....bb : 変更後のトレースオプション

(S)トレース制御情報のトレースオプションを変更し、処理を続行します。

KFCA18383-E

MQT トレース編集に必要なローカルメモリが確保できません。要求メモリ量 = aa....aa (E)

aa....aa : 要求メモリ量 (バイト)

(S)MQT トレースファイルの編集出力処理を終了します。

【対策】 ローカルメモリ量を大きくしてください。

KFCA18393-E

MQT トレースファイルの入出力中に障害が発生しました。

標準関数名 = aa....aa 理由コード = bb....bb

処理関数名 = cc....cc (E)

aa....aa : 標準関数名

bb....bb : 理由コード

cc....cc : 処理関数名

(S)MQT トレースファイルの編集出力処理を終了します。

【対策】 標準関数名および理由コードに従って処置してください。

標準関数名	理由コード	意味	対策
fopen	2	MQT トレースファイルをオープンできません。	MQT トレースファイル名が正しいか確認してください。
	13	MQT トレースファイルをオープンできません。	MQT トレースファイルのアクセス権を確認してください。
read	正の値 (errno の値)	MQT トレースファイルの読み込みでエラーを検出しました。	理由コードの値を OS 提供のヘッダファイル (errno.h) で確認し、対策してください。
	負の値	MQT トレースファイル以外のファイルの読み込みでエラーを検出しました。	MQT トレースファイル以外のファイルを指定していないか、または MQT トレースファイルが破損していないか確認してください。
上記以外		その他	次に示す資料をすべて採取後、保守員に連絡してください。 <ul style="list-style-type: none">• コマンド実行時の標準出力および標準エラー出力• MQT トレースファイル

KFCA18400-E

mmm 開始処理で異常が発生しました。

理由コード = bb....bb

詳細コード = cc....cc

mmm : MQT 識別子

bb....bb : 理由コード (保守情報)

cc....cc：詳細コード（保守情報）

(S)処理を中断します。

(O)マニュアル「TP1/Message Queue 使用の手引」の障害時に取得する情報についての記述を参照して、出力されている資料をすべて採取後、保守員に連絡してください。主に出力される資料を次に示します。

- メッセージログファイル
- コンソールメッセージ
- コマンド実行時の標準出力・標準エラー出力
- コアファイル (./core)
- MQT トレースファイル
- チャンネル管理情報格納ファイル

KFCA18401-E

```
mmm 終了処理で異常が発生しました。  
理由コード= bb....bb  
詳細コード= cc....cc
```

mmm：MQT 識別子

bb....bb：理由コード（保守情報）

cc....cc：詳細コード（保守情報）

(S)処理を中断します。

(O)マニュアル「TP1/Message Queue 使用の手引」の障害時に取得する情報についての記述を参照して、出力されている資料をすべて採取後、保守員に連絡してください。主に出力される資料を次に示します。

- メッセージログファイル
- コンソールメッセージ
- コマンド実行時の標準出力・標準エラー出力
- コアファイル (./core)
- MQT トレースファイル
- チャンネル管理情報格納ファイル

KFCA18432-E

```
mmm MQT トレース出力処理で異常が発生しました。  
理由コード= bb....bb  
詳細コード= cc....cc
```

mmm : MQT 識別子

bb...bb : CHI 提供リターンコード

cc....cc : システムコールエラー時の errno 値

(S)MQT トレース出力処理を中断します。

(O)サーバ側プロセスを終了してください。保守員に連絡してください。

KFCA18601-E

```
"malloc(aa....aa)"failed, pid=bb....bb. type=0xcc....cc
```

C 標準関数の malloc がエラーリターンしたため、プロセス固有領域を確保できません。

aa....aa : MQT サーバ内で発行した malloc 関数に指定したサイズ

bb....bb : malloc 関数を発行したプロセスのプロセス ID

cc....cc : 種別コード (MQT 各コンポーネントで設定した識別情報)

(S)システムを継続して運用できる場合は、そのまま処理を続行します。

継続できない場合は、異常終了します。

(O)このメッセージの内容を記録し、OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 プログラムで使用するプロセス固有領域の使用量を減らすか、またはシステム資源 (スワップ領域) を増やして、処理を再度実行してください。

KFCA18602-E

```
"aa....aa(bb....bb)"failed errno=cc....cc : dd....dd
```

MQT サーバ内で発行したシステムコールでエラーが発生しました。

aa....aa : システムコール名 (最大 15 文字の半角英数字)

bb....bb : システムコールを呼び出したモジュール、または関数名 (最大 63 文字の半角英数字)

cc....cc : システムコールエラー時の errno 値 (最大 3 けたの 10 進数)

dd....dd : システムコールエラーの内容

(S)障害の重要度によって、次のどれかの処置をとります。

- 処理を打ち切り、プロセスを異常終了させます。
- 処理を打ち切り、実行中サービスの呼び出し元へリターンします。
- そのまま処理を続行します。

(O)マニュアル「TP1/Message Queue 使用の手引」の障害時に取得する情報についての記述を参照して、出力されている資料をすべて採取後、保守員に連絡してください。主に出力される資料を次に示します。

- メッセージログファイル
- コンソールメッセージ
- コマンド実行時の標準出力・標準エラー出力
- コアファイル (./core)
- MQT トレースファイル
- チャンネル管理情報格納ファイル

コアファイルにダンプが出力されている場合は、そのダンプを保存し、保守員に連絡してください。

KFCA18603-E

```
aa....aa(pid=bb....bb) killed by code=cc....cc
```

サーバプロセスを異常終了します。

aa....aa：異常終了するサーバ名

bb....bb：異常終了するサーバプロセスのプロセス ID

cc....cc：コンポ要因コード

コンポ ID1 文字（英小文字）とコンポ内通番 6 けた

(S)処理を打ち切り、プロセスを異常終了します。

(O)このメッセージの内容を記録し、コアファイルにダンプが出力されている場合は、そのダンプを保存し、OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 マニュアル「TP1/Message Queue 使用の手引」の障害時に取得する情報についての記述を参照して、出力されている資料をすべて採取後、保守員に連絡してください。主に出力される資料を次に示します。

- メッセージログファイル
- コンソールメッセージ
- コマンド実行時の標準出力・標準エラー出力
- コアファイル (./core)
- MQT トレースファイル
- チャンネル管理情報格納ファイル

4

KFCA20000 から KFCA29999 までのメッセージ

この章では、KFCA20000 から KFCA29999 までのメッセージについて説明します。

4.1 KFCA20000 から KFCA29999 までのメッセージ

KFCA26100-I

使用方法：mqadf [-h usage] キューファイルグループ名 (S)

(S)mqadf コマンドの使用方法を示します。

KFCA26151-E

指定したキューファイルグループ名 (aa....aa) はありません。 (E)

aa....aa：キューファイルグループ名

(S)処理を中止します。

(O)正しいキューファイルグループ名を指定して、再度実行してください。

KFCA26158-E

キューファイル (aa....aa) に登録されているメッセージのキュー名 (bb....bb) が違うキューファイル (cc....cc) に存在します。 (L + E)

このメッセージは次のどちらかの場合に出力されます。

- MQA サービスの開始処理中、または再開時
- オンラインコマンド処理中

aa....aa：キューファイル名

bb....bb：キュー名

cc....cc：キューファイル名

(S)MQA サービスを停止します (MQA サービスの開始処理中、または再開時の場合)。
コマンド処理を終了します (オンラインコマンド処理中の場合)。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 重複するキュー名のどちらかを削除し、再度実行してください。

KFCA26159-E

ジャーナルとキューファイル (aa....aa) の間で回復できない矛盾を検知しました。

aa....aa：キューファイル名

(S)MQA サービスを停止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 正しいキューファイルを指定して、再度実行してください。

KFCA26160-E

キュー (aa....aa) が格納されているキューファイル (bb....bb) が存在しません。

aa....aa : キュー名

bb....bb : キューファイル名

(S)MQA サービスを停止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 キューが格納されているキューファイルを、MQA サービス定義のキューファイルグループの構成定義にキューファイル名を指定して、OpenTP1 サービスを再度開始してください。

KFCA26162-E

指定したオブジェクト名 (aa....aa) が誤っています。 (E)

aa....aa : オブジェクト名

(S)処理を終了します。

(O)正しいオブジェクト名を設定して、再度実行してください。

KFCA26163-E

指定したキューマネージャ名 (aa....aa) が誤っています。 (E)

aa....aa : キューマネージャ名

(S)処理を終了します。

(O)正しいキューマネージャ名を設定して、再度実行してください。

KFCA26164-E

キューファイル (aa....aa) に格納されているメッセージのキュー (bb....bb) がキューファイル (cc....cc) に存在しません。 (L + E)

このメッセージは次のどちらかの場合に出力されます。

- MQA サービスの開始処理中
- オンラインコマンド処理中

aa....aa : キューファイル名

bb....bb : キュー名

cc....cc : キューファイル名

(S)MQA サービスを停止します (MQA サービスの開始処理中の場合)。

コマンド処理を終了します (オンラインコマンド処理中の場合)。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

[対策] メッセージを削除するか、またはキューを作成して再度実行してください。

メッセージを削除するには次に示すとおり入力します。

```
mqadelque -m キュー名 キューファイル名
```

KFCA26165-E

変更できない属性をモデルキューに定義しています。 (L + E)

mqachgque コマンドで指定されたモデルキューの属性定義に変更できない属性を定義しています。

(S)処理を中断します。

(O)モデルキューの属性定義で正しい属性を指定し、再度実行してください。

KFCA26167-E

ファイル名 (aa....aa) が誤っています。 (L + E)

aa....aa : ファイル名

(S)処理を中断します。

(O)正しいファイル名を指定し、再度実行してください。

KFCA26168-E

MQA サービス定義で指定したキュー (aa....aa) の最大メッセージ長がキューマネージャ定義で指定したメッセージ長の最大値を超えています。

aa....aa : キュー名

(S)MQA サービス定義を停止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

[対策] 指定した値を再確認し、再度実行してください。

KFCA26169-E

キュー (aa....aa) の最大メッセージ長がキューマネージャ定義で指定したメッセージ長の最大値を超えています。

キューファイル名 : bb....bb (L + E)

このメッセージは次のどちらかの場合に出力されます。

- MQA サービスの開始処理中
- オンラインコマンド処理中

aa....aa : キュー名

bb....bb : キューファイル名

(S)MQA サービスを停止します (MQA サービスの開始処理中の場合)。

コマンド処理を終了します (オンラインコマンド処理中の場合)。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 指定した値を再確認し、再度実行してください。

KFCA26170-E

キュー (aa....aa) のトリガのためのメッセージ優先度の下限値がキューマネージャ定義で指定した優先度の最大値を超えています。

キューファイル名 : bb....bb (L + E)

このメッセージは次のどちらかの場合に出力されます。

- MQA サービスの開始処理中
- オンラインコマンド処理中

aa....aa : キュー名

bb....bb : キューファイル名

(S)MQA サービスを停止します (MQA サービスの開始処理中の場合)。

コマンド処理を終了します (オンラインコマンド処理中の場合)。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 指定した値を再確認し、再度実行してください。

KFCA26171-E

キュー (aa....aa) の省略時のメッセージ優先度がキューマネージャ定義で指定した優先度の最大値を超えています。

キューファイル名: bb....bb (L + E)

このメッセージは次のどちらかの場合に出力されます。

- MQA サービスの開始処理中
- オンラインコマンド処理中

aa....aa: キュー名

bb....bb: キューファイル名

(S)MQA サービスを停止します (MQA サービスの開始処理中の場合)。

コマンド処理を終了します (オンラインコマンド処理中の場合)。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 指定した値を再確認し、再度実行してください。

KFCA26172-E

指定したオブジェクト名 (aa....aa) は有効ではありません。

理由コード=bb....bb (L + E)

有効でないオブジェクト名を指定しました。

aa....aa: オブジェクト名

bb....bb: 理由コード (MQI の理由コード)

(S)処理を中断します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 cmqc.h または CMQV.cbl の MQI ヘッダファイルで理由コードの意味を調べ、原因を取り除き、再度実行してください。

KFCA26173-E

キューファイル (aa....aa) で回復不能なエラーが発生しました。

保守コード=bb....bb (L + E)

aa....aa: キューファイル名

bb....bb：保守コード（OpenTP1 の各サービスが返すリターン値）

(S)処理を中断します。

(O)メッセージに出力されている保守コードを保守員に連絡してください。

KFCA26174-E

キューファイル（aa....aa）が重複して指定されています。（L + E）

aa....aa：キューファイル名

(S)処理を中断します。

(O)同じキューファイル名が二つ以上指定されている場合、一つにして再度実行してください。

KFCA26175-E

キャラクタ型スペシャルファイルのオープンでシステムから上限値オーバのエラーが報告されました。
キューファイル名：aa....aa（L + E）

aa....aa：キューファイル名

(S)処理を中断します。

(O)OS の環境を再度設定してから、再度実行してください。

または、未使用のキャラクタ型スペシャルファイルをクローズしてから、再度実行してください。

KFCA26176-E

指定したキュー（aa....aa）をキューファイルに割り当てることができません。（L + E）

キューファイルに空きがないか、またはキューファイルがないためキューを割り当てることができません。

aa....aa：キュー名

(S)処理を中断します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

[対策] 動的キューを作成するキューファイルがオンラインで使用できるかどうか確認してください。キューファイルがオンラインで使用できる場合、未使用キューの個数を確認してください。

KFCA26177-E

MQT サーバ名の指定が誤っています。
定義ファイル名：aa....aa bb....bb 行目（L + E）

aa....aa : 定義ファイル名

bb....bb : エラーが発生した行

(S)処理を中断します。

(O)MQT サーバ名の先頭に '_' (アンダスコア) を付けてください。

KFCA26178-E

キューファイルのみの組み込みのため-n オプションは指定できません。 (E)

(O)-n オプションを指定しないで、再度実行してください。

KFCA26179-E

キュー名の取得に失敗しました。理由コード=aa....aa (E)

aa....aa : 理由コード (MQI の理由コード)

(S)処理を中断します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 cmqc.h または CMQV.cbl の MQI ヘッダファイルで理由コードの意味を調べ、原因を取り除き、再度実行してください。

KFCA26184-E

プロセス固有領域のメモリ不足で処理を続行できません。 (L + E)

(S)処理を中断します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 プロセス固有領域のメモリ使用量を見直してください。

KFCA26185-E

静的共用領域のメモリ不足で処理を続行できません。

要求メモリ量=aa....aa (L + E)

aa....aa : エラーが発生した場合のメモリ量 (単位: バイト)

(S)処理を中断します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 静的共用領域のメモリ使用量を見直してください。

64ビット版の TP1/Message Queue 07-51 以降では、KFCA31211-E メッセージが出力されます。

KFCA26186-E

動的共用領域のメモリ不足で処理を続行できません。

要求メモリ量=aa....aa (L + E)

aa....aa : エラーが発生した場合のメモリ量 (単位: バイト)

(S)処理を中断します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 動的共用領域のメモリ使用量を見直してください。

64ビット版の TP1/Message Queue 07-51 以降では、KFCA31212-E メッセージが出力されます。

KFCA26187-E

ロックサービスでメモリ不足が発生したため、処理を続行できません。

(S)処理を中断します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 システムを停止させ、システム定義 (排他サービス定義) の MQA サービスの最大同時排他要求数の値を設定し直してから、システムを再度起動してください。

KFCA26188-E

入出力バッファが満杯となったため、処理を続行できません。キューファイル名: aa....aa (L + E)

aa....aa : キューファイル名

(S)処理を中断します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 MQA サービス定義のキューファイルグループの構成定義の入出力バッファ数、またはキューファイルの組み込みの入出力バッファ数を見直してください。

KFCA26189-E

プロセス固有領域のメモリ不足で処理を続行できません。

要求メモリ量=aa....aa

aa....aa : エラーが発生した場合の要求メモリ量 (単位: バイト)

(S)処理を中断します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

[対策] プロセス固有領域のメモリ使用量を見直してください。

KFCA26190-E

動的共用メモリが足りないため、入出力バッファが確保できません。
要求メモリ量=オーバフローのため表示できません。

(S)処理を中断します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

[対策] キューファイルの割り当てで指定しているメッセージ長を小さくしたあと、再度実行してください。または、MQA サービス定義のキューファイルグループの構成定義で指定した入出力バッファ数を小さくしたあと、再度実行してください。

KFCA26191-E

ファイル (aa....aa) の読み出し位置の移動に失敗しました。 (E)

aa....aa : ファイル名

(S)処理を中断します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

KFCA26192-I

使用方法 : mqadlmsg [-h usage] [{-a | -n メッセージ番号}] キュー名 (S)

(S)mqadlmsg コマンドの使用方法を示します。

KFCA26193-I

使用方法 : mqalsmsg [-h usage] [-s メッセージ開始番号] [-e 出力メッセージ数] [-o メッセージ内容
出力バイト数] キュー名 (S)

(S)mqalsmsg コマンドの使用方法を示します。

KFCA26194-I

使用方法 : mqarcvr [-h usage] -f キューファイル名 (S)

(S)mqarcvr コマンドの使用方法を示します。

5

KFCA30000 から KFCA30999 までのメッセージ

この章では、KFCA30000 から KFCA30999 までのメッセージについて説明します。

5.1 KFCA30000 から KFCA30999 までのメッセージ

KFCA30800-I

MQC リスナサーバを開始します。

(S)処理を続行します。

KFCA30801-I

MQC リスナサーバを再開始します。

(S)処理を続行します。

KFCA30802-I

MQC リスナサーバを開始しました。

(S)処理を続行します。

KFCA30803-I

MQC リスナサーバの終了要求を受け付けました。

(S)処理を続行します。

KFCA30804-I

MQC リスナサーバを終了します。

(S)処理を続行します。

KFCA30805-I

MQC ゲートウェイサーバ (aa....aa) が MQC サービスを開始しました。

aa....aa : MQC ゲートウェイサーバ名

(S)処理を続行します。

KFCA30806-I

MQC ゲートウェイサーバ (aa....aa) の終了要求を受け付けました。

aa....aa : MQC ゲートウェイサーバ名

(S)処理を続行します。

KFCA30807-I

MQC ゲートウェイサーバ (aa....aa) を終了します。

aa....aa : MQC ゲートウェイサーバ名

(S)処理を続行します。

KFCA30809-E

定義解析中にエラーが発生したため、MQC リスナサーバを開始できません。 (E)

(S)処理を中断します。

(O)MQC サービス定義を見直してください。

KFCA30810-E

MQC サービス定義ファイルがありません。

(S)処理を中断します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

[対策] MQC サービス定義ファイルを作成して、再度実行してください。

KFCA30811-E

MQC サービス定義の省略できない定義を省略しました。定義名 : aa....aa

aa....aa : 省略された定義名

(S)MQC リスナサーバを終了します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

[対策] MQC サービス定義に定義が設定されているか確認して、再度実行してください。

KFCA30812-E

定義コマンド (aa....aa) で指定した MQC ゲートウェイサーバ名の文字数に誤りがあります。定義
ファイル名 = bb....bb 行番号 = ccc

aa....aa : コマンド名

bb....bb : 定義ファイル名

ccc : エラーが発生した行

(S)処理を中断します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

[対策] MQC ゲートウェイサーバ名を見直して、再度実行してください。

KFCA30813-E

コマンドで指定した引数の数が正しくありません。定義ファイル名 = aa....aa コマンド名 = bb....bb
行番号 = ccc

aa....aa : 定義ファイル名

bb....bb : コマンド名

ccc : エラーが発生した行

(S)処理を中断します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

[対策] MQC ゲートウェイサーバ名を見直して、再度実行してください。

KFCA30814-E

定義コマンド (aa....aa) の (bbb) オプションは省略できません。定義ファイル名 = cc....cc 行番号
= ddd

aa....aa : コマンド名

bbb : オプション

cc....cc : 定義ファイル名

ddd : エラーが発生した行

(S)処理を中断します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

[対策] オプションの指定値を見直して、再度実行してください。

KFCA30815-E

定義コマンド (aa....aa) の (bbb) オプションの指定に誤りがあります。定義ファイル名 = cc....cc
行番号 = ddd

aa....aa : コマンド名

bbb : オプション

cc....cc : 定義ファイル名

ddd : エラーが発生した行

(S)処理を中断します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 オプションの指定値を見直して、再度実行してください。

KFCA30816-E

定義コマンド (aa....aa) で指定できない文字を名称 (bb....bb) に指定しています。定義ファイル名 = cc....cc 行番号 = ddd

aa....aa : コマンド名

bb....bb : 指定した名称

cc....cc : 定義ファイル名

ddd : エラーが発生した行

(S)処理を中断します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 正しい名称を指定して、再度実行してください。

KFCA30817-E

定義コマンド (aa....aa) で指定した MQC ゲートウェイサーバ名 (bb....bb) が誤っています。定義ファイル名 = cc....cc 行番号 = ddd

aa....aa : コマンド名

bb....bb : 指定した MQC ゲートウェイサーバ名

cc....cc : 定義ファイル名

ddd : エラーが発生した行

(S)処理を中断します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 正しい MQC ゲートウェイサーバ名を指定して、再度実行してください。

KFCA30818-E

定義コマンド (aa....aa) の (bbb) オプションで指定できない文字を名称 (cc....cc) に指定しています。定義ファイル名 = dd....dd 行番号 = eee

aa....aa : コマンド名

bbb : オプション

cc....cc : 指定した名称

dd....dd : 定義ファイル名

eee : エラーが発生した行

(S)処理を中断します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 正しい名称をオプションに指定して、再度実行してください。

KFCA30819-E

定義コマンド (aa....aa) で MQC ゲートウェイサーバ名 (bb....bb) が重複して指定されています。定義ファイル名 = cc....cc 行番号 = ddd

aa....aa : コマンド名

bb....bb : MQC ゲートウェイサーバ名

cc....cc : 定義ファイル名

ddd : エラーが発生した行

(S)処理を中断します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 重複した MQC ゲートウェイサーバ名のどちらかを変更、または削除して、再度実行してください。

KFCA30820-E

定義コマンド (aa....aa) で指定したポート番号 (bbb) が他のポート番号と重複して指定されています。定義ファイル名 = cc....cc 行番号 = ddd

aa....aa : コマンド名

bbb : ポート番号

cc....cc：定義ファイル名

ddd：エラーが発生した行

(S)処理を中断します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 重複したポート番号のどちらかを変更，または削除して，再度実行してください。

KFCA30821-E

定義コマンド (aa....aa) で指定したサービス名 (bb....bb) が他のサービス名と重複して指定されています。定義ファイル名 = cc....cc 行番号 = ddd

aa....aa：コマンド名

bb....bb：サービス名

cc....cc：定義ファイル名

ddd：エラーが発生した行

(S)処理を中断します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 重複したサービス名のどちらかを変更，または削除して，再度実行してください。

KFCA30822-E

MQC サービス定義に mqcgwpsnam 定義コマンドが一つも指定されていません。

(S)処理を中断します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 MQC サービス定義に mqcgwpsnam 定義コマンドが設定されているか確認して，再度実行してください。

KFCA30823-E

MQC サービス定義で mqcgwpsnam 定義コマンドが指定できる最大値を超えています。

(S)処理を中断します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 MQA サービス定義の mqa_mqc_clientnum オペランド指定値を超える mqcgwpsnam 定義コマンドを MQC サービス定義に指定していないか確認してください。

KFCA30824-E

MQC サービス定義に mqcenv 定義コマンドが一つも指定されていません。

(S)処理を中断します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 MQC サービス定義に mqcenv 定義コマンドが設定されているか確認して、再度実行してください。

KFCA30825-E

MQC サービス定義で mqcenv 定義コマンドを指定できる最大値を超えています。

(S)処理を中断します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 MQC サービス定義の mqcenv 定義コマンドの数を確認して、再度実行してください。

KFCA30830-E

MQC リスナサーバ終了処理完了待ち時間監視でタイムアウトが発生しました。

(S)送受信を中断し、MQC サービスを終了します。

(O)TP1/Message Queue Access の障害対策資料を採取し、OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 MQC サービス定義の終了処理完了待ちタイマ値を見直してください。

KFCA30831-E

MQC リスナサーバで TCP/IP インタフェースエラーが発生しました。IP アドレス = aa....aa ポート番号 = bb....bb プロセス ID = cc....cc スレッド ID = dd....dd (ee....ee, ff....ff)

aa....aa：相手システムの IP アドレス

接続未完了の場合は***.***.***.***を出力します。

bb....bb：相手システムのポート番号

接続未完了の場合は 0 を出力します。

cc....cc：相手システムのプロセス ID

接続未完了の場合は-1 を出力します。

dd....dd：相手システムのスレッド ID

接続未完了の場合は-1 を出力します。

ee....ee：ソケット関数名

ff....ff：TCP/IP の障害エラー番号

障害エラー番号がない場合は***を出力します。

(S)クライアントの該当コネクションへのサービスを停止します。

(O)クライアントから TCP/IP コネクションが切断された場合や回線状態が不安定な場合以外に出力されたときは、TP1/Message Queue Access の障害対策資料を採取し、OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 OS のマニュアルから、ソケット関数名に示す関数のエラーコードを調査してください。

障害エラー番号に***が出力された場合は、相手システムの状態を確認してください。

KFCA30832-E

MQC リスナサーバで不正データを受信しました。IP アドレス = aa....aa ポート番号 = bb....bb プロセス ID = cc....cc スレッド ID = dd....dd 理由コード = ee....ee

aa....aa：相手システムの IP アドレス

接続未完了の場合は***.***.***.***を出力します。

bb....bb：相手システムのポート番号

接続未完了の場合は 0 を出力します。

cc....cc：相手システムのプロセス ID

接続未完了の場合は-1 を出力します。

dd....dd：相手システムのスレッド ID

接続未完了の場合は-1 を出力します。

ee....ee：理由コード

(S)処理を中断し、クライアントの該当コネクションへのサービスを停止します。

(O)TP1/Message Queue Access の障害対策資料を採取し、OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 保守員に連絡してください。

KFCA30834-E

MQC リスナサーバで継続セグメント受信監視でタイムアウトが発生しました。IP アドレス = aa....aa ポート番号 = bb....bb プロセス ID = cc....cc スレッド ID = dd....dd

aa....aa：相手システムの IP アドレス

接続未完了の場合は***.***.***.***を出力します。

bb....bb：相手システムのポート番号

接続未完了の場合は 0 を出力します。

cc....cc：相手システムのプロセス ID

接続未完了の場合は-1 を出力します。

dd....dd：相手システムのスレッド ID

接続未完了の場合は-1 を出力します。

(S)処理を中断し、クライアントの該当コネクションへのサービスを停止します。

(O)TP1/Message Queue Access の障害対策資料を採取し、OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 MQC サービス定義の継続セグメント受信監視タイマ値を見直してください。

KFCA30835-E

MQC リスナサーバで電文受信待ち時間監視でタイムアウトが発生しました。IP アドレス = aa....aa
ポート番号 = bb....bb プロセス ID = cc....cc スレッド ID = dd....dd

aa....aa：相手システムの IP アドレス

接続未完了の場合は***.***.***.***を出力します。

bb....bb：相手システムのポート番号

接続未完了の場合は 0 を出力します。

cc....cc：相手システムのプロセス ID

接続未完了の場合は-1 を出力します。

dd....dd：相手システムのスレッド ID

接続未完了の場合は-1 を出力します。

(S)処理を中断します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

KFCA30836-E

MQC リスナサーバで MQC コネクション確立完了監視でタイムアウトが発生しました。
IP アドレス = aa....aa ポート番号 = bb....bb

aa....aa：相手システムの IP アドレス

接続未完了の場合は***.***.***.***を出力します。

bb....bb：相手システムのポート番号

接続未完了の場合は 0 を出力します。

(S)MQC リスナサーバが待機状態になります。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 MQC リスナサーバ通信環境定義の MQC コネクション確立完了監視タイマ値を見直してください。

KFCA30837-E

MQC リスナサーバのスレッド制御処理でエラーが発生しました。保守情報 (aa....aa, bb....bb)

aa....aa：スレッドインタフェース関数名

bb....bb：エラーコード

(S)処理を中断します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 TP1/Message Queue Access の障害対策資料を採取し、保守員に連絡してください。

KFCA30838-E

同時接続クライアント数の最大値を超えたため、接続が完了できません。接続元情報 (aa....aa, bb....bb)

aa....aa：接続元クライアントの IP アドレス

bb....bb：接続元クライアントのポート番号

(S)該当するクライアントとの接続処理を中断し、接続待ち状態になります。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 リスナサーバの負荷が軽減されてから再度接続し直してください。または、MQA サービス定義のオンライン中に同時に処理できるクライアントの最大数を見直してください。

KFCA30840-E

MQC ゲートウェイサーバ (aa....aa) で終了処理完了待ち時間監視でタイムアウトが発生しました。

aa....aa：MQC ゲートウェイサーバ名

(S)送受信を中断し、MQC ゲートウェイサーバサービスを終了します。

(O)TP1/Message Queue Access の障害対策資料を採取し、OpenTP1 管理者に連絡してください。

[対策] MQC サービス定義の終了処理完了待ちタイマ値を見直してください。

KFCA30841-E

MQC ゲートウェイサーバ (aa....aa) で TCP/IP インタフェースエラーが発生しました。IP アドレス = bb....bb ポート番号 = cc....cc プロセス ID = dd....dd スレッド ID = ee....ee (ff....ff, gg....gg)

aa....aa : MQC ゲートウェイサーバ名

bb....bb : 相手システムの IP アドレス

接続未完了の場合は***.***.***.***を出力します。

cc....cc : 相手システムのポート番号

接続未完了の場合は 0 を出力します。

dd....dd : 相手システムのプロセス ID

接続未完了の場合は-1 を出力します。

ee....ee : 相手システムのスレッド ID

接続未完了の場合は-1 を出力します。

ff....ff : ソケット関数名

gg....gg : TCP/IP の障害エラー番号

障害エラー番号がない場合は***を出力します。

(S)クライアントの該当コネクションへのサービスを停止します。再接続を待ちます。

(O)クライアントから TCP/IP コネクションが切断された場合や回線状態が不安定な場合以外に出力されたときは、TP1/Message Queue Access の障害対策資料を採取し、OpenTP1 管理者に連絡してください。

[対策] OS のマニュアルから、ソケット関数名に示す関数のエラーコードを調査してください。

障害エラー番号に***が出力された場合は、相手システムの状態を確認してください。

KFCA30842-E

MQC ゲートウェイサーバ (aa....aa) で不正データを受信しました。IP アドレス = bb....bb ポート番号 = cc....cc プロセス ID = dd....dd スレッド ID = ee....ee 理由コード = ff....ff

aa....aa : MQC ゲートウェイサーバ名

bb....bb : 相手システムの IP アドレス

接続未完了の場合は***.***.***.***を出力します。

cc....cc : 相手システムのポート番号

接続未完了の場合は 0 を出力します。

dd....dd : 相手システムのプロセス ID
接続未完了の場合は-1 を出力します。

ee....ee : 相手システムのスレッド ID
接続未完了の場合は-1 を出力します。

ff....ff : 理由コード

(S)処理を中断し、クライアントの該当コネクションへのサービスを停止します。

(O)TP1/Message Queue Access の障害対策資料を採取し、OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 TP1/Message Queue Access の障害対策資料を採取し、保守員に連絡してください。

KFCA30844-E

MQC ゲートウェイサーバ (aa....aa) で継続セグメント受信監視でタイムアウトが発生しました。IP アドレス = bb....bb ポート番号 = cc....cc プロセス ID = dd....dd スレッド ID = ee....ee

aa....aa : MQC ゲートウェイサーバ名

bb....bb : 相手システムの IP アドレス
接続未完了の場合は***.***.***.***を出力します。

cc....cc : 相手システムのポート番号
接続未完了の場合は 0 を出力します。

dd....dd : 相手システムのプロセス ID
接続未完了の場合は-1 を出力します。

ee....ee : 相手システムのスレッド ID
接続未完了の場合は-1 を出力します。

(S)処理を中断し、クライアントの該当コネクションへのサービスを停止します。

(O)TP1/Message Queue Access の障害対策資料を採取し、OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 通信相手のシステム状態を確認し、MQC サービス定義に指定したタイマ値を修正して、MQC ゲートウェイサーバを起動してください。

KFCA30845-E

MQC ゲートウェイサーバ (aa....aa) で電文受信待ち時間監視でタイムアウトが発生しました。IP アドレス = bb....bb ポート番号 = cc....cc プロセス ID = dd....dd スレッド ID = ee....ee

aa....aa : MQC ゲートウェイサーバ名

bb....bb：相手システムの IP アドレス

接続未完了の場合は***.***.***.***を出力します。

cc....cc：相手システムのポート番号

接続未完了の場合は 0 を出力します。

dd....dd：相手システムのプロセス ID

接続未完了の場合は-1 を出力します。

ee....ee：相手システムのスレッド ID

接続未完了の場合は-1 を出力します。

(S)受信処理を中断し、該当コネクションへのサービスを停止します。

(O)TP1/Message Queue Access の障害対策資料を採取し、OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 通信相手のシステム状態を確認し、MQC サービス定義に指定したタイム値を修正して、MQC ゲートウェイサーバを起動してください。

KFCA30847-E

MQC ゲートウェイサーバ (aa....aa) で異常を検知しました。MQC ゲートウェイサーバを終了します。場所= bb....bb 保守コード= cc....cc エラーコード= dd....dd

aa....aa：MQC ゲートウェイサーバ名

bb....bb：異常を検知した場所

cc....cc：保守コード

dd....dd：エラーコード

(S)MQC ゲートウェイサーバを終了します。

(O)TP1/Message Queue Access の障害対策資料を採取し、OpenTP1 管理者に連絡してください。

KFCA30848-E

指定した MQC ゲートウェイサーバ名 (aa....aa) は未登録です。

aa....aa：MQC ゲートウェイサーバ名

(S)MQC ゲートウェイサーバ処理を終了します。

【対策】 指定した MQC ゲートウェイサーバ名を見直してください。

KFCA30849-E

ユーザサービス定義に MQC ゲートウェイサーバ名が指定されていません。

(S)MQC ゲートウェイサーバ処理を終了します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 MQC ゲートウェイサーバのユーザサービス定義に mqcgwpsnam を指定しているか確認して、再度実行してください。

KFCA30850-E

ユーザサービス定義に指定されている MQC ゲートウェイサーバ名に誤りがあります。

(S)MQC ゲートウェイサーバ処理を終了します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 MQC ゲートウェイサーバのユーザサービス定義の mqcgwpsnam の指定に誤りがないか確認して、再度実行してください。

KFCA30851-E

指定したポート番号は使用できません。

(S)MQC ゲートウェイサーバを終了します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 ポート番号またはサービス名およびサービス名ファイルの指定に誤りがないか確認してください。

KFCA30852-E

MQC ゲートウェイサーバ (aa....aa) の MQC ゲートウェイサーバ監視でタイムアウトが発生しました。IP アドレス = bb....bb ポート番号 = cc....cc プロセス ID = dd....dd スレッド ID = ee....ee

aa....aa : MQC ゲートウェイサーバ名

bb....bb : 相手システムの IP アドレス

cc....cc : 相手システムのポート番号

dd....dd : 相手システムのプロセス ID

ee....ee : 相手システムのスレッド ID

(S)MQC ゲートウェイサーバが待機状態になります。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 MQC リスナサーバ通信環境定義の MQC ゲートウェイサーバ監視タイマ値を見直してください。

KFCA30853-E

MQC ゲートウェイサーバ (aa....aa) の MQC コネクション確立完了監視でタイムアウトが発生しました。IP アドレス = bb....bb ポート番号 = cc....cc プロセス ID = dd....dd スレッド ID = ee....ee

aa....aa : MQC ゲートウェイサーバ名

bb....bb : 相手システムの IP アドレス

cc....cc : 相手システムのポート番号

dd....dd : 相手システムのプロセス ID

ee....ee : 相手システムのスレッド ID

(S)MQC ゲートウェイサーバが待機状態になります。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 MQC リスナサーバ通信環境定義の MQC コネクション確立完了監視タイマ値を見直してください。

KFCA30854-E

MQC ゲートウェイサーバ (aa....aa) はトランザクション開始中のため、新たなトランザクションを開始することはできません。プロセス ID = bb....bb スレッド ID = cc....cc

aa....aa : MQC ゲートウェイサーバ名

bb....bb : 相手システムのプロセス ID

cc....cc : 相手システムのスレッド ID

(S)トランザクションの開始処理を中断します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 現在開始中のトランザクションを決着させたあとに再試行してください。

KFCA30855-E

MQC ゲートウェイサーバのオンライン中で同時に走行できるトランザクションの最大数を越えたため、新たなトランザクションを開始することはできません。

(S)トランザクションの開始処理を中断します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 現在開始中のトランザクションを決着させたあとに再試行してください。または、MQA サービス定義のオンライン中に同時に処理できるトランザクションの最大数を見直してください。

KFCA30856-W

MQC ゲートウェイサーバ (aa....aa) は開始中のトランザクションを強制的にロールバックしました。IP アドレス=bb....bb ポート番号=cc....cc プロセス ID=dd....dd スレッド ID=ee....ee

aa....aa : MQC ゲートウェイサーバ名

bb....bb : 相手システムの IP アドレス

cc....cc : 相手システムのポート番号

dd....dd : 相手システムのプロセス ID

ee....ee : 相手システムのスレッド ID

(S)未終了のトランザクションに対して xa_prepare, xa_commit, または xa_rollback が発行されたため、トランザクションを強制的にロールバック決着しました。MQC ゲートウェイサーバは待機状態になります。

(O)TCP/IP コネクションが切断された場合や回線状態が不安定な場合以外に出力されたときは、TP1/Message Queue Access の障害対策資料を採取し、OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 相手システムの状態を確認し、処理を再度実行してください。

KFCA30857-W

トランザクションブランチ終了監視でタイムアウトが発生しました。(aa....aa) [bb....bb] [cc....cc]

aa....aa : MQC ゲートウェイサーバ名

bb....bb : トランザクショングローバル識別子

cc....cc : トランザクションブランチ識別子

(S)同期点処理へ移行状態 (xa_end 済み状態) のトランザクションを強制的にロールバックします。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 クライアントアプリケーションの状態を確認してください。

または、MQC リスナサーバ通信環境定義の-i オプションの値を見直してください。

KFCA30858-W

トランザクションブランチ終了監視詳細情報 (aa....aa) IP アドレス = bb....bb ポート番号 = cc....cc
プロセス ID = dd....dd スレッド ID = ee....ee

aa....aa : MQC ゲートウェイサーバ名

bb....bb : 相手システムの IP アドレス

cc....cc：相手システムのポート番号

dd....dd：相手システムのプロセス ID

ee....ee：相手システムのスレッド ID

(S)同期点処理へ移行状態 (xa_end 済み状態) のトランザクションを強制的にロールバックします。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 クライアントアプリケーションの状態を確認してください。

または、MQC リスナサーバ通信環境定義の-i オプションの値を見直してください。

KFCA30861-E

MQC サービスが異常を検知しました。モジュール ID = aa....aa 場所 = bb....bb 保守コード = cc....cc
(L + E)

aa....aa：モジュール ID (保守情報)

bb....bb：場所 (保守情報)

cc....cc：保守コード (保守情報)

(S)MQC サービス, MQC ゲートウェイサーバ, またはコマンドプロセスを終了します。

(O)TP1/Message Queue Access の障害対策資料を採取し, OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 TP1/Message Queue Access の障害対策資料を採取し, 保守員に連絡してください。

KFCA30862-E

メモリ不足で処理を続行できません。 (L + E)

(S)MQC リスナサーバ, MQC ゲートウェイサーバ, またはコマンドプロセスを終了します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 MQC リスナサーバ, MQC ゲートウェイサーバ, およびコマンドプロセスが動作できるようにメモリ量を大きくしてください。

KFCA30863-E

MQC リスナサーバと MQC ゲートウェイサーバ間のバージョンが一致しません。 (L + E)

(S)処理を中止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 プログラムプロダクトのバージョンを見直してください。

KFCA30864-E

MQC リスナサーバと MQC クライアント間のバージョンが一致しません。 (L + E)

(S)処理を中止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 プログラムプロダクトのバージョンを見直してください。

KFCA30865-E

ローカルメモリ不足が発生しました。 要求メモリ量=aa....aa (L + E)

aa....aa : 要求メモリ量

(S)MQC リスナサーバ, MQC ゲートウェイサーバ, またはコマンドプロセスを終了します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 MQC リスナサーバ, MQC ゲートウェイサーバ, およびコマンドプロセスが動作できるようにメモリ量を大きくしてください。

KFCA30866-E

メモリ不足が発生しました。 (L + E)

(S)MQC リスナサーバ, MQC ゲートウェイサーバ, またはコマンドプロセスを終了します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 MQC リスナサーバ, MQC ゲートウェイサーバ, およびコマンドプロセスが動作できるようにメモリ量を大きくしてください。

KFCA30867-E

共用メモリ不足が発生しました。 要求メモリ量=aa....aa (L + E)

aa....aa : エラーが発生した場合のメモリ量 (単位: バイト)

(S)処理を終了します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 共用メモリ量を大きくして再度起動してください。

64 ビット版の TP1/Message Queue 07-51 以降では, KFCA30930-E メッセージが出力されます。

KFCA30868-E

aa....aa にホスト情報 (bb....bb) が設定されていません。 (L + E)

aa....aa : ホスト名ファイル

bb....bb : 指定ホスト名

(S)処理を終了します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

[対策] ホスト名およびホスト名ファイルの指定に誤りがないか確認してください。

KFCA30869-E

aa....aa にサービス情報 (bb....bb) が設定されていません。 (L + E)

aa....aa : サービス名ファイル

bb....bb : 指定サービス名

(S)処理を終了します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

[対策] サービス名およびサービス名ファイルの指定に誤りがないか確認してください。

KFCA30870-I

使用方法 : mqclstrn [-h usage] {-a | -n MQC ゲートウェイサーバ名} (E)

KFCA30872-I

使用方法 : mqccontrn [-h usage] {-c | -r | -f} {-n MQC ゲートウェイサーバ名 | -t OpenTP1 トランザクション ID | -u クライアントトランザクション ID | -m MQCID} (E)

KFCA30873-E

指定した MQC ゲートウェイサーバ名は存在しません。 (E)

(S)処理を中断します。

(O)指定したコマンド引数, およびオプションが誤っています。正しい MQC ゲートウェイサーバ名を設定して, 再度実行してください。

KFCA30874-E

指定したトランザクション ID は存在しません。 (E)

(S)処理を中断します。

(O)指定したコマンド引数、およびオプションが誤っています。正しいトランザクション ID を設定して、再度実行してください。

KFCA30875-E

指定した MQCID は存在しません。 (E)

(S)処理を中断します。

(O)指定したコマンド引数、およびオプションが誤っています。正しい MQCID を設定して、再度実行してください。

KFCA30876-I

トランザクション ID (aa....aa) のトランザクションをコミットしました。 (L + S)

aa....aa : トランザクション ID

(S)コマンド処理を終了します。

KFCA30877-I

トランザクション ID (aa....aa) のトランザクションをロールバックしました。 (L + S)

aa....aa : トランザクション ID

(S)コマンド処理を終了します。

KFCA30880-E

コマンドで指定した引数の数が正しくありません。 (E)

(S)処理を中断します。

(O)指定したコマンド引数、およびオプションが誤っています。正しい値を設定して、再度実行してください。

KFCA30881-E

定義解析中にエラーが発生しました。 (L + E)

システム共通定義ファイルを作成してください。または内容に誤りがあります。

(S)コマンド処理を中止します。

(O)システム共通定義を見直してください。

KFCA30882-E

MQC サービスが終了処理中です。 (L + E)

(S)処理を中止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 MQC サービスを起動してください。

KFCA30883-E

RPC においてネットワーク障害が発生しました。(aa....aa, bb....bb, cc....cc, dd....dd) (L + E)

MQC の RPC 時に、LAN 障害などのハードウェア障害による通信障害が発生しました。

aa....aa：エラー要因となった関数名

bb....bb：エラー要因となった関数のリターンコード

cc....cc：エラーを出力したモジュール ID

dd....dd：ライン番号

(S)処理を中止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 ネットワーク障害を取り除き、OpenTP1 を起動してください。

KFCA30884-E

MQC サービスが起動されていません。 (L + E)

(S)処理を中止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 MQC サービスを起動してください。

KFCA30885-E

指定したオプションの数が誤っています。 (E)

(S)処理を中止します。

(O)指定したコマンド引数, およびオプションが誤っています。正しい値を設定して, 再度実行してください。

KFCA30886-E

I/O エラーが発生しました。 (L + E)

(S)処理を中止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

[対策] 直前に出力された open システムコールのエラーコードを基に, エラーとなった原因を調査してください。

KFCA30887-E

サービスとクライアント間のバージョンが一致しません。 (L + E)

MQC サービスと運用コマンドのバージョンが不一致です。

(S)処理を中止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

[対策] プログラムプロダクトのバージョンを見直してください。

KFCA30888-I

運用コマンドが終了しました。 (S)

(S)コマンド処理を終了します。

KFCA30900-E

タイムアウトとなりました。(aa....aa, bb....bb, cc....cc, dd....dd) (L + E)

aa....aa : エラー要因となった関数名

bb....bb : エラー要因となった関数のリターンコード

cc....cc : エラーを出力したモジュール ID

dd....dd : ライン番号

(S)処理を終了します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

[対策] ネットワークに障害が発生していないか調査してください。

KFCA30901-E

通信障害が発生しました。(aa....aa, bb....bb, cc....cc, dd....dd)

通信障害が発生したため、コマンドが実行できません。

aa....aa：エラー要因となった関数名

bb....bb：エラー要因となった関数のリターンコード

cc....cc：エラーを出力したモジュール ID

dd....dd：ライン番号

(S)処理を中断します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】通信障害の原因を調査し、取り除いてください。

KFCA30902-I

トランザクション ID (aa....aa) のトランザクションを無効にしました。(L + S)

aa....aa：トランザクション ID

(S)コマンドを終了します。

KFCA30903-I

MQC ゲートウェイサーバ (aa....aa) のトランザクションをコミットしました。(L + S)

aa....aa：MQC ゲートウェイサーバ名

(S)コマンドを終了します。

KFCA30904-I

MQC ゲートウェイサーバ (aa....aa) のトランザクションをロールバックしました。(L + S)

aa....aa：MQC ゲートウェイサーバ名

(S)コマンドを終了します。

KFCA30905-I

MQC ゲートウェイサーバ (aa....aa) のトランザクションを無効にしました。(L + S)

aa....aa：MQC ゲートウェイサーバ名

(S)コマンドを終了します。

KFCA30906-E

指定した MQC ゲートウェイサーバ名のトランザクション状態は変更できません。 (E)

(S)コマンドを終了します。

KFCA30907-E

指定したトランザクション ID のトランザクション状態は変更できません。 (E)

(S)コマンドを終了します。

KFCA30908-I

MQCID (aa....aa) のトランザクションをコミットしました。 (L + S)

aa....aa : MQCID

(S)コマンドを終了します。

KFCA30909-I

MQCID (aa....aa) のトランザクションをロールバックしました。 (L + S)

aa....aa : MQCID

(S)コマンドを終了します。

KFCA30910-I

MQCID (aa....aa) のトランザクションを無効にしました。 (L + S)

aa....aa : MQCID

(S)コマンドを終了します。

KFCA30911-E

指定した MQCID のトランザクション状態は変更できません。 (E)

(S)コマンドを終了します。

KFCA30912-E

指定した MQC ゲートウェイサーバ名の文字数に誤りがあります。MQC ゲートウェイサーバ名 : aa....aa (E)

aa....aa : MQC ゲートウェイサーバ名

(S)処理を中断します。

(O)指定した MQC ゲートウェイサーバ名の文字数が誤っています。正しい MQC ゲートウェイサーバ名を設定して、再度実行してください。

KFCA30913-E

MQC ゲートウェイサーバ名に指定できない文字を指定しています。MQC ゲートウェイサーバ名 : aa....aa (E)

aa....aa : MQC ゲートウェイサーバ名

(S)処理を中断します。

(O)指定した MQC ゲートウェイサーバ名に指定できない文字を指定しています。正しい MQC ゲートウェイサーバ名を設定して、再度実行してください。

KFCA30914-E

トランザクション ID の文字数に誤りがあります。トランザクション ID : aa....aa (E)

aa....aa : トランザクション ID

(S)処理を中断します。

(O)指定したトランザクション ID の文字数が誤っています。正しいトランザクション ID を設定して、再度実行してください。

KFCA30915-E

トランザクション ID に指定できない文字を指定しています。トランザクション ID : aa....aa (E)

aa....aa : トランザクション ID

(S)処理を中断します。

(O)指定したトランザクション ID に指定できない文字を指定しています。正しいトランザクション ID を設定して、再度実行してください。

KFCA30916-E

MQCID に誤りがあります。MQCID : aa....aa (E)

aa....aa : MQCID

(S)処理を中断します。

(O)指定した MQCID が誤っています。正しい MQCID を設定して、再度実行してください。

KFCA30918-E

トランザクションは存在しません。 (E)

(S)コマンドを終了します。

KFCA30930-E

共用メモリ不足が発生しました。要求メモリ量=aa....aa (L + E)

aa....aa : エラーが発生した場合のメモリ量 (単位 : キロバイト)

(S)処理を終了します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 共用メモリ量を大きくして再度起動してください。

32 ビット版の TP1/Message Queue の全バージョン, および 64 ビット版の TP1/Message Queue 07-50 以前では, KFCA30867-E メッセージが出力されます。

6

KFCA31000 から KFCA31999 までのメッセージ

この章では、KFCA31000 から KFCA31999 までのメッセージについて説明します。

6.1 KFCA31000 から KFCA31999 までのメッセージ

KFCA31023-E

キューファイルとバックアップキューファイルの指定数が異なります。 (L + E)

(S)処理を中断します。

(O)キューファイルとバックアップキューファイルの指定数を合わせてください。

KFCA31024-E

キューファイル (aa....aa) とバックアップキューファイル (bb....bb) の内容が不一致です。 (L + E)

指定したキューファイルとバックアップキューファイルの組み合わせは内容が不一致のため二重化構成に指定できません。

aa....aa : キューファイル名

bb....bb : バックアップキューファイル名

(O)キューファイルおよびバックアップキューファイルを確認したあと、再度実行してください。

KFCA31025-E

指定したメッセージ開始番号からは、メッセージが存在しません。 (E)

(S)処理を中断します。

(O)指定したメッセージ開始番号を確認してください。

KFCA31030-E

コマンド実行中に異常を検知しました。
関数名 = aa....aa 理由コード = bb....bb (E)

aa....aa : MQI 関数名

bb....bb : MQI 理由コード

(S)処理を中断します。

(O)理由コードを調査し、原因を取り除いてください。

KFCA31032-W

プロセス実行中のため、キューファイルの回復処理を再試行します。 (E)

KFCA31033-E

指定したキューファイルは、二重化構成を行っていないため指定できません。 (E)

(O)キューファイルを確認したあと、再度実行してください。

KFCA31034-E

指定したキューファイルは、両系論理閉塞のため回復する必要がありません。 (E)

(O)キューファイルを確認したあと、再度実行してください。

KFCA31035-E

指定したキューファイルグループは、キューファイル二重化構成のため-b オプションを指定してください。 (E)

(O)キューファイルグループを確認したあと、再度実行してください。

KFCA31037-E

キューファイル二重化構成において、両系障害閉塞のため回復できません。 (E)

(O)キューファイルを確認したあと、再度実行してください。

KFCA31038-I

キューファイル (aa....aa), 及びバックアップキューファイル (bb....bb) の組み込みが完了しました。

aa....aa : キューファイル名

bb....bb : バックアップキューファイル名

(S)キューファイルおよびバックアップキューファイルを組み込みます。

KFCA31039-I

指定したキューファイル (aa....aa) を回復しました。

aa....aa : キューファイル名

(S)キューファイルを回復します。

KFCA31040-E

指定したキューファイル (aa....aa) とバックアップキューファイル (bb....bb) のキューファイル二重化構成が正しくありません。 (L + E)

aa....aa : キューファイル名

bb....bb : バックアップキューファイル名

(O)キューファイルおよびバックアップキューファイルを確認したあと、再度実行してください。

KFCA31041-E

指定したバックアップキューファイル (aa....aa) はキューファイル (bb....bb) に対するバックアップキューファイルではありません。 (L + E)

aa....aa : バックアップキューファイル名

bb....bb : キューファイル名

(O)キューファイルおよびバックアップキューファイルを確認したあと、再度実行してください。

KFCA31042-E

指定したキューファイルグループはキューファイル二重化構成ではないため-b オプションは指定できません。 (E)

(O)キューファイルグループを確認したあと、再度実行してください。

KFCA31043-E

定義ファイルで CCSID 値が重複して指定されています。

定義ファイル名 : aa....aa bb....bb 行目

aa....aa : エラーが発生した定義ファイル名

bb....bb : エラーが発生した行

(S)処理を中断します。

(O)CCSID 値を見直してください。

KFCA31044-E

指定したキュー名は指定できない種類のキューです。 (E)

(S)処理を中断します。

(O)キューの種類を見直してください。

KFCA31045-E

定義ファイルでコード変換種別が重複して指定されています。

定義ファイル名：aa....aa bb....bb 行目 (L + E)

aa....aa：エラーが発生した定義ファイル名

bb....bb：エラーが発生した行

(S)処理を中断します。

(O)コード変換種別を見直してください。

KFCA31046-E

定義ファイルでコード変換テーブル種別が重複して指定されています。

定義ファイル名：aa....aa bb....bb 行目 (L + E)

aa....aa：エラーが発生した定義ファイル名

bb....bb：エラーが発生した行

(S)処理を中断します。

(O)コード変換テーブル種別を見直してください。

KFCA31047-E

MQA サービス定義で指定したキューファイル登録メッセージサイズ回復値がキューファイル登録メッセージサイズしきい値を超えています。(L + E)

(S)処理を中断します。

(O)MQA サービス定義に指定したキューファイル登録メッセージサイズ回復値とキューファイル登録メッセージサイズしきい値を見直してください。

KFCA31048-E

MQA サービス定義で指定したキュー登録メッセージ数回復値がキュー登録メッセージ数しきい値を超えています。(L + E)

(S)処理を中断します。

(O)MQA サービス定義に指定したキュー登録メッセージ数回復値とキュー登録メッセージ数しきい値を見直してください。

KFCA31049-E

MQ 管理機能インタフェースでエラーが発生しました。
 オブジェクト名=aa....aa オブジェクトタイプ=bbb 理由コード=cc....cc
 保守情報 1=dd....dd 保守情報 2=ee....ee (L + E)

aa....aa：オブジェクト名

bbb：オブジェクトタイプ

mgr：キューマネージャ

fil：キューファイル

que：キュー

grp：キューファイルグループ

mqi：MQI インタフェース

cmd：コマンド

cc....cc：理由コード

dd....dd：保守情報

ee....ee：エラー詳細コード

(S)MQA プロセスは MQ 管理機能とのインタフェースを縮退して処理を続行します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 出力された理由コードに従って処置してください。

理由コード (10 進)	エラー詳細コード (10 進)	意味	対策
1	errno の値	共用メモリの操作、またはセマフォの操作に失敗しました。	エラー詳細コードの値を OS 提供のヘッダファイル (errno.h) で確認し、対策してから TP1/Message Queue を再度開始してください。
2	errno の値	MQ 管理情報ファイルへのアクセスに失敗しました。	エラー詳細コードの値を OS 提供のヘッダファイル (errno.h) で確認し、対策してから TP1/Message Queue を再度開始してください。
3	errno の値	コマンド起動に失敗しました。 Cm2 (Consolidated Management 2) のトラップ送信コマンド (snmptrap) の起動に失敗しました。	エラー詳細コードの値を OS 提供のヘッダファイル (errno.h) で確認するとともに、ESA の状態を確認し、対策してから TP1/Message Queue を再度開始してください。
5	要求メモリ量 (単位: バイト)	ローカルメモリが不足しています。	TP1/Message Queue の各プロセスで使用できるローカルメモリ量を確認

理由コード (10進)	エラー詳細コード (10進)	意味	対策
5	要求メモリ量 (単位: バイト)	ローカルメモリが不足しています。	認して、TP1/Message Queue を再度開始してください。
6	0	ユーザ名の取得エラーです。 /etc/passwd ファイルから TP1/Message Queue を起動しているユーザが参照できません。	/etc/passwd ファイルに TP1/Message Queue を起動しているユーザ名が登録されているかを確認し、TP1/Message Queue を再度開始してください。
7	errno の値	エージェントメッセージキュー構成定義ファイルへのアクセスに失敗しました。	エラー詳細コードの値を OS 提供のヘッダファイル (errno.h) で確認し、対策してから TP1/Message Queue を再度開始してください。
8	1	エージェントメッセージキュー構成定義ファイルの 1 行の長さが 80 文字を超えています。	エージェントメッセージキュー構成定義ファイルの内容を見直して、TP1/Message Queue を再度開始してください。
	2	エージェントメッセージキュー構成定義ファイルに、キューマネージャ識別子が定義されていません。	
	3	エージェントメッセージキュー構成定義ファイルに指定したキューマネージャ識別子が 2 けたになっていません。	
	4	エージェントメッセージキュー構成定義ファイルに指定したキューマネージャ名が 48 文字を超えています。	
	5	エージェントメッセージキュー構成定義ファイルに指定したキューマネージャ名が重複しています。	
	6	エージェントメッセージキュー構成定義ファイルに指定したキューマネージャ識別子が重複しています。	
	7	エージェントメッセージキュー構成定義ファイルのキューマネージャ識別子の指定値が不正です。	
	8	MQA サービス定義の mqaquemgr 定義コマンドで指定したキューマネージャ名と一致する定義が、エージェントメッセージキュー構成定義ファイルの内容から見つかりません。	
9	—	TP1/Message Queue のバージョンに対応した Operation - Agent (Message Queue Operation - Agent) が正常にインストールされていません。	TP1/Message Queue のバージョンに対応した Operation - Agent をインストールしてください。

理由コード (10進)	エラー詳細コード (10進)	意味	対策
10	errno の値	エージェントメッセージキュー環境定義ファイルへのアクセスに失敗しました。	エラー詳細コードの値を OS 提供のヘッダファイル (errno.h) で確認し、対策してから TP1/Message Queue を再度開始してください。
11	1	エージェントメッセージキュー環境定義ファイルの 1 行の長さが 80 文字を超えています。	エージェントメッセージキュー環境定義ファイルの内容を見直して、TP1/Message Queue を再度開始してください。
	2	エージェントメッセージキュー環境定義ファイルのエージェント物理 IP アドレスの指定値が不正です。	
	3	エージェントメッセージキュー環境定義ファイルのエージェント論理 IP アドレスの指定値が不正です。	
	255	その他のエラーです。	

(凡例)

— : 該当しません。

KFCA31050-E

モデルキュー (aa....aa) の定義に指定したキューファイル名がバックアップキューファイル (bb....bb) のため指定できません。 (L + E)

aa....aa : モデルキューの定義名

bb....bb : バックアップキューファイル名

(S)処理を中断します。

(O)OpenTP1 起動時は、mqaqueatl (モデルキューの属性定義) のキューファイル名の指定を変更して、再度実行してください。

mqaadd コマンド実行時は、-b オプションのバックアップキューファイル名を見直し、再度実行してください。

KFCA31051-E

MQA サービス定義で指定したキューファイル登録メッセージサイズ回復値とキューファイル登録メッセージサイズしきい値が同じです。 (L + E)

(S)処理を中断します。

(O)MQA サービス定義に指定したキューファイル登録メッセージサイズ回復値とキューファイル登録メッセージサイズしきい値を見直してください。

KFCA31052-E

MQA サービス定義で指定したキュー登録メッセージ数回復値とキュー登録メッセージ数しきい値が同じです。 (L + E)

(S)処理を中断します。

(O)MQA サービス定義に指定したキュー登録メッセージ数回復値とキュー登録メッセージ数しきい値を見直してください。

KFCA31053-I

キュー (aa....aa) の登録メッセージ数をオーバーしました。 (L + E)

MQA サービス定義の mqa_mqo_queue_alarm_level オペランドに指定したキュー登録メッセージ数のしきい値以上になったことを示します。

aa....aa : キュー名

(S)処理を続行します。

KFCA31054-I

キュー (aa....aa) の登録メッセージ数を回復しました。 (L + E)

MQA サービス定義の mqa_mqo_queue_recover_level オペランドに指定したキュー登録メッセージ数の回復値を下回ったことを示します。

aa....aa : キュー名

(S)処理を続行します。

KFCA31055-I

キューファイル (aa....aa) の登録メッセージサイズをオーバーしました。 (L + E)

MQA サービス定義の mqa_mqo_queuefile_alarm_level オペランドに指定したキューファイル登録メッセージサイズのしきい値以上になったことを示します。

aa....aa : キューファイル名

(S)処理を続行します。

KFCA31056-I

キューファイル (aa....aa) の登録メッセージサイズを回復しました。 (L + E)

MQA サービス定義の `mqa_mqo_queuefile_recover_level` オペランドに指定したキューファイル登録メッセージサイズの回復値を下回ったことを示します。

`aa....aa` : キューファイル名

(S)処理を続行します。

KFCA31057-I

使用方法 : `mqaconvert [-h usage] [-b バッファサイズ] コンバート元ファイル名 コンバート先ファイル名 (S)`

(S)mqaconvert コマンドの使用方法を示します。

KFCA31058-E

キューマネージャが配布リストをサポートしていないため指定したキュー (`aa....aa`) に対して配布リストを指定できません。 (E)

`aa....aa` : キュー名

(S)処理を終了します。

(O)指定したキューの配布リストを未サポートにするか、キューマネージャの配布リストをサポートにしてください。

KFCA31065-I

キュー(`aa....aa`)にメッセージの滞留が発生しました。

`aa....aa` : キュー名

(S)処理を続行します。

KFCA31066-I

キュー(`aa....aa`)のメッセージの滞留が解消されました。

`aa....aa` : キュー名

(S)処理を続行します。

KFCA31067-E

キューマネージャが配布リストをサポートしていないため指定したキューファイル (`aa....aa`) 内のキューに対して配布リストを指定できません。

`aa....aa` : キューファイル名

(S)処理を終了します。

(O)キューマネージャの配布リストをサポートにしてください。

KFCA31068-E

キューマネージャが配布リストをサポートしていないため指定したキューファイル (aa....aa) とバックアップキューファイル (bb....bb) 内のキューに対して配布リストを指定できません。

aa....aa : キューファイル名

bb....bb : バックアップキューファイル名

(S)処理を終了します。

(O)キューマネージャの配布リストをサポートにしてください。

KFCA31069-E

バックアップファイル (.msg) のセクタ長が OpenTP1 ファイルシステムのセクタ長の倍数でないためコンバートできません。 (E)

(S)処理を中断します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

KFCA31072-E

MQT 通信プロセス(aa....aa)へのイベント通知に失敗しました。対象転送キュー名 : bb....bb チャンネル名 : cc....cc (dd....dd, ee....ee)

aa....aa : MQT 通信プロセス識別子

bb....bb : 転送キュー名

cc....cc : クラスタチャンネルの場合, チャンネル名を出力します。通常チャンネルの場合, ***を出力します。

dd....dd : エラー要因となった関数名

ee....ee : エラー要因となった関数のリターンコード

(S)処理を続行します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 このメッセージ以前に出力されたメッセージに従って処置してください。

KFCA31078-I

使用方法：mqaset [-h usage] {{-p {disabled | enabled} | -g {disabled | enabled}} | {-p {disabled | enabled} -g {disabled | enabled}}} オブジェクト名 (S)

(S)mqaset コマンドの使用方法を示します。

KFCA31079-E

TP1/Message Queue で予約しているキュー名 (aa....aa) を MQA サービス定義に指定していません。 (L + E)

aa....aa：キュー名

(S)処理を中断します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 リモートキューのローカル定義を見直してください。

KFCA31080-E

クラスタ名の文字数が 48 文字を超えています。 (E)

(S)処理を中断します。

(O)クラスタ名を 48 文字以内で指定して、再度実行してください。

KFCA31081-E

クラスタ名に指定できない文字を指定しています。 (E)

(S)処理を中断します。

(O)正しい文字を名称に指定して、再度実行してください。

KFCA31082-E

クラスタセンダプロセスまたは、クラスタレシーバプロセスが MQA サービス定義に指定されていません。 (L + E)

(S)処理を中断します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 クラスタセンダプロセスまたはクラスタレシーバプロセスを MQA サービス定義に指定してください。

KFCA31083-E

システムクラスタキュー環境が整っていません。キュー名 (aa....aa) (L + E)

aa....aa : キュー名

(S)処理を中断します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 システムクラスタキューを MQA サービス定義に指定してください。または、クラスタ環境のシステムキューの障害を回復してください。クラスタ環境のシステムキューの障害回復方法については、マニュアル「TP1/Message Queue 使用の手引」を参照してください。

KFCA31084-E

システムクラスタキューがローカルキューではありません。キュー名 (aa....aa) (L + E)

aa....aa : キュー名

(S)処理を中断します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 システムクラスタキューをローカルキューで作成し MQA サービス定義に指定してください。

KFCA31087-E

転送キューは、クラスタ内で共用することはできません。 (L + E)

(S)処理を中断します。

(O)キュー使用種別を変更するか、クラスタ内共有クラスタ名称の指定を取り除き、再度実行してください。

KFCA31088-E

クラスタセンダプロセスを複数指定することはできません。 (L + E)

(S)処理を中断します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 MQA サービス定義に複数指定されている、クラスタセンダプロセス定義を一つにしてください。

KFCA31089-E

クラスタ機能を使用しない場合に、クラスタセンダプロセスまたは、クラスタレシーバプロセスの定義を指定することはできません。 (L + E)

(S)処理を中断します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 MQA サービス定義の mqa_mqr_conf オペランドに Y を指定するか、またはクラスタセンダプロセス定義およびクラスタレシーバプロセスの定義を削除してください。

KFCA31090-E

リモートキューのローカルキュー定義に対して-g 取り出し許可を指定することはできません。 (E)

(S)処理を中断します。

(O)リモートキューのローカルキュー定義に対して-g 取り出し許可を指定しないでください。

KFCA31091-E

モデルキューに対して、属性を変更することはできません。 (E)

(S)処理を中断します。

(O)モデルキュー定義に対して属性を変更しないでください。

KFCA31092-E

プロセス固有領域のメモリ不足のため、クラスタ共用キュー情報をクラスタに通知することができません。要求メモリ量：aa....aa キュー名：bb....bb (E)

aa....aa：要求メモリ量（単位：バイト）

bb....bb：キュー名

(S)処理を続行します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

KFCA31093-E

メッセージジャーナル取得回復機能を使用するためには、キューマネージャの最大メッセージ長が長すぎます。

(S)処理を中断します。

(O)MQA サービス定義の mqa_jnl_conf オペランドについてマニュアル「TP1/Message Queue 使用の手引」を参照し、mqaquemgr 定義コマンドの-l オプションに指定する最大メッセージ長の値を再設定してください。

KFCA31094-E

メッセージジャーナル取得回復機能使用時にはキューファイル二重化構成を使用することは出来ません。

(S)処理を中断します。

(O)システムの構築を見直してください。

KFCA31095-E

command argument is invalid. (S)

コマンドの引数が誤っています。

(S)コマンド処理を中断します。

(O)引数を正しく指定し、再度コマンドを実行してください。

KFCA31096-E

internal inconsistency was detected during recovery processing. (S)

回復処理プロセスのエラーが発生しました。

(S)回復処理を中断します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 次のファイルを保存してください。

- 回復対象キューファイル

KFCA31097-I

```
usage: mqafrc [-h usage] -f recovery-queue-file-definition-file-name [-s] [-e]
[-g] [-m] [-k key] journal-file-name [journal-file-name...] (S)
```

(S)mqafrc コマンドの使用方法を示します。

KFCA31098-E

ジャーナルレコードに不正があります。要因：aa....aa (E)

aa....aa：要因

record header broken：レコードヘッダが壊れています。

version mismatch：レコードヘッダのバージョンが処理対象外です。

invalid record size：レコードサイズが0です。

indicator mismatch：更新情報部のインジケータが不正です。

short of data : 入力長が, ヘッダで指定されたレコード長より短くなっています。

record data broken : レコードデータが壊れています。

(S)処理を中断します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

[対策] アンロードジャーナルファイル内のジャーナルが壊れていないか, 確認してください。

KFCA31099-E

mqafrc コマンドが使用する引き継ぎファイル(aa....aa)に不正があります。

要因 : bb....bb (E)

aa....aa : ファイル名

bb....bb : 要因

record data broken : 引き継ぎファイルの内容が壊れています。

not an inheritance file : ファイル (aa....aa) は mqafrc コマンドが使用する引き継ぎファイルとは異なります。

no file : 引き継ぎファイルがありません。

version mismatch : 引き継ぎファイルのバージョンが処理対象外です。

(S)処理を中断します。

(O)次に示すとおり処置してください。

1. 要因が"not an inheritance file"または"no file"の場合

mqafrc コマンドが使用する引き継ぎファイルを確認したあと, 再度実行してください。

2. 要因が上記以外の場合

OpenTP1 管理者に連絡してください。

[対策] 引き継ぎファイルが壊れていないか確認してください。

KFCA31100-W

障害キューファイルへのアクセスができません。

(S)処理を続行します。

(O)回復されていないキューファイルがあります。障害キューファイルの回復を実行してください。

KFCA31101-E

キューファイル(aa....aa)に格納されたメッセージが登録されているキュー(bb....bb)を作成したキューファイル(cc....cc)が組み込まれていません。

aa....aa : キューファイル名

bb....bb : キュー名

cc....cc : キューファイル名

(S)コマンド処理を終了します。

(O)メッセージが登録されているキューファイルを組み込んだあと、再度実行してください。

KFCA31102-E

キューファイル(aa....aa)で障害が発生したため処理を続行できません。

aa....aa : キューファイル名

(S)処理を中断します。

(O)再度実行してください。

KFCA31103-E

MQA サービスのチェックポイントダンプ取得中に入出力エラーが発生しました。

(S)MQA サービスを停止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 障害原因を調査し、再度実行してください。

KFCA31104-E

MQA サービスのチェックポイントダンプ取得中にエラーが発生しました。保守コード=aa....aa

aa....aa : OpenTP1 のサービスが返したリターン値

(S)MQA サービスを停止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 障害原因を調査し、再度実行してください。

KFCA31105-E

最大メッセージ登録数を減少できません。キュー名 = aa....aa 元の最大メッセージ登録数 = bb....bb
指定した最大メッセージ登録数 = cc....cc (E)

aa....aa : キュー名

bb....bb : 元の最大メッセージ登録数

cc....cc : 指定した最大メッセージ登録数

(S)コマンド処理を中断します。

(O)キュー属性定義ファイルにあるモデルキューの属性を見直してください。

KFCA31106-E

最大メッセージ長を減少できません。キュー名 = aa....aa 元の最大メッセージ長 = bb....bb 指定した最大メッセージ長 = cc....cc (E)

aa....aa : キュー名

bb....bb : 元の最大メッセージ長

cc....cc : 指定した最大メッセージ長

(S)コマンド処理を中断します。

(O)キュー属性定義ファイルにあるモデルキューの属性を見直してください。

KFCA31107-I

キューファイルグループ(aa....aa)の登録メッセージサイズをオーバーしました。

MQA サービス定義の mqaquegrp 定義コマンドの -u オプションに指定したキューファイルグループ登録メッセージサイズのしきい値以上になったことを示します。

aa....aa : キューファイルグループ名

(S)処理を続行します。

KFCA31108-I

キューファイルグループ(aa....aa)の登録メッセージサイズを回復しました。

MQA サービス定義の mqaquegrp 定義コマンドの -l オプションに指定したキューファイルグループ登録メッセージサイズの回復値を下回ったことを示します。

aa....aa : キューファイルグループ名

(S)処理を続行します。

KFCA31109-E

指定したコンバート元ファイルはコンバートできません。保守情報 = aa....aa (E)

aa....aa : 保守情報

(S)コマンド処理を中断します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

[対策] 障害原因を調査し、再度実行してください。

KFCA31110-E

キューファイルグループの構成定義で、キューファイルグループ登録メッセージサイズ回復値にしきい値以上の値を指定できません。 (E)

(S)コマンド処理を中断します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

[対策] キューファイルグループの構成定義を見直してください。

KFCA31111-W

指定したコンバート元ファイルは最新バージョンであるためコンバートの必要はありません。 (E)

(S)処理を中断します。

KFCA31112-E

mqaconvert コマンドのバッファサイズがキューファイルのレコード長未満であるため処理を続行できません。レコード長= aa....aa (E)

aa....aa : キューファイルのレコード長

(S)処理を中断します。

(O)バッファサイズを大きくしてコマンドを再度実行してください。

KFCA31113-I

使用方法 : mqagrpos [-h usage] [-r] {-g キューファイルグループ名 | -f キューファイル名} (S)

(S)mqagrpos コマンドの使用方法を示します。

KFCA31114-I

キューファイルグループ(aa....aa)内のキューファイル(bb....bb)を障害閉塞しました。

aa....aa : キューファイルグループ名

bb....bb : キューファイル名

(S)キューファイルグループ内のキューファイルを障害閉塞にします。

KFCA31115-E

コマンド (aa....aa) に対して処理結果を送信できません。理由コード= bb....bb

aa....aa : コマンド名

bb....bb : 理由コード

(S)コマンド処理を終了します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】ヘッダファイル (dcrpc.h) で理由コードの意味を調査し、原因を取り除いてください。

KFCA31116-E

指定したキューファイルは障害閉塞ではありません。(E)

(S)処理を中断します。

(O)障害閉塞のキューファイル名を指定して、再度実行してください。

KFCA31117-E

指定したキューファイルグループ名(aa....aa)に障害閉塞のキューファイルがありません。(E)

aa....aa : キューファイルグループ名

(S)処理を中断します。

(O)障害閉塞のキューファイル名を含んだキューファイルグループ名を指定して、再度実行してください。

KFCA31118-E

コマンド(aa....aa)が異常を検知しました。理由コード= bb....bb

aa....aa : コマンド名

bb....bb : 理由コード

(S)コマンド処理を中断します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】ヘッダファイル (dcrpc.h) で理由コードの意味を調査し、原因を取り除いてください。

KFCA31119-E

キューファイルの切り離し処理で異常を検知しました。 (E)

(S)コマンド処理を中断します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 ログ出力されたメッセージを調査し、原因を取り除いてください。

KFCA31120-E

RPC インタフェースで異常を検知しました。理由コード = aa....aa (E)

aa....aa : 理由コード (RPC のリターンコード)

(S)処理を中断します。

(O)MQA サーバの状態を確認してください。

【対策】 理由コードを基に、障害要因を取り除き、再度実行してください。

KFCA31121-E

指定したキューファイルグループは、二重化構成のため両系障害閉塞時以外は実行できません。 (E)

(O)キューファイルグループ内のキューファイル状態を確認したあと、再度実行してください。

KFCA31122-W

MQT 通信プロセス(aa....aa)へのイベント通知に失敗しました。対象転送キュー名 : bb....bb チャンネル名 : cc....cc 保守情報 : dd....dd (E)

aa....aa : MQT 通信プロセス識別子

bb....bb : 転送キュー名

cc....cc : クラスタチャンネルの場合、チャンネル名を出力します。通常チャンネルの場合、***を出力します。

dd....dd : 関数のリターン値

(S)MQT 通信プロセスへの RPC は中止します。MQA は処理を継続します。

KFCA31123-I

使用方法 : mqrsls [-h usage] [-x] {-q | -m | -t | -c} [-s] [-e] [オブジェクト名] (S)

(S)mqrsls コマンドの使用方法を示します。

KFCA31124-E

リポジトリ管理サーバが起動されていません。 (E)

(S)処理を終了させます。

【対策】 一度もリポジトリ管理サーバを起動していない場合、リポジトリ管理サーバを起動してください。

KFCA31171-I

使用方法：mqrswptrc [-h usage] (S)

(S)mqrswptrc コマンドの使用方法を示します。

KFCA31172-E

指定した情報は存在しません。

(S)処理を終了します。

KFCA31173-E

OpenTP1 がオンライン状態ではないため、コマンドを実行できません。 (L + E)

OpenTP1 がオンライン状態ではありません。

OpenTP1 がオンライン状態になるまで処理を抑止します。

(S)コマンド処理を中止します。

(O)OpenTP1 がオンライン状態になっていることを確認してください。

【対策】 KFCA01809-I のメッセージが出力されたあとにコマンドを実行してください。なお、KFCA01809-I のメッセージについては、マニュアル「OpenTP1 メッセージ」を参照してください。

KFCA31174-I

キュー (aa....aa) が見つからないためメッセージ (bb....bb) を削除しました。

このメッセージは再起動時にメッセージの格納されたキューがオンライン上に存在しない場合に出力されま
す。

aa....aa：キュー名

bb....bb：メッセージ識別子

(S)表示したメッセージは、削除された状態で起動されます。

KFCA31175-E

キューファイル (aa....aa) に格納されたメッセージが登録されているキュー (bb....bb) を作成したキューファイルが組み込まれていません。

aa....aa : キューファイル名

bb....bb : キュー名

(S)MQA サービスを停止します (MQA サービスの開始処理中, または再開始時の場合)。
または, コマンド処理を終了します (コマンド処理中の場合)。

(O)メッセージが登録されているキューファイルを組み込んだあと, 再度実行してください。

KFCA31176-E

不正なメッセージがキューファイルに存在します。キューファイル名 = aa....aa キュー名 = bb....bb
理由コード = cc....cc 保守情報 = dd....dd

このメッセージは次のどちらかの場合に出力されます。

- MQA サービスの開始処理中, または再開始時
- オンラインコマンド処理中

aa....aa : キューファイル名

bb....bb : キュー名

cc....cc : 理由コード

- 01 : キューとキューファイル内メッセージ間のキュー生成時刻が一致しません。
- 02 : キューファイル内のメッセージがレコードを多く使用しています。
- 03 : キューファイル内のメッセージがレコードを少なく使用しています。
- 04 : キューファイル内のメッセージがレコードを重複して使用しています。

dd....dd : 保守情報

理由コード「01」～「04」の場合にはキューファイル内のエントリ NO.を出力します。

(S)MQA サービスを停止します (MQA サービスの開始処理中, または再開始時の場合)。
または, コマンド処理を終了します (オンラインコマンド処理中の場合)。

(O)キューファイルおよびジャーナルファイルを採取します。また, \$DCDIR/spool/shmdump_mq0x
ファイルがある場合, このファイルも採取してから OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 理由コードが「01」の場合は、エラーとなったキューファイルのキューファイルグループ構成を変更していないか見直して、正しい内容に変更して再度実行してください。

理由コードが「04」の場合は、OpenTP1 の強制終了後に強制正常開始をしていないか確認してください。

KFCA31177-E

MQA サービス専用共用メモリが確保できません。領域種別 = aa....aa 理由コード = bb....bb 要求メモリ量 = cc....cc 保守情報 = dd....dd

aa....aa : 確保に失敗した MQA サービス専用共用メモリの領域種別

fixed : MQA サービス専用共用メモリ固定領域

extended : MQA サービス専用共用メモリ拡張領域

bb....bb : 異常の内容を示す理由コード (トラブルシュート情報)

-149 : OpenTP1 の共用メモリにアタッチできませんでした。

-150 : 共用メモリの排他処理に失敗しました。

-151 : 共用メモリのページ固定化に失敗しました。

-152 : 共用メモリの管理テーブルが満杯で、確保した共用メモリを OpenTP1 に登録できませんでした。

-3351 : MQA サービス専用共用メモリで確保できる最大サイズを超えました。

-20012 : 利用できるデータ空間が、共用メモリプールを確保するのに十分な大きさではありません。

-20022 : 共用メモリ量が、システムで規定された上限値を超えました。

-20024 : アタッチされている共用メモリのセグメント数が、システムで規定されている許容最大共用メモリアタッチ数の限度を超えています。

-20028 : 共用メモリ識別子が、システムで規定されている許容最大共用メモリ識別子数の限度を超えています。

cc....cc : エラーが発生した場合の要求共用メモリ量 (単位 : バイト)

(異常の内容を示す理由コード bb....bb が -151, -20012, および -20022 の場合、有効な値です。それ以外の場合は、0 を出力します)

dd....dd : 共用メモリプールの確保要求者種別 (保守情報)

(異常の内容を示す理由コード bb....bb が -152 の場合、有効な値です。それ以外の場合は、***を出力します)

(S)処理を中断します。

(O)

- 異常の内容を示す理由コード bb....bb が -151 の場合、OS の実メモリ容量を見直してください。または、MQA サービス定義の mqa_pool_attri オペランドに free を設定してください。
- 異常の内容を示す理由コード bb....bb が -152 の場合

・ OpenTP1 全体で共用メモリ識別子数が 32 個以内^{*}に収まるよう、mqaquegrp -s の定義を見直してください。

・ 領域種別が extended の場合、一度 OpenTP1 を正常終了させたあと、組み込むキューファイルを MQA サービス定義に追加し OpenTP1 を正常開始させてください。

注※

1 個は TP1/Server Base が使用しています。

- ・ 異常の内容を示す理由コード bb....bb が-3351 の場合、MQA サービス専用の共用メモリの算出式を基にして構成を見直してください。
- ・ 異常の内容を示す理由コード bb....bb が-20012 の場合、共用メモリ使用量を見直してください。

【対策】 OpenTP1 管理者に連絡してください。OpenTP1 管理者は、システム、および TP1/Message Queue の定義を見直してください。

KFCA31178-W

MQA サービス専用共用メモリの拡張領域が確保できません。理由コード= aa....aa 要求メモリ量= bb....bb 保守情報=cc....cc

aa....aa : 異常の内容を示す理由コード (トラブルシュート情報)

- 149 : OpenTP1 の共用メモリにアタッチできませんでした。
- 150 : 共用メモリの排他処理に失敗しました。
- 151 : 共用メモリのページ固定化に失敗しました。
- 152 : 共用メモリの管理テーブルが満杯で、確保した共用メモリを OpenTP1 に登録できませんでした。
- 20012 : 利用できるデータ空間が、共用メモリプールを確保するのに十分な大きさではありません。
- 20022 : 共用メモリ量が、システムで規定された上限値を超えました。
- 20024 : アタッチされている共用メモリのセグメント数が、システムで規定されている許容最大共用メモリアタッチ数の限度を超えています。
- 20028 : 共用メモリ識別子が、システムで規定されている許容最大共用メモリ識別子数の限度を超えています。

bb....bb : エラーが発生した場合の要求共用メモリ量 (単位: バイト)

(異常の内容を示す理由コード aa....aa が-151, -20012, および-20022 の場合、有効な値です。それ以外の場合は、0 を出力します)

cc....cc : 共用メモリプールの確保要求者種別 (保守情報)

(異常の内容を示す理由コード aa....aa が-152 の場合、有効な値です。それ以外の場合は、***を出力します)

(S)MQA サービス専用共用メモリ拡張領域を確保しないで、処理を続行します。

(O)

- ・ 異常の内容を示す理由コード aa....aa が-151 の場合、OS の実メモリ容量を見直してください。

または、MQA サービス定義の mqa_pool_attri オペランドに free を設定してください。

- 異常の内容を示す理由コード aa....aa が-20012 の場合、共用メモリ使用量を見直してください。

【対策】 OpenTP1 管理者に連絡してください。OpenTP1 管理者は、システム、および TP1/Message Queue の定義を見直してください。

KFCA31179-E

MQA サービス専用共用メモリの拡張領域が不足したため、指定したキューファイルは組み込みません。残りメモリ量 = aa....aa 要求メモリ量 = bb....bb

aa....aa : MQA サービス専用共用メモリの拡張領域で使用できる残りメモリ量 (単位: バイト)

bb....bb : 指定したキューファイルの組み込みに必要なメモリ量 (単位: バイト)

MQA サービス専用共用メモリで確保できる最大サイズを超えた場合は 0 を出力します。

(S)処理を中断します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 MQA サービス専用共用メモリの拡張領域のサイズを見直し、MQA サービス定義の mqa_extend_rmshm_size オペランドの指定値を変更してください。

KFCA31180-E

MQA サービス専用共用メモリが参照できません。shmid = aa....aa 理由コード = bb....bb

MQA サービス専用共用メモリを確保できないため処理を中断します。

aa....aa : MQA サービス専用共用メモリプールの共用メモリ識別子

bb....bb : 理由コード

- 01 : 共用メモリ管理ファイルの参照に失敗しました。
- 02 : OpenTP1 の認識している共用メモリがありません。
- 03 : 共用メモリをアタッチできません。

(S)処理を中断します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

KFCA31181-E

コマンドに指定されたパラメタの値が誤っています。要求バッファサイズ = aa....aa

aa....aa : コマンドの実行に必要なバッファサイズ

(S)処理を中断します。

(O)要求バッファサイズ以上を指定して再度実行してください。

KFCA31182-E

バックアップファイル(aa....aa)のレコード長が OpenTP1 ファイルシステムのセクタ長の倍数でないためリストアできません。バックアップファイルのレコード長 = bb....bb OpenTP1 ファイルシステムのセクタ長 = cc....cc (E)

aa....aa : キューファイルの種別

.cnt : メッセージ情報管理ファイル

.msg : メッセージファイル

bb....bb : バックアップファイルのレコード長

cc....cc : OpenTP1 ファイルシステムのセクタ長

(S)処理を中断します。

(O)バックアップファイルのレコード長が OpenTP1 ファイルシステムのセクタ長の倍数になるように OpenTP1 ファイルシステムのセクタ長を見直して再度実行してください。

KFCA31183-E

定義ファイルで MQC リスナサーバ名を複数指定しています。

定義ファイル名 : aa....aa bb....bb 行目

aa....aa : エラーが発生した定義ファイル名

bb....bb : エラーが発生した行

(S)処理を中断します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 MQC リスナサーバ名を一つにし、再度実行してください。

KFCA31184-E

OpenTP1 ファイルシステムに対するグループのアクセス権がありません。

キューファイル名 : aa....aa 定義ファイル名 : bb....bb cc....cc 行目

aa....aa : キューファイル名

bb....bb : エラーが発生した定義ファイル名 (正常開始時以外は"****"を表示)

cc....cc : エラーが発生した行 (正常開始時以外は 0 を表示)

(S)主な処理を次に示します。

正常開始：OpenTP1 の起動に失敗します。

再開始：OpenTP1 の起動に失敗します。

キューファイルの組み込み：キューファイルの組み込みに失敗します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 キューファイルの OpenTP1 ファイルシステムのグループに対するアクセス権にリード・ライト権限を付与し、再度実行してください。

KFCA31185-W

ファイルチェックでエラーが発生しました。ファイル名 = aa....aa 理由コード = bb....bb

aa....aa：エラーになったキューファイル名

bb....bb：保守情報

(S)処理を続行します。

aa....aa で示すファイル名が、MQT トレースファイル、MQR トレースファイル、または TP1/Message Queue Access の回線トレースファイルである場合、ファイル通番 1 のトレースファイルが、オンライン開始後の最初書き込まれるトレースファイルになります。トレースファイル出力の処理は続行されます。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

KFCA31186-W

識別子 (aa....aa) を指定したキューファイルグループで使用する MQA サービス専用共用メモリを分割して確保しました。(E)

aa....aa：MQA サービス専用共用メモリプールの確保要求者識別子

(S)キューファイルグループ構成定義の-s オプションに確保要求者識別子を指定した、キューファイルグループの MQA サービス専用共用メモリを分割して確保します。開始処理は続行します。

KFCA31187-E

キューファイル (aa....aa) は一時的障害閉塞状態になりました。物理ファイル = bb....bb

aa....aa：一時的障害閉塞状態となったキューファイル名

bb....bb：一時的障害閉塞状態となった物理ファイル

cnt：メッセージ情報管理ファイル

msg：メッセージファイル

(S)キューファイルの状態を一時的障害閉塞状態にします。

(O)障害を取り除いたあと、mqarles コマンドで閉塞状態を解除してください。

KFCA31188-I

キューファイル (aa....aa) を正常状態に変更しました。

aa....aa : キューファイル名

(S)キューファイルの状態を正常にします。

KFCA31189-E

キューファイル (aa....aa) を正常状態に変更できませんでした。

aa....aa : キューファイル名

(S)処理を中断します。

(O)キューファイルの状態を確認した後、再度実行してください。

KFCA31190-E

指定したキューファイルは一時的障害閉塞ではありません。 (E)

(S)処理を中断します。

(O)一時的障害閉塞のキューファイル名を指定して、再度実行してください。

KFCA31191-E

キューファイル入出力エラーが発生したため、MQA サービスを終了します。

(S)MQA サービスを停止します。

(O)このメッセージの前に出力されるメッセージを基に原因を調査してください。

KFCA31192-E

キューファイル (aa....aa) の状態は一時的障害閉塞から障害閉塞に変更されました。

aa....aa : キューファイル名

(S)処理を続行します。

(O)キューファイルを再作成してください。

KFCA31193-I

キューファイル (aa....aa) で一時的障害閉塞状態からの書き込みに成功しました。

aa....aa : キューファイル名

(S)キューファイルの状態を、一時的障害閉塞 (CR) または一時的障害閉塞 (CR/M) にします。

(O)該当するキューファイルに対してメッセージ登録および取り出しを行う場合は、mqarles コマンドで一時的障害閉塞を解除してください。

KFCA31195-I

キューファイル (aa....aa) の一時的障害閉塞の解除が可能になりました。

aa....aa : キューファイル名

(S)キューファイルの状態を、一時的障害閉塞 (CR) または一時的障害閉塞 (CR/M) にします。

(O)該当するキューファイルに対してメッセージ登録および取り出しを行う場合は、mqarles コマンドで一時的障害閉塞を解除してください。

KFCA31199-I

使用方法 : mqafilinf [-h usage][-q キュー名 | -x] キューファイル名 (S)

(S)mqafilinf コマンドの使用方法を示します。

KFCA31204-E

キューマネージャ定義で指定した最大ハンドル数 (aa....aa) が不足しています。クラスタ機能を使用できないため処理を続行できません。要求最大ハンドル = bb....bb

aa....aa : キューマネージャ定義で指定した最大ハンドル数

bb....bb : クラスタ機能を使用するために必要な最大ハンドル数

(S)処理を中断します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 MQA サービス定義の mqaquemgr 定義コマンドで指定した最大ハンドル数を見直してください。必要に応じて正しい値を設定し、OpenTP1 を正常開始してください。

KFCA31205-I

継続情報が存在します。 (S)

(S)処理を続行します。

KFCA31209-E

共用メモリの大きさが 1945600 を超えています。

確保しようとした共用メモリのサイズが 1945600 キロバイトを超えています。

(S)MQA 開始処理を中止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 システム環境定義の `static_shmpool_size`, `dynamic_shmpool_size` の和が, 1945600 キロバイトを超えています。両定義の和が OpenTP1 の 1945600 キロバイトを超えないように再設定してください。

KFCA31210-E

`mqamqtnam` 定義コマンドの `-b` オプションの合計値が 120000000 を超えています。 (L + E)

定義されている `mqamqtnam` 定義コマンドの `-b` オプション (総バッチメッセージ数) の合計値が 120000000 を超えています。

(S)MQA 開始処理を中止します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 MQA サービス定義に定義されている `mqamqtnam` 定義コマンドの `-b` オプションの合計値が 120000000 以下となるように再設定してください。

KFCA31211-E

静的共用領域のメモリ不足で処理を続行できません。要求メモリ量=`aa....aa` (L + E)

`aa....aa` : エラーが発生した場合のメモリ量 (単位: キロバイト)

(S)処理を中断します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 静的共用領域のメモリ使用量を見直してください。

32 ビット版の TP1/Message Queue の全バージョン, および 64 ビット版の TP1/Message Queue 07-50 以前では, KFCA26185-E メッセージが出力されます。

KFCA31212-E

動的共用領域のメモリ不足で処理を続行できません。要求メモリ量=`aa....aa` (L + E)

`aa....aa` : エラーが発生した場合のメモリ量 (単位: キロバイト)

(S)処理を中断します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 動的共用領域のメモリ使用量を見直してください。

32 ビット版の TP1/Message Queue の全バージョン, および 64 ビット版の TP1/Message Queue 07-50 以前では, KFCA26186-E メッセージが出力されます。

KFCA31213-E

動的共用メモリが足りないため, 入出力バッファが確保できません。要求メモリ量=aa....aa (L + E)

aa....aa : エラーが発生した場合のメモリ量 (単位: キロバイト)

(S)処理を中断します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 システム環境定義の dynamic_shmpool_size 定義の指定値を大きくしたあと, 再度実行してください。または, mqainit コマンドで指定しているメッセージ長を小さくしたあと, 再度実行してください。または, MQA サービス定義の mqaquegrp 定義コマンドに指定した入出力バッファ数を小さくしたあと, 再度実行してください。

32 ビット版の TP1/Message Queue の全バージョン, および 64 ビット版の TP1/Message Queue 07-50 以前では, KFCA04223-E メッセージが出力されます。

KFCA31500-E

クラスタサービス起動に失敗しました。

(S)処理を中断します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 mqr sup と mqr spp が開始されているか確認してください。

MQA サービス定義で mqa_mqr_conf オペランドに Y が指定されているか確認してください。

KFCA31501-E

クラスタサービス起動待ち合わせでタイムアウトが発生しました。

(S)処理を中断します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 mqr sup のユーザーサービス定義の CLUSTSSTARTWAIT 値または CHAINFWAIT 値を見直し, 再度 mqr sup および mqr spp を開始してください。

KFCA31502-E

MQI でエラーが発生しました。関数名=aa....aa 理由コード= bb....bb 詳細情報=cc....cc

aa....aa : MQI 名

bb....bb : 理由コード

cc....cc : 詳細情報

(S)処理を中断します。

(O)cmqc.h または CMQV.cbl の MQI ヘッダファイルと、マニュアル「TP1/Message Queue プログラム作成リファレンス」から、理由コード (MQRC*) を調査し、処置してください。

KFCA31503-E

mqrsp 内の関数でエラーが発生したため、処理を続行できません。
理由コード= aa....aa 詳細情報= bb....bb

aa....aa : 理由コード

bb....bb : 詳細情報

(S)処理を中断します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 直前に出力されたメッセージがあればその指示に従ってください。
mqrsp が停止している場合は再度 mqrsp を開始してください。

KFCA31504-E

mqrsp 内の関数でエラーが発生したため、処理を続行できません。
理由コード= aa....aa 詳細情報= bb....bb

aa....aa : 理由コード

bb....bb : 詳細情報

(S)処理を中断します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 直前に出力されたメッセージがあればその指示に従ってください。
mqrsp が停止している場合は再度 mqrsp を開始してください。

KFCA31505-E

あて先 UUID が異なるシステムメッセージを受信しました。メッセージは破棄します。あて先 UUID : aa....aa 送信元 UUID : bb....bb

aa....aa : 宛先 UUID

bb....bb : 送信元 UUID

(S)処理を続行します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 送信元のキューマネージャを確認してください。

KFCA31506-E

事前定義クラスタセンダチャンネルのクラスタ名称が接続先クラスタレシーバチャンネルと異なります。チャンネル名称 : aa....aa クラスタ名称 : bb....bb

aa....aa : チャンネル名称

bb....bb : クラスタ名称

(S)処理を続行します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 事前定義クラスタセンダチャンネルまたは接続先クラスタレシーバチャンネルのクラスタ名称を修正してください。クラスタ名が一致している場合、事前定義クラスタセンダチャンネルの接続先がフルリポジトリであることを確認してください。

KFCA31507-E

不正なクラスタメッセージを受信しました。メッセージは破棄します。送信元 UUID : aa....aa メッセージ種別 : bb....bb 保守情報 1 : cc....cc 保守情報 2 : dd....dd

aa....aa : 送信元 UUID

bb....bb : メッセージ種別

cc....cc : モジュール ID (保守情報)

dd....dd : 詳細コード (保守情報)

(S)処理を続行します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

KFCA31508-E

MQR トレースでエラーが発生しました。トレース機能を縮退します。
保守情報 1 = aa....aa 保守情報 2 = bb....bb 保守情報 3 = cc....cc

aa....aa：関数名または変数名（保守情報）

bb....bb：理由コード（保守情報）

cc....cc：詳細コード（保守情報）

(S)MQR トレース処理を中断します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

KFCA31509-I

クラスタ (aa....aa) に参加しました。

aa....aa：クラスタ名称

(S)クラスタに参加します。

KFCA31510-E

不正なクラスタメッセージを受信しました。保守情報 1：aa....aa 保守情報 2：bb....bb

aa....aa：モジュール ID（保守情報）

bb....bb：詳細コード（保守情報）

(S)処理を続行します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

KFCA31511-E

MQR トレースの環境変数定義が不正です。トレース機能を縮退します。環境変数名：aa....aa

aa....aa：環境変数名

(S)MQR トレース処理を中断します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

KFCA31518-E

mqrsp 内の関数でエラーが発生しました。メッセージ送信経路の再設定処理を中断します。関数名 = aa....aa チャンネル名 = bb....bb 理由コード = cc....cc

aa....aa : 関数名

bb....bb : チャンネル名

cc....cc : 理由コード

(S)メッセージ送信経路の再設定処理を中断します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 mqrspg が停止している場合は再度 mqrspg を開始してください。

KFCA31519-E

参加クラスタ数をオーバーしました。参加クラスタ数 = aa....aa

aa....aa : 参加クラスタの最大数

(S)処理を中断します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 通信構成定義の事前定義クラスタセンダチャンネルを確認し、参加クラスタの最大数を超えないように定義を再作成し、OpenTP1 を再開してください。

KFCA31520-E

参加しようとしたクラスタに属する事前定義クラスタレシーバチャンネルがありません。クラスタ名称 : aa....aa

aa....aa : クラスタ名称

(S)処理を中断します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 事前定義クラスタセンダチャンネルに定義されたクラスタ名称を持つ事前定義クラスタレシーバチャンネルを通信構成定義に定義して再作成したあと、OpenTP1 を再開してください。

KFCA31522-E

クラスタサービス処理中にエラーが発生しました。保守情報 1 = aa....aa 保守情報 2 = bb....bb 保守情報 3 = cc....cc 保守情報 4 = dd....dd

aa....aa : 関数名 (保守情報)

bb....bb : 理由コード (保守情報)

cc....cc : モジュール ID (保守情報)

dd....dd : 詳細コード (保守情報)

(S) クラスタサービス処理を中断します。

(O) OpenTP1 管理者に連絡してください。

KFCA31523-E

mqr sup の環境変数定義が不正です。
環境変数名 : aa....aa 指定値 : bb....bb

aa....aa : 環境変数名

bb....bb : 指定値

(S) クラスタサービスを中断します。

(O) OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 mqr sup のリポジトリ管理サーバユーザサービス定義の環境変数定義を見直し、再度 mqr sup および mqr spp を開始してください。

KFCA31524-W

mqr sup の環境変数定義が不正です。省略値を設定し処理を続行します。
環境変数名 : aa....aa 指定値 : bb....bb 省略値 : cc....cc

aa....aa : 環境変数名

bb....bb : 指定値

cc....cc : 省略値

(S) 環境変数に省略値を設定し処理を続行します。

(O) OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 mqr sup のリポジトリ管理サーバユーザサービス定義の環境変数定義を見直してください。

KFCA31525-E

リポジトリ管理サーバのバージョンが誤っています。 (E)

(S) リポジトリ管理サーバの開始処理を中断します。

(O) OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 OpenTP1 の停止後、mqr make を実行し、再度 OpenTP1 を起動してください。

KFCA31526-I

リポジトリ管理サーバに処理を依頼しました。処理名 = aa....aa クラスタ名 = bb....bb

aa....aa : 処理名

REMOVE : mqrremove コマンドからの依頼

REMOVE-S : mqrremove コマンドからの依頼 (-s オプション指定時)

REFRESH : mqrrefresh コマンドからの依頼

bb....bb : クラスタ名称

(S)リポジトリ管理サーバへ処理を依頼しました。

KFCA31527-I

リポジトリ管理サーバで処理を実行しました。処理名 = aa....aa クラスタ名 = bb....bb

aa....aa : 処理名

REMOVE : mqrremove コマンドからの依頼

REMOVE-S : mqrremove コマンドからの依頼 (-s オプション指定時)

REFRESH : mqrrefresh コマンドからの依頼

bb....bb : クラスタ名称

(S)リポジトリ管理サーバで処理を実行しました。

KFCA31528-I

使用方法 : mqrrefresh [-h usage] [{ -f | [-m] [-t] }] {-c クラスタ名 |-a} (S)

(S)mqrrefresh コマンドの使用方法を示します。

KFCA31529-I

クラスタ (aa....aa) のリポジトリ情報再作成処理を終了しました。

aa....aa : クラスタ名称

(S)リポジトリ情報再作成処理が終了しました。

KFCA31530-E

リポジトリ管理サーバは指定したクラスタ (aa....aa) に参加していません。 (L + E)

aa....aa : クラスタ名称

(S)リポジトリ情報再作成処理またはクラスタからの脱退処理を中断します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 クラスタ名称を見直し、再度 mqrfresh コマンドまたは mqremove コマンドを実行してください。

KFCA31531-E

クラスタ (aa....aa) はリポジトリ情報再作成処理中です。 (L + E)

aa....aa : クラスタ名称

(S)リポジトリ情報再作成処理を中断します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 KFCA31529-I メッセージが出力された後、再度 mqrfresh コマンドを実行してください。

KFCA31532-I

使用方法 : mqremove [-h usage] [{-s|-q}] {-c クラスタ名|-a} (S)

(S)mqremove コマンドの使用方法を示します。

KFCA31533-I

フルリポジトリがパーシャルリポジトリになりました。クラスタ名称 = aa....aa UUID = bb....bb

aa....aa : クラスタ名称

bb....bb : パーシャルリポジトリになったキューマネージャの UUID

(S)クラスタ内のフルリポジトリがパーシャルリポジトリに変更になりました。

KFCA31534-I

パーシャルリポジトリがフルリポジトリになりました。クラスタ名称 = aa....aa UUID = bb....bb

aa....aa : クラスタ名称

bb....bb : フルリポジトリになったキューマネージャの UUID

(S)クラスタ内のパーシャルリポジトリがフルリポジトリに変更になりました。

KFCA31535-W

クラスタ内にフルリポジトリが存在しません。クラスタ名 = aa....aa

aa....aa : クラスタ名称

(S)処理を続行します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 クラスタにフルリポジトリを作成してください。

KFCA31536-E

リポジトリ管理サーバへの処理依頼に失敗しました。処理名 = aa....aa クラスタ名 = bb....bb 関数名 = cc....cc 理由コード = dd....dd

aa....aa : 処理名

REMOVE : mqrremove コマンドからの依頼

REMOVE-S : mqrremove コマンドからの依頼 (-s オプション指定時)

REFRESH : mqrrefresh コマンドからの依頼

bb....bb : クラスタ名称

cc....cc : エラー要因となった関数名

dd....dd : エラー要因となった関数の理由コード

(S)処理を中断します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 cmqc.h または CMQV.cbl の MQI ヘッダファイルと、マニュアル「TP1/Message Queue プログラム作成リファレンス」から理由コード (MQRC*) を調査し、処置してください。

KFCA31537-E

リポジトリ管理サーバは指定したクラスタ (aa....aa) から脱退していません。 (L + E)

aa....aa : クラスタ名称

(S)クラスタからの脱退解除処理を中断します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 クラスタ名称を見直し、再度 mqrremove コマンドを実行してください。

KFCA31538-E

指定したクラスタ (aa....aa) が誤っています。 (E)

aa....aa : クラスタ名称

(S)リポジトリ情報再作成処理またはクラスタからの脱退処理を中断します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 クラスタ名称を見直し、再度 mqrfresh コマンドまたは mqremove コマンドを発行してください。

KFCA31539-E

クラスタ (aa....aa) のリポジトリ情報再作成処理に失敗しました。理由コード= bb....bb

aa....aa : クラスタ名称

bb....bb : 理由コード

(S)リポジトリ情報再作成処理を中断します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 出力された理由コードに従って処置してください。

理由コード	意味	対策
1	クラスタ内にフルリポジトリが存在しません。	クラスタ内にフルリポジトリが存在することを確認して、再度 mqrfresh コマンドを実行してください。
2	事前定義クラスタセンダチャンネルの接続先がフルリポジトリではありません。	事前定義クラスタセンダチャンネルの接続先がフルリポジトリであることを確認してください。このメッセージの出力後、クラスタステータスは FALSE (クラスタ参加失敗) となります。この状態で、パーシャルリポジトリをフルリポジトリへ変更した場合はクラスタ参加できません。再度 -f オプションを指定して mqrfresh コマンドを実行してください。

KFCA31540-E

事前定義クラスタセンダチャンネルが存在しないため処理を続行できません。処理名= aa....aa クラスタ名= bb....bb

aa....aa : 処理名

REMOVE-S : mqremove コマンドからの依頼 (-s オプション指定時)

REFRESH : mqrfresh コマンドからの依頼

bb....bb : クラスタ名称

(S)処理を中断します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 OpenTP1 を正常終了し、事前定義クラスタセンダチャンネルを再作成してください。OpenTP1 開始後、再度 mqrfresh コマンドまたは mqremove コマンドを入力してください。

KFCA31544-I

リポジトリ情報の送信時間を通知します。情報種別 = aa....aa 情報名称 = bb....bb リポジトリ情報送信までの時間 = cc....cc

aa....aa : リポジトリ情報の種別

LOCAL MGR : ローカルキューマネージャ情報

リポジトリ情報を確認する場合は、mqrls コマンドに -u, -x, および -m オプションを同時に指定して実行してください。

LOCAL QUE : ローカルキュー情報

リポジトリ情報を確認する場合は、mqrls コマンドに -u, -x, および -q オプションを同時に指定して実行してください。

QUERY MGR : キューマネージャ問い合わせ情報

リポジトリ情報を確認する場合は、mqrls コマンドに -u, -x, および -t オプションを同時に指定して実行してください。

QUERY UUID : キューマネージャ識別子問い合わせ情報

リポジトリ情報を確認する場合は、mqrls コマンドに -u, -x, および -t オプションを同時に指定して実行してください。

QUERY QUE : キュー問い合わせ情報

リポジトリ情報を確認する場合は、mqrls コマンドに -u, -x, および -t オプションを同時に指定して実行してください。

SYSTEM : システム用問い合わせ情報

クラスタを構成するシステム制御用のシステムメッセージの問い合わせ情報です。

bb....bb : リポジトリ情報の名称

cc....cc : リポジトリ情報の送信までの時間 (単位: 秒)

(S)処理を続行します。

KFCA31545-I

リポジトリ情報が送信されました。情報種別 = aa....aa 情報名称 = bb....bb

aa....aa : リポジトリ情報の種別

LOCAL MGR : ローカルキューマネージャ情報

リポジトリ情報を確認する場合は、mqrls コマンドに -u, -x, および -m オプションを同時に指定して実行してください。

LOCAL QUE : ローカルキュー情報

リポジトリ情報を確認する場合は、mqrls コマンドに -u, -x, および -q オプションを同時に指定して実行してください。

QUERY MGR：キューマネージャ問い合わせ情報

リポジットリ情報を確認する場合は、mqrls コマンドに-u, -x, および-t オプションを同時に指定して実行してください。

QUERY UUID：キューマネージャ識別子問い合わせ情報

リポジットリ情報を確認する場合は、mqrls コマンドに-u, -x, および-t オプションを同時に指定して実行してください。

QUERY QUE：キュー問い合わせ情報

リポジットリ情報を確認する場合は、mqrls コマンドに-u, -x, および-t オプションを同時に指定して実行してください。

SYSTEM：システム用問い合わせ情報

クラスタを構成するシステム制御用のシステムメッセージの問い合わせ情報です。

bb....bb：リポジットリ情報の名称

(S)処理を続行します。

KFCA31546-W

リポジットリ情報が更新されていません。情報種別 = aa....aa

aa....aa：リポジットリ情報の種別

REMOTE MGR：クラスタキューマネージャ情報

リモートのキューマネージャに存在するクラスタレシーバチャンネル情報です。

リポジットリ情報を確認する場合は、mqrls コマンドに-u, -x, および-m オプションを同時に指定して実行してください。

REMOTE QUE：クラスタキュー情報

リモートのキューマネージャに存在するクラスタキュー情報です。

リポジットリ情報を確認する場合は mqrls コマンドに-u, -x, および-q オプションを同時に指定して実行してください。

(S)KFCA31547-W を出力します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

[対策] KFCA31547-W に示す対策をしてください。

KFCA31547-W

クラスタ名 = aa....aa キューマネージャ名 = bb....bb 情報名称 = cc....cc 保持期限 = dd....dd

aa....aa：クラスタ名 (1~48 文字の MQ 文字列)

bb....bb：キューマネージャ名 (1~48 文字の MQ 文字列)

cc....cc：リポジトリ情報の名称（チャンネル名またはキュー名）（1～48文字のMQ文字列）

dd....dd：リポジトリ情報の有効期限（曜日 月 日 時：分：秒 年（西暦））

出力例 Wed Mar 11 11:32:56 2020

次に示す情報の保持期間*が切れる期限が表示されます。

- クラスタキューマネージャ情報
リモートのキューマネージャに存在するクラスタレシーバチャンネル情報
- クラスタキュー情報
リモートのキューマネージャに存在するクラスタキュー情報

注※

リポジトリ情報を受信したときからローカルキューマネージャ上で削除されるまでの期間。

この期間は、フルリポジトリキューマネージャから通知された有効期間（最大 30 日）に 60 日の猶予期間を加えた合計値です。

(S)処理を続行します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 フルリポジトリキューマネージャと接続するチャンネル（クラスタセンダまたはクラスタレシーバ）の障害などの環境不正が発生し、定期的（30 日以内）に使用しているリポジトリ情報が更新されていません。

対策をしない場合、リポジトリ情報の保持期間が満了するとリポジトリ情報は使用できなくなり、MQOPEN 命令、MQPUT 命令、または MQPUT1 命令が失敗します。

リポジトリ情報を更新するために、次に示す対策をしてください。

- フルリポジトリキューマネージャと通信ができていないおそれがあるため、通信できる状態であることを確認し、クラスタセンダチャンネルおよびクラスタレシーバチャンネルを接続してください。
- 90 日以上 OpenTP1 を停止していた場合、クラスタから自キューマネージャが除去されることがあります。mqremove コマンドによってクラスタから脱退し、再度クラスタに参加してください。
- 何らかの原因で障害が発生しているおそれがあります。30 日以内に出力されたメッセージの対策を行い、障害原因を取り除いてください。

対策後、リポジトリ情報の更新状況を照会するコマンド（mqrls コマンドの-u オプション）を入力し、リポジトリ情報の保持期限が更新されたことを確認してください。リポジトリ情報が更新されるとメッセージは出力されなくなります。

対策をしても、定期的にメッセージが出力される場合やリポジトリ情報の保持期限が更新されずに削除されている場合は、マニュアル「TP1/Message Queue 使用の手引」の障害時に取得する情報についての記述を参照して、出力されている資料をすべて採取後、保守員に連絡してください。主に出力される資料を次に示します。

- メッセージログファイル
- コンソールメッセージ
- MQT トレースファイル

- MQR トレースファイル

また、OpenTP1 を長期間停止していた場合、OpenTP1 の開始時にメッセージが 1 度だけ出力されることがあります。この場合、リポジトリ管理サーバ (mqrsup) によってリポジトリ情報が更新されるため対策不要です。必要に応じて、リポジトリ情報の更新状況を照会するコマンド (mqrls コマンドの -u オプション) を入力し、リポジトリ情報の保持期限が更新されたことを確認してください。

KFCA31600-I

MQT マネージャプロセスを開始します。

(S)MQT 通信プロセスを開始します。

KFCA31601-I

MQT マネージャプロセスを再開します。

(S)MQT 通信プロセスを再開します。

KFCA31602-I

MQT マネージャサービスを開始しました。

(S)処理を続行します。

KFCA31603-I

MQT マネージャプロセスの終了要求を受け付けました。

(S)MQT 通信プロセスを終了します。

KFCA31604-I

MQT マネージャプロセスを終了します。

(S)MQT マネージャプロセスを終了します。

KFCA31605-E

ローカルメモリ不足が発生しました。要求メモリ量=aa....aa

aa....aa : 要求メモリ量 (単位: バイト)

(S)MQT マネージャプロセスを終了します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 MQT マネージャプロセスが動作できるようにメモリサイズを大きくしてください。

KFCA31606-E

メモリ不足が発生しました。

(S)MQT マネジャプロセスを終了します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 MQT マネジャプロセスが動作できるようにメモリサイズを大きくしてください。

KFCA31607-E

論理矛盾が発生しました。

保守情報 1=aa....aa

保守情報 2=bb....bb

保守情報 3=cc....cc

保守情報 4=dd....dd,ee....ee

aa....aa：モジュール ID（保守情報）

bb....bb：関数名称（保守情報）

cc....cc：リターンコード（保守情報）

dd....dd：ステータス（保守情報）

ee....ee：イベント（保守情報）

(S)MQT マネジャプロセスを終了します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 マニュアル「TP1/Message Queue 使用の手引」の障害時に取得する情報についての記述を参照して、出力されている資料をすべて採取後、保守員に連絡してください。

出力される主な資料を次に示します。

- メッセージログファイル
- コンソールメッセージ
- コマンド実行時の標準出力および標準エラー出力
- コアファイル (./core)
- MQT トレースファイル
- チャンネル管理情報格納ファイル

KFCA31608-E

障害が発生しました。
保守情報 1=aa....aa
保守情報 2=bb....bb
保守情報 3=cc....cc
保守情報 4=dd....dd,ee....ee

aa....aa：モジュール ID（保守情報）

bb....bb：関数名称（保守情報）

cc....cc：リターンコード（保守情報）

dd....dd：ステータス（保守情報）

ee....ee：イベント（保守情報）

(S)MQT マネジャプロセスを終了します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 リターンコードに従って処置してください。

リターンコード	意味	対策
-1804	MQT サービスの開始または終了に失敗しました。	このメッセージ以前に出力されたメッセージに従って処置してください。
上記以外	その他	マニュアル「TP1/Message Queue 使用の手引」の障害時に取得する情報を参照して、出力されている資料をすべて採取後、保守員に連絡してください。 出力される主な資料を次に示します。 <ul style="list-style-type: none">メッセージログファイルコンソールメッセージコマンド実行時の標準出力および標準エラー出力コアファイル (./core)MQT トレースファイルチャンネル管理情報格納ファイル

KFCA31609-E

障害が発生しました。処理を続行します。
保守情報 1=aa....aa
保守情報 2=bb....bb
保守情報 3=cc....cc

保守情報 4=dd....dd,ee....ee

aa....aa : モジュール ID (保守情報)

bb....bb : 関数名称 (保守情報)

cc....cc : リターンコード (保守情報)

dd....dd : ステータス (保守情報)

ee....ee : イベント (保守情報)

(S)MQT マネジャプロセスは処理を続行します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

[対策] このメッセージ以前に出力された KFCA316nn (n : 任意の整数) のメッセージに従って処置してください。

KFCA31610-E

共用メモリ不足が発生しました。

(S)処理を終了します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

[対策] 共用メモリサイズを大きくして再度開始してください。

KFCA31650-W

mmm 転送メッセージをデッドレターキューに登録できません。

チャンネル名=aa....aa : bbb メッセージ長=cc....cc 理由コード=dd 詳細コード
=ee....ee,ff....ff,gg....gg,hh....hh

mmm : MQT 識別子

aa....aa : チャンネル名

bbb : チャンネルタイプ

snd : センダ

csn : クラスタセンダ

srv : サーバ

cc....cc : 異常を検出したメッセージのメッセージ長 (単位 : バイト)

dd : 理由コード

ee....ee：異常を検出したメッセージの情報 1（16 進数の 4 バイト）

次に示す場合に有効な情報を出力します。それ以外の場合は 00000000 を出力します。

- 理由コードが 01 で、メッセージ長が 4 バイト以上の場合
- 理由コードが 02 で、メッセージ長が 432 バイト以上の場合
- 理由コードが 03 で、メッセージ長が 468 バイト以上の場合
- 理由コードが 04 で、メッセージ長が 464 バイト以上の場合
- 理由コードが 05 で、転送メッセージが配布リストではない状態で、メッセージ長が 432 バイト以上の場合
- 理由コードが 05 で、転送メッセージが配布リストであり、メッセージ長が 432 バイト + MQDH 構造体の StrucLength の値以上の場合

ff....ff：異常を検出したメッセージの情報 2（16 進数の 4 バイト）

次に示す場合に有効な情報を出力します。それ以外の場合は 00000000 を出力します。

- 理由コードが 01 で、メッセージ長が 8 バイト以上の場合
- 理由コードが 02 で、メッセージ長が 436 バイト以上の場合

gg....gg：保守情報（16 進数の 4 バイト）

hh....hh：異常を検出したメッセージの情報 3（16 進数の 4 バイト）

理由コードが 02 で、メッセージ長が 468 バイト以上の場合に有効な情報を出力します。それ以外の場合は 00000000 を出力します。

(S)送信側チャンネルが転送メッセージから異常を検出後、デッドレターキューに登録できなかった場合に、異常の詳細情報を出力し処理を続行します。ファーストメッセージの場合だけ出力されます。

【対策】 出力された理由コードに従って処置してください。

理由コード	意味	対策
00	メッセージ長が不正です。	KFCA31652-W で表示される登録アプリケーションおよびチャンネルの最大メッセージ長を見直してください。
01	MQXQH 構造体（転送キューヘッダ）の形式が不正です。	異常を検出したメッセージの情報 1 が 58514820 (XQH) になっているか確認してください。 58514820 (XQH) になっていない場合はリモートキューのローカル定義名で指定したキューに対してメッセージを登録するようにアプリケーションを変更するか、MQXQH 構造体の StrucId フィールドを正しく設定したメッセージを転送キューに登録するようにアプリケーションを変更してください。 異常を検出したメッセージの情報 2 が 00000001 (Windows の場合は 01000000) になっているかを確認してください。

理由コード	意味	対策
01	MQXQH 構造体 (転送キューヘッダ) の形式が不正です。	00000001 (Windows の場合は 01000000) になっていない場合はリモートキューのローカル定義名で指定したキューに対してメッセージを登録するようにアプリケーションを変更するか, MQXQH 構造体の Version フィールドを正しく設定したメッセージを転送キューに登録するようにアプリケーションを変更してください。
02	MQDH 構造体 (配布ヘッダ) の形式が不正です。	異常を検出したメッセージの情報 1 が 44822020 (DH) になっているか確認してください。44822020 (DH) になっていない場合は MQDH 構造体の StrucId フィールドを正しく設定したメッセージを転送キューに登録するようにアプリケーションを変更してください。
		異常を検出したメッセージの情報 2 が 00000001 (Windows の場合は 01000000) になっているか確認してください。00000001 (Windows の場合は 01000000) になっていない場合は MQDH 構造体の Version フィールドを正しく設定したメッセージを転送キューに登録するようにアプリケーションを変更してください。
		異常を検出したメッセージの情報 3 が MQDH 構造体の RecsPresent 値として正しいか確認してください。正しくない場合は正しい形式の MQDH 構造体を付けたメッセージを転送キューに登録するようにアプリケーションを変更してください。
03	MQOR 構造体 (オブジェクトレコード) の形式が不正です。	異常を検出したメッセージの情報 1 が MQDH 構造体の RecsPresent 値として正しいか確認してください。正しくない場合は正しい形式の MQDH 構造体を付けたメッセージを転送キューに登録するようにアプリケーションを変更してください。
04	MQPMR 構造体 (登録メッセージレコード) の形式が不正です。	異常を検出したメッセージの情報 1 が MQDH 構造体の PutMsgRecFields 値として正しいか確認してください。正しくない場合は正しい形式の MQDH 構造体を付けたメッセージを転送キューに登録するようにアプリケーションを変更してください。
05	MQMDE 構造体 (メッセージ記述子の拡張) の形式が不正です。	異常を検出したメッセージの情報 1 が 4d444520 (MDE) になっているか確認してください。4d444520 (MDE) になっていない場合は MQMDE 構造体の StrucId フィールドを正しく設定したメッセージを転送キューに登録するようにアプリケーションを変更してください。
06	データ変換に失敗しました。	アプリケーションで指定する文字セット識別子 (MQMD 構造体の CodedCharSetId フィールド) と, 変換後 CCSID (mqtalcccha 定義コマンドの -d cnvccsid オペランド) の組み合わせが正しいかどうか

理由コード	意味	対策
06	データ変換に失敗しました。	かを確認してください。確認する際には、マニュアル「TP1/Message Queue プログラム作成リファレンス」の文字セット識別子一覧についての記載を参照してください。
07	配布リストを送信できません。	相手システムで配布リスト機能をサポートしているか確認してください。 自システムのバッファ方式 (mqtalcccha 定義コマンドの-g buftype オペランド) をメッセージ方式に変更してください。

KFCA31651-W

mmm チャンネル名=aa....aa : bbb メッセージ識別子= cc....cc 相関識別子= dd....dd

mmm : MQT 識別子

aa....aa : チャンネル名

bbb : チャンネルタイプ

snd : センダ

csn : クラスタセンダ

srv : サーバ

cc....cc : 異常を検出したメッセージのメッセージ識別子 (16 進数)

KFCA31650-W の理由コードが 01 の場合は、0 を 24 バイト分出力します。

dd....dd : 異常を検出したメッセージの相関識別子 (16 進数)

KFCA31650-W の理由コードが 01 の場合は、0 を 24 バイト分出力します。

(S)送信側チャンネルが転送メッセージから異常を検出後、デッドレターキューに登録できなかった場合に、異常の詳細情報を出力し処理を続行します。ファーストメッセージの場合だけ出力されます。

(O)直前に出力されている、同一 MQT 識別子の KFCA31650-W の理由コードに従って処置してください。

KFCA31652-W

mmm チャンネル名=aa....aa : bbb 登録アプリケーション名=cc....cc 登録日付=ddddddddd 登録時刻
=eeeeeeee

mmm : MQT 識別子

aa....aa : チャンネル名

bbb : チャンネルタイプ

snd : センダ

csn：クラスタセンダ

srv：サーバ

cc....cc：異常を検出したメッセージを登録したアプリケーション名

dddddddd：異常を検出したメッセージの登録日付

YYYYMMDD の形式で出力します。

YYYY：年（4けたの10進数）

MM：月（01～12の10進数）

DD：日（01～31の10進数）

eeeeeeee：異常を検出したメッセージの登録時刻

グリニッジ標準時（GMT）を HHMMSSSTH の形式で出力します。

HH：時（00～23の10進数）

MM：分（00～59の10進数）

SS：秒（00～59の10進数）

T：1/10秒（0～9の10進数）

H：1/100秒（0～9の10進数）

(S)送信側チャンネルが転送メッセージから異常を検出後、デッドレターキューに登録できなかった場合に、異常の詳細情報を出力し処理を続行します。ファーストメッセージの場合だけ出力されます。

(O)直前に出力されている、同一MQT識別子のKFCA31650-Wの理由コードに従って処置してください。

KFCA31900-W

mmm MQT サービス終了時にチャンネル管理情報格納ファイルの書き込みが行われていません。
ファイル名 = aa....aa

mmm：MQT 識別子

aa....aa：チャンネル管理情報格納ファイル名

(S)処理を続行します。

KFCA31901-E

mmm チャンネル管理情報格納ファイルに異常が発生しました。
ファイル名 = aa....aa

mmm：MQT 識別子

aa....aa：チャンネル管理情報格納ファイルパス名

(S)処理を続行します。

ただし、MQA サービス定義に指定したすべてのチャンネル管理情報格納ファイルが使用できない場合は、MQT 通信プロセスを終了します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 MQA サービス定義に指定したチャンネル管理情報格納ファイルが破壊されているか、指定が誤っています。MQA 通信サービス定義のチャンネル管理情報格納ファイル名を確認してください。

ファイルが破壊されている場合は該当ファイルを削除してください。

KFCA31902-E

チャンネル管理情報格納ファイル名の文字数が定義で指定できる値を超えています。

(S)MQT 通信プロセスを終了します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 MQA サービス定義に指定したチャンネル管理情報格納ファイル名を次に示す点について確認し、再度実行してください。

- 通常ファイルを使用する場合
ファイルパス名に 80 文字を超える名称を指定していないか。
- OpenTP1 ファイルシステムを使用する場合
ファイルパス名に 63 文字を超える名称を指定していないか。
ファイル名に 14 文字を超える名称を指定していないか。

KFCA31903-W

mmm 前回のオンライン中のチャンネル管理情報を引き継ぐ事ができません。

mmm : MQT 識別子

(S)処理を続行します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 前回のオンラインでのチャンネル管理情報は無効です。接続相手システムのチャンネルとシーケンス番号不一致となる可能性があります。あらかじめ mqtrstcha コマンドでシーケンス番号を合わせてください。

また、メッセージの二重送信、および欠落の可能性があります。

KFCA31904-E

mmm チャンネル管理情報格納ファイルに対するアクセス権がありません。

ファイル名 = aa....aa

mmm : MQT 識別子

aa....aa : チャンネル管理情報格納ファイル名

(S)処理を続行します。

ただし、MQA サービス定義に指定したすべてのチャンネル管理情報格納ファイルが使用できない場合は、MQT 通信プロセスを終了します。

(O)チャンネル管理情報格納ファイルのアクセス権を変更してください。

KFCA31905-W

mmm 指定したチャンネル管理情報格納ファイルは存在しません。

ファイル名 = aa....aa

mmm : MQT 識別子

aa....aa : チャンネル管理情報格納ファイル名

(S)処理を続行します。

KFCA31906-E

mmm チャンネル管理情報格納ファイル名が誤っています。

ファイル名 = aa....aa

mmm : MQT 識別子

aa....aa : チャンネル管理情報格納ファイル名

(S)処理を続行します。

ただし、MQA サービス定義に指定したすべてのチャンネル管理情報格納ファイルが使用できない場合、または定義文法がエラーの場合は、MQT 通信プロセスを終了します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 MQA サービス定義に指定したチャンネル管理情報格納ファイル名を見直して、再度実行してください。

KFCA31907-E

mmm チャンネル管理情報を書き込むファイル容量が不足しています。

ファイル名 = aa....aa

mmm : MQT 識別子

aa....aa : チャンネル管理情報格納ファイル名

(S)処理を続行します。

ただし、MQA サービス定義に指定したすべてのチャンネル管理情報格納ファイルが使用できない場合は、MQT 通信プロセスを終了します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 MQA サービス定義のチャンネル管理情報格納ファイル名に、チャンネル管理情報を書き込める十分なファイルスペースのあるファイルパス名を指定して、再度正常開始してください。

KFCA31908-E

```
mmm チャンネル管理情報格納ファイルのデータ入出力中にエラーが発生しました。  
ファイル名 = aa....aa 保守情報 1 = bb
```

mmm : MQT 識別子

aa....aa : チャンネル管理情報格納ファイル名

bb : リターンコード (保守情報)

(S)処理を続行します。

ただし、MQA サービス定義に指定したすべてのチャンネル管理情報格納ファイルが使用できない場合は、MQT 通信プロセスを終了します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 ディスク装置の状態を確認したあと、マニュアル「TP1/Message Queue 使用の手引」の障害時に取得する情報についての記述を参照して、出力されている資料をすべて採取後、保守員に連絡してください。出力される主な資料を次に示します。

- メッセージログファイル
- コンソールメッセージ
- コマンド実行時の標準出力および標準エラー出力
- コアファイル (./core)
- MQT トレースファイル
- チャンネル管理情報格納ファイル

KFCA31909-E

```
mmm メッセージ送達確認状態=未確認のチャンネルが存在するためバッチサイズの変更ができません。  
チャンネル名=aa....aa : bbb 旧バッチサイズ= cc....cc 新バッチサイズ= dd....dd
```

mmm : MQT 識別子

aa....aa : チャンネル名

bbb : チャネルタイプ
snd : センダ
srv : サーバ
csn : クラスタセンダ

cc....cc : 旧バッチサイズ

dd....dd : 新バッチサイズ

(S)MQT 通信プロセスを終了します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 メッセージ送達確認状態が未確認の間は、バッチサイズを小さくできません。新バッチサイズが旧バッチサイズ以上となるよう定義を変更してください。バッチサイズを小さくする場合は、MQT サービス開始後にメッセージ送達確認状態の未確認を解決してから変更してください。

KFCA31910-E

```
mmm MQ 管理機能インタフェースでエラーが発生しました。  
チャンネル名 = aa....aa:bbb 理由コード = cc....cc  
保守情報 1 = dd....dd 保守情報 2 = ee....ee  
相手キューマネージャ名 = ff....ff
```

mmm : MQT 識別子

aa....aa : チャンネル名 (チャンネルを特定しない場合は****を出力します)

bbb : チャネルタイプ
snd : センダ
srv : サーバ
rcv : レシーバ
req : リクエスト
csn : クラスタセンダ
crc : クラスタレシーバ
(チャンネルを特定しない場合は***を出力します)

cc....cc : 理由コード

dd....dd : 内部関数名 (保守情報)

ee....ee : エラー詳細コード

ff...ff：相手キューマネージャ名

相手キューマネージャ名が特定できない場合は****を出力します。また、33バイト以降は...を出力します。

(S)MQT 通信プロセスは MQ 管理機能とのインタフェースを縮退して処理を続行します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 出力された理由コードに従って対策してください。

理由コード (16 進)	エラー詳細コード (16 進)	意味	対策
00000001	errno の値	共用メモリの操作、またはセマフォの操作に失敗しました。	エラー詳細コードの値を OS 提供のヘッダファイル (errno.h) で確認し、対策してから TP1/Message Queue を再度開始してください。
00000002	errno の値	MQ 管理情報ファイルへのアクセスに失敗しました。	エラー詳細コードの値を OS 提供のヘッダファイル (errno.h) で確認し、対策してから TP1/Message Queue を再度開始してください。
00000003	errno の値	コマンド起動に失敗しました。 Cm2 (Consolidated Management 2) のトラップ送信コマンド (snmptrap) の起動に失敗しました。	エラー詳細コードの値を OS 提供のヘッダファイル (errno.h) で確認するとともに、ESA (JP1/Cm2/Extensible SNMP Agent) の状態を確認し、対策してから TP1/Message Queue を再度開始してください。
00000005	要求メモリ量 (単位：バイト)	ローカルメモリが不足しています。	TP1/Message Queue の各プロセスで使用できるローカルメモリ量を確認して、TP1/Message Queue を再度開始してください。
00000006	00000000	ユーザ名の取得時にエラーが発生しました。 /etc/passwd ファイルから TP1/Message Queue を開始しているユーザが参照できません。	/etc/passwd ファイルに TP1/Message Queue を起動しているユーザ名が登録されているかを確認し、TP1/Message Queue を再度開始してください。
00000007	errno の値	エージェントメッセージキュー構成定義ファイルへのアクセスに失敗しました。	エラー詳細コードの値を OS 提供のヘッダファイル (errno.h) で確認し、対策してから TP1/Message Queue を再度開始してください。
00000008	00000001	エージェントメッセージキュー構成定義ファイルの 1 行の長さが 80 文字を超えています。	エージェントメッセージキュー構成定義ファイルの内容を見直して、TP1/Message Queue を再度開始してください。
	00000002	エージェントメッセージキュー構成定義ファイルに、キューマネージャ識別子が定義されていません。	

理由コード (16進)	エラー詳細コード (16進)	意味	対策
00000008	00000003	エージェントメッセージキュー構成定義ファイルに指定したキューマネージャ識別子が2けたになっていません。	エージェントメッセージキュー構成定義ファイルの内容を見直して、TP1/Message Queue を再度開始してください。
	00000004	エージェントメッセージキュー構成定義ファイルに指定したキューマネージャ名が48文字を超えています。	
	00000005	エージェントメッセージキュー構成定義ファイルに指定したキューマネージャ名が重複しています。	
	00000006	エージェントメッセージキュー構成定義ファイルに指定したキューマネージャ識別子が重複しています。	
	00000007	エージェントメッセージキュー構成定義ファイルのキューマネージャ識別子の指定値が不正です。	
	00000008	MQA サービス定義の mqaquemgr 定義コマンドで指定したキューマネージャ名と一致する定義が、エージェントメッセージキュー構成定義ファイルの内容から見つかりません。	
00000009	—	TP1/Message Queue のバージョンに対応した Message Queue - Operation - Agent が正常にインストールされていません。	TP1/Message Queue のバージョンに対応した Message Queue - Operation - Agent をインストールしてください。
0000000a	errno の値	エージェントメッセージキュー環境定義ファイルへのアクセスに失敗しました。	エラー詳細コードの値を OS 提供のヘッダファイル (errno.h) で確認し、対策してから TP1/Message Queue を再度開始してください。
0000000b	00000001	エージェントメッセージキュー環境定義ファイルの1行の長さが80文字を超えています。	エージェントメッセージキュー環境定義ファイルの内容を見直して、TP1/Message Queue を再度開始してください。
	00000002	エージェントメッセージキュー環境定義ファイルのエージェント物理 IP アドレスの指定値が不正です。	
	00000003	エージェントメッセージキュー環境定義ファイルのエージェント論理 IP アドレスの指定値が不正です。	
	000000ff	その他のエラーです。	

(凡例)

— : 該当しません。

KFCA31920-I

入力形式：mqtdmped -i スナップダンプファイル名 [-n チャンネル名] [-q 相手キューマネージャ名] [-k テーブル種別] (S)

(S)mqtdmped コマンドの使用方法を示します。

KFCA31921-E

MQT スナップダンプファイルの編集集中に入出力障害が発生しました。
ファイル名 = aa....aa 保守情報 1 = bb....bb 保守情報 2 = cc....cc (E)

aa....aa : スナップダンプファイル名

bb....bb : 保守情報

cc....cc : 保守情報

(S)コマンド処理を終了します。

(O)スナップダンプファイルの格納されているディスク装置の状態を確認してください。

KFCA31922-E

MQT スナップダンプファイルに対するアクセス権がありません。
ファイル名 = aa....aa (E)

aa....aa : スナップダンプファイル名

(S)コマンド処理を終了します。

(O)コマンドを実行したユーザとスナップダンプファイルのアクセス権限を確認してください。

KFCA31923-E

指定した MQT スナップダンプファイルは存在しません。
ファイル名 = aa....aa (E)

aa....aa : スナップダンプファイル名

(S)コマンド処理を終了します。

(O)スナップダンプファイルが格納されているディレクトリを確認してください。

KFCA31924-E

MQT スナップダンプファイルに異常が発生しました。

ファイル名 = aa....aa 保守情報 1 = bb....bb (E)

aa....aa : スナップダンプファイル名

bb....bb : 保守情報

(S) コマンド処理を終了します。

(O) コマンドに指定したスナップダンプファイル名を確認し、再度実行してください。

KFCA31930-I

相手キューマネージャ名 = aa....aa (S)

aa....aa : 相手キューマネージャ名

(S) 相手キューマネージャ名を出力し、処理を続行します。

相手キューマネージャ名が特定できない場合、****を出力します。

KFCA31931-I

定義種別 = aa....aa (S)

aa....aa : 定義種別

MANLINST :

MQT 通信構成定義で指定されたクラスタレシーバ以外のチャンネル

AUTOINST :

リポジトリ情報によって自動的に作成されたクラスタセンダチャンネル

INSTMODL :

MQT 通信構成定義で指定されたクラスタレシーバチャンネルの属性

MULTINST :

INSTMODL によって作成されたクラスタレシーバチャンネルのインスタンス

(S) チャンネルの定義種別を出力し、処理を続行します。

KFCA31932-I

経路再設定中 = aaa (S)

aaa : 経路再設定状態

YES : メッセージ送信経路の再設定処理をしています。

NO : メッセージ送信経路の再設定処理はしていません。

(S) 経路再設定状態を出力し、処理を続行します。

KFCA31933-I

短期確立再試行回数の残数 = aa....aa 長期確立再試行回数の残数 = bb....bb (S)

aa....aa : 短期確立再試行回数の残数

bb....bb : 長期確立再試行回数の残数

(S)確立再試行回数の残数を出力し、処理を続行します。

KFCA31934-I

クラスタ名 = aa....aa (S)

aa....aa : クラスタ名

(S)参加しているクラスタ名を表示し、処理を続行します。

KFCA31935-I

YYYY/MM/DD-hh:mm:ss 以降の転送メッセージ総数 = aa....aa (S)

YYYY/MM/DD : MQT サービス開始後、1 回目の MCA 開始年月日

(MCA を開始していない場合は、MQT サービス開始年月日)

hh:mm:ss : MQT サービス開始後、1 回目の MCA 開始時刻

(MCA を開始していない場合は、MQT サービス開始時刻)

aa....aa : MQT サービス開始後に転送が完了したメッセージの数

(2147483647 の次は 1 に戻ります)

(S)処理を続行します。

KFCA31936-I

自システム = (aa....aa, bb....bb) (S)

aa....aa : 自システムの IP アドレス

bb....bb : 自システムのポート番号

(S)処理を続行します。

KFCA31941-E

チャンネル管理情報格納ファイル入出力形式の指定に誤りがあります。

(S)MQT 通信プロセスを終了します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 MQA サービス定義に指定したチャンネル管理情報格納ファイル入出力形式を見直して、再度実行してください。

KFCA31942-E

mmm チャンネル管理情報格納ファイルのバージョンが異なります。
ファイル名 = aa....aa

mmm : MQT 識別子

aa....aa : チャンネル管理情報格納ファイルパス名

(S)処理を続行します。

ただし、MQA サービス定義に指定したすべてのチャンネル管理情報格納ファイルが使用できない場合は、MQT 通信プロセスを終了します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 MQA サービス定義に指定したチャンネル管理情報格納ファイルのバージョンが異なっているため、該当ファイルからチャンネル情報を回復できません。該当ファイルを削除するか別のファイル名を指定してください。

KFCA31943-E

mmm OpenTP1 ファイルのアクセスに失敗しました。
OpenTP1 ファイル名 = aa....aa 理由コード = bb....bb 関数名 = cc....cc

mmm : MQT 識別子

aa....aa : アクセスに失敗した OpenTP1 ファイル名

bb....bb : 理由コード

cc....cc : 関数名 (保守情報)

(S)処理を続行します。

ただし、MQA サービス定義に指定したすべてのチャンネル管理情報格納ファイルで異常が発生した場合は、MQT 通信プロセスを終了します。

(O)OpenTP1 管理者に連絡してください。

【対策】 理由コードに従って処置してください。

理由コード	意味	対策
-1533	OpenTP1 ファイルシステムが初期化されていません。	OpenTP1 ファイルシステムを初期化して、再度実行してください。
-1537	OpenTP1 ファイルシステム上に作成できるファイル数の上限を超えました。	OpenTP1 ファイルシステム内の未使用ファイルを削除するか、最大ファイル数を大きくした OpenTP1 ファイルシステムを初期化して、再度実行してください。
-1538	OpenTP1 ファイルシステムのバージョンが不一致です。	OpenTP1 ファイルシステムを初期化して、再度実行してください。
-1561	オープンで上限値オーバが報告されました。	OS の環境を再設定して、再度実行してください。または、未使用のキャラクタ型スペシャルファイルをクローズして、再度実行してください。
-1563	OpenTP1 ファイルシステムに対するアクセス権がありません。	OpenTP1 ファイルシステムのアクセス権を変更して、再度実行してください。
-1564	OpenTP1 ファイルに対するアクセス権がありません。	OpenTP1 ファイルのアクセス権を変更して、再度実行してください。
上記以外	その他	マニュアル「TP1/Message Queue 使用の手引」の障害時に取得する情報についての記述を参照して、出力されている資料をすべて採取後、保守員に連絡してください。出力される主な資料を次に示します。 <ul style="list-style-type: none">• メッセージログファイル• コンソールメッセージ• コマンド実行時の標準出力および標準エラー出力• コアファイル (./core)• MQT トレースファイル• チャンネル管理情報格納ファイル

KFCA31946-I

入力形式：mqtswptrc [-s MQT 通信プロセス識別子] (S)

(S)mqtswptrc コマンドの使用方法を示します。

KFCA31947-I

入力形式：mqststatrc [-s MQT 通信プロセス識別子] (S)

(S)mqststatrc コマンドの使用方法を示します。

KFCA31948-I

入力形式：mqststptrc [-s MQT 通信プロセス識別子] (S)

(S)mqtstptrc コマンドの使用方を示します。

KFCA31949-I

```
入力形式：mqttd -i MQT トレースファイル名 [{-k 出力情報種別 [,出力情報種別] | -p}]  
[-t 開始日時 [,終了日時]] [-n チャンネル名 [,チャンネル名]]  
[-q 相手キューマネージャ名 [,相手キューマネージャ名]]  
[-c クラスタ名 [,クラスタ名]] (S)
```

(S)mqttd コマンドの使用方を示します。